平成２８年度　生活困窮者就労準備支援事業費等補助金

社会福祉推進事業

介護分野の技能実習生の
日本語学習方法及び学習教材等の調査開発事業
報告書

公益社団法人　国際厚生事業団

平成２９年（２０１７）３月

目　次

Ⅰ　調査開発事業の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

1. 目的　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2. 事業内容　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

3. 各成果物の検討内容等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

Ⅱ　成果物

1. 実習実施機関の日本語学習支援担当者向けの手引き・・・・・・・・・・ 19

2. 入国後の日本語学習補助 Web コンテンツ（仕様書概要）・・・・・・・・133

3. 入国前の日本語学習補助 Web コンテンツ（仕様書概要）・・・・・・・・143

4.「介護の日本語」テキスト・サンプル（学習語彙・声かけ表現リスト等）
・・・・・・149

調査開発事業の概要

1　目的

技能実習法案が成立し、対象職種に介護が追加される場合、介護の技能実習生については、介護サービスの質の確保の観点から、入国時に日本語能力Ｎ４程度、２年目以降に日本語能力Ｎ３程度を求めることが予定されており、実習受入施設においては適切な日本語教育の実施が求められる[1]。

本事業では、介護の技能実習生を希望する外国人（Ｎ４程度）が、来日後に日本語能力Ｎ３程度を習得しやすくできるように来日前から必要な日本語能力を身に付けるため、また、来日後は、実習受入施設にて実習をしながら１年間で日本語能力Ｎ３程度を習得できるようにするため、Ｅラーニング等の学習システムの活用を想定した効果的な日本語学習が行えるように、必要な学習ツールを開発することを目的とした。

2　事業内容

１．検討会の設置、開催

①目的

本事業の方針、調査内容・方法の検討、調査結果等の検証及び成果物の作成方針を検討した。作業部会が制作した成果物の検証等を行った。

また、検討会において、外国人介護人材の日本語学習支援を実施している団体や、既存の技能実習制度における監理団体からのヒアリングも行った。

②検討会メンバー（五十音順、敬称略、◎：座長）

- 遠藤　由美子　アークアカデミー　校長
- 岡田　温　　医療法人財団　善常会　老健シルピス大磯　理事長
- 白井 孝子　　学校法人　滋慶学園　東京福祉専門学校副学校長（◎）
- 角田　隆　　公益社団法人　国際厚生事業団　専務理事
- 平畑　奈美　国立大学法人　滋賀大学教育学部国際センター准教授
- 藤谷　寿子　株式会社　三修社　取締役
- 益城　妃富　社会福祉法人　青森社会福祉振興団人材部長

---

[1] 「外国人介護人材受入れの在り方に関する検討会中間とりまとめ（平成 27 年 10 月）」において、コミュニケーション能力については『１年目(入国時)は、業務の到達水準として「指示の下であれば、決められた手順等に従って、基本的な介護を実践できるレベル」を想定することから、「基本的な日本語を理解することができる」水準である「Ｎ４」程度を要件として課し、さらに、「Ｎ３」程度を望ましい水準として、個々の事業者や実習生の自主的な努力を求め、２年目の業務への円滑な移行を図ることとする。また、実習２年目（２号）については、到達水準として「指示の下であれば、利用者の心身の状況に応じた介護を一定程度実践できるレベル」を想定することから、「Ｎ３」程度を２号移行時の要件とする。』とされている。

③実施回数　年５回　（開催概要は参考１を参照）

２．作業部会の設置、開催

①目的

日本語教育専門家、学習システム専門家が一堂に会し、検討会において決定した事業方針や各種調査結果等に基づき、日本語学習ツール（学習ガイド、学習教材等のコンテンツ等）を制作することを目的とした。

②作業部会メンバー（五十音順、敬称略）

・酒井　千香子　（株）アークアカデミー　研修事業部
・長谷川　悟司　（株）アークアカデミー　研修事業部主任
（日本語教師養成科担当）
・根岸　美和　　（株）アークアカデミー　研修事業部（日本語科担当）
・前澤　由紀子　（株）アークアカデミー　研修事業部
（日本語教師養成科担当）
・安田　第祐　　インタークリエイティブネットワーク　代表

③実施回数　年７回（開催概要は参考２を参照）

３．関係団体からのヒアリングの実施

①目的

日本語学習ツールを開発するに当たり、EPA 候補者等の外国人の日本語教育に知見のある者を検討会に招致し、外国人の日本語教育の留意点等や本事業で策定する日本語学習ツールへの参考意見をヒアリングすることを目的とした。

②ヒアリング対象者（３団体）

	実施日（平成 28 年）	団体名
1	９月１５日（木）	一般財団法人　海外産業人材育成協会
2	同上	公益社団法人 日本・インドネシア経済協力事業協会
3	１０月２８日（金）	国際交流基金

４．ＥＰＡ介護福祉士等の日本語学習の経験等に関する調査の実施

（１）就労開始後にＮ３を取得した EPA 介護福祉士候補者受入れ施設に対する

調査（アンケート調査）の実施

①調査目的

日本語学習ツールの策定に当たっての基礎資料を得るため、EPA で来日した介護福祉士候補者で就労開始後にＮ３を取得した候補者及び受入れ施設研修責任者に対して、Ｎ３取得までの学習の取組み状況（学習時間、教材、苦労した点等）の調査をアンケート形式で実施した。

②調査対象

平成２６年度までに来日したフィリピン人・インドネシア人 EPA 介護福祉士候補者で就労開始後にＮ３を取得した就労中の者（１９１名）及び受入れ施設（１０９施設）の研修責任者（※平成２７年度候補者については、就労開始から１年未満であることから対象外とした。）

③調査方法／調査内容

調査方法は、候補者及び研修責任者に対して質問票を郵送し、その回答の集計等を行った。

調査内容は以下の通り。

＜研修責任者向け＞

①Ｎ３取得までの施設側での日本語学習支援
②0JT 以外で日本語に触れる機会の作り方
③候補者の日本語学習の習得状況の評価方法
④N３取得のための日本語学習で役に立った教材（教材名、理由、活用方法）
⑤日本語教育担当者及び候補者の N３取得のための日本語学習上のモチベーションの維持の工夫
⑥N３取得のための日本語学習支援で役立った支援等
⑦N３取得のための日本語学習支援で苦労した点
⑧話す・聞く能力を伸ばすための介護業務上の日本語学習支援の工夫、等

＜Ｎ３取得候補者向け＞

①Ｎ３取得までの本人の学習方法、学習時間
②Ｎ３取得学習で役に立った教材（教材名、理由、活用方法）
③Ｎ３取得までに苦労した点
④Ｎ３学習上の弱点分野及び弱点分野の克服方法

⑤候補者本人のモチベーションの維持方法
⑥就労１年目の介護業務上で苦労した点、等

④調査期間
平成２８年１０月５日（水）～１０月２８日（金）

⑤回答数
・EPA 介護福祉士候補者　１９１名中１００名　（回答率　52.4%）
・受入れ施設研修責任者　１０９施設中６９施設（回答率　63.3%）

（２）EPA 介護福祉士の介護業務上のコミュニケーション課題に係る調査（アンケート調査）の実施

①調査目的
「受入施設日本語指導者向け手引き」や「EPA 介護福祉士のコミュニケーション上陥りやすい失敗集」の策定に当たっての基礎資料を得るため、EPA 介護福祉士（資格取得者）及び受入れ施設労務管理者等に対して、EPA 介護福祉士（資格取得者）の候補者時代からこれまでにあった介護業務上のコミュニケーションの困難な場面やその対応策について、書面調査を実施した。

②調査対象
就労中のフィリピン人・インドネシア人 EPA 介護福祉士（資格取得者）（２９８名）及び受入れ施設（１６９施設）の労務管理者又は介護リーダー（EPA 介護福祉士の指導者）

③調査方法／調査内容
調査方法は、資格取得者及び受入れ施設の労務管理者等に対して質問票を郵送し、その回答の集計等を行った。
調査内容は以下の通り。
なお、介護技能実習生は、就労１年目の日本語学習の目標はＮ３取得が目的であることから、調査内容は特に「聞く」「話す」を中心に EPA での課題及び対応策を調査した。

＜労務管理者又は介護リーダー向け＞
①介護業務上のコミュニケーション課題（聞く）について
・日本人介護職員等から「聞く」場面での課題と対応策

・利用者及び家族から「聞く」場面での課題と対応策
②介護業務上のコミュニケーション課題（話す）について
・日本人介護職員等と「話す」場面での課題と対応策
・利用者及び家族と「話す」場面での課題と対応策

＜EPA 資格取得者向け＞
①介護業務上のコミュニケーション課題（聞く）について
・日本人介護職員等から「聞く」場面での課題と対応策
・利用者及び家族から「聞く」場面での課題と対応策
②介護業務上のコミュニケーション課題（話す）について
・日本人介護職員等と「話す」場面での課題と対応策
・利用者及び家族と「話す」場面での課題と対応策

④調査期間
平成２８年１０月５日（水）～１０月２８日（金）

⑤回答数
・EPA 介護福祉士　２９８名中１８７名　（回答率　62.8%）
・EPA 介護福祉士受入れ施設労務管理者・介護リーダー
１６９施設中１０８施設　（回答率　63.9%）

５．外国人日本語学習ツールの策定

検討会での策定方針や上記「３．関係団体からのヒアリング」、「４．EPA 介護福祉士等の日本語学習の経験等に関する調査」の調査結果等を踏まえて、作業部会メンバーにおいて学習ツール案の策定を行った。策定された学習ツール案は、検討会にて検討・承認を行った。

3　各成果物の検討内容等

１．本事業において作成した成果物

（１）入国後１年間の日本語学習カリキュラム
（２）入国後講習における標準的な日本語学習プログラム及び指導要領
（３）実習実施機関における標準的な日本語学習プログラム及び指導要領
（４）聴解学習のプログラム及び指導要領
（５）日本語能力試験直前対策のための標準的な学習プログラム及び指導要領
（６）入国後の日本語学習補助 Web コンテンツ（仕様書）
（７）実習実施機関の日本語学習支援担当者向けの手引き
（８）「介護の日本語」テキスト・サンプル（学習語彙・声かけ表現リスト等）
（９）入国前の日本語学習補助 Web コンテンツ（仕様書）

２．各成果物の検討内容等

（１）入国後１年間の日本語学習カリキュラム

○　本カリキュラムは、Ｎ４程度の日本語能力で入国した介護実習生が、約 1 年でＮ３程度の日本語能力を有することを目的に検討を進めた。検討に当たり、自律学習は継続的な自己学習においては重要であり優先的に取り組む事項であるとの共通認識を得た。

○　入国１年後の２号移行時にＮ３程度を取得していることを目指す学習スケジュールとするが、２号移行時の手続きの期間を考慮し、入国後１０か月目にはＮ３程度の試験に合格していることを前提とした学習プログラムとする。

○　実習実施機関における学習時間については、再三の検討を行い、学習時間を示すことで示された学習時間を消化すればＮ３程度に合格するのではないか、という誤解を生じさせるリスクがあることから、時間数を明記せず、学習内容を明記することとなった。学習内容については、実習実施機関における日本語学習の実行性と、日本語学習の有効性を鑑み、当初想定されていた１日１時間程度の学習を基盤に、の検討が行われた。

（※）当初示された学習時間の目安案

日々の自律学習の継続を前提として、週８時間（例えば平日１時間、土又は日３時間等）×４週間=３２時間、３２時間×８～１０か月=２５６時間。週１回程度、実習施設の日本語担当者が進捗確認することを想定。

○　実習生の実習指導については、介護の専門職が担当することが想定されるが、介護の専門職は日本語教育の未経験者であるので、可能であれば日本語教育の専門家が行うことが望ましいが、日本語教師が確保でき

ない可能性も想定されることから、日本語教師以外の者が実習実施機関で日本語学習支援を担当する場合は、指導方法の講習等が必要との意見があった。また、介護の現場からは、「日本語学習支援に関わっている余裕はなく現場が日本語学習支援を負担に感じ、外国人受入れに否定的な印象を与えないよう、ＥＰＡの受入れで活用している、日本語学習ボランティア（国語の先生を含む）に学習支援を依頼する等の対応を参考にできるとの意見があった。

○　基本的には入国１年後の２号移行時にＮ３程度を取得していることを目指す学習スケジュールとするが、入国後早い段階でＮ３程度を取得する場合も想定されることから、入国後の早い段階でＮ３程度を取得した者に対しても、介護の現場でのコミュニケーション能力を向上させるためには継続的な学習が必要であるとの指摘がなされた。その際、モチベーション維持のために、介護の現場の日本語学習に焦点を当てた学習内容とする必要があるとの意見があり、介護の日本語を学ぶコンテンツをＷＥＢに掲載し、効果的な学習教材として活用することが提案された。

（２）入国後講習における標準的な日本語学習プログラム及び指導要領

○　科目については、日本語能力試験Ｎ３程度の試験に合格するための学習科目（文法、語彙、読解、文字、聴解、自律学習）と、実習実施機関での実務および実習が円滑に進むようになるためのコミュニケーション能力向上のための学習科目（発音、会話、作文、介護の日本語）で構成する。

○　日本語能力の入国要件は、Ｎ４程度であるが、Ｎ３程度で入国することも想定されるため、入国後講習のカリキュラムは、「Ｎ４程度上位向け」「Ｎ４下位から中位向け」「Ｎ３取得者向け」の３コースを示し、日本語能力に応じてレベル分けをする際にも対応できるプログラムとする。

　Ｎ３程度取得者についても、実習実施機関で円滑な日本語コミュニケーションを図るための日本語能力を習得するために、入国後講習の受講が重要であることが実習実施機関にもわかるよう、Ｎ３取得者向けのコース目標には、基本的な介護業務上のコミュニケーション能力の習得を加えることにした。

○　入国後講習修了時の科目別評価については、入国後講習後の実習実施機関での日本語学習が、実習生の日本語レベルに沿って適切に進むよう、講習修了時の各実習生の日本語能力評価が明確になるよう、評価基準を作成するとともに、実習実施機関に提供する報告書様式を作

成することとした。

（３）実習実施機関における標準的な日本語学習プログラム及び指導要領

○　入国後の実習実施機関での日本語学習については、実習生の日本語能力及び日本社会に対する理解を深めることにより、実習実施機関での介護の実務、および実習が少しでも円滑に進むようになり、日本語能力試験Ｎ３程度の試験に合格できる日本語力の習得を目的に具体的な学習内容等の検討を行った。

○　科目については、「必須科目」と「推薦科目」に分類。「必須科目」は日本語能力試験Ｎ３程度の試験に合格するための学習科目で構成し、「推薦科目」は実習実施機関での実務および実習が円滑に進むようになるための学習科目で構成する。各科目の具体的な内訳は、下記の通りである。

・必須科目：文法、語彙、読解、文字、聴解、自律学習

・推薦科目：発音、介護の日本語

なお、実習実施機関において、介護の現場で必要なコミュニケーション能力の学習としての会話等については、実習実施機関での 0JT で対応できるという意見があり、介護の日本語の学習の一部として位置づけることとした。

○　標準的な学習プログラムの考え方については、効率的に自律学習を進めるために１段階を２か月間として４段階を設定し、１～４段階ごとにシラバスを立案することになった。各実習生の能力に合わせて、学習を始める段階を選択することができることとした。

入国後講習で実施したレベルに応じて、実習実施機関における日本語学習の開始段階を設定することが可能になる。具体的には、入国後講習で「Ｎ４下位者向け」のプログラムを受講した実習生は１段階目の「ブラッシュアップ（復習を兼ねた日本語力向上）期」から、「Ｎ４上位者向け」のプログラムを受講した実習生は２段階目の「Ｎ３実力養成期」から、「Ｎ３取得者向け」の研修を受講した実習生は４段階目の「Ｎ３取得者向け」から学習を開始する等の設定ができる。更に、実習実施機関での学習の過程で、予定より早期にＮ３程度に合格した場合は、4 段階目の「Ｎ３取得者向け」の学習プログラムに移行し、更なる日本語能力とコミュニケーション能力の向上を目指すことを推奨することとした。

（４）聴解学習のプログラム及び指導要領

○　聴解は、言語習得の観点から、毎日の聴解訓練を６か月程度継続した場合、伸長が確認できると言われている。よって、聴解は、毎日の学習を継続する仕組みにする必要がある。他方、聴解研修を集合研修形式で行うことは、地方には日本語学校が少数であることや、日本語教師も首都圏に偏在しているので、実習開始後に集合研修をアレンジすることは現実的ではない。

○　この考え方のもと、聴解学習については、「１日１時間×50 日間（平日業務後と休日）＝50 時間（任意）」として、学習形式は、「実習生による自律学習を基本としつつ、実習実施機関の日本語担当職員が最低週１回は成果や進捗等を確認しフォローする形式」となった。なお、実習実施機関の日本語担当職員が実習生をフォローする際は、日本語教育専門家の支援を受けることが望ましいとされた。

○　実習実施機関の日本語学習支援担当者によるフォローについては、担当者が毎日聴解学習に関わるのでなければ、対応は可能であるという意見があった。

○　入国後講習の日本語学習の後半に実習生に対して、個別の聴解学習の方向性を示すことで、入職後の聴解の自己学習に役立つのではないかという意見があり、指導要領に盛り込むこととした。

（５）日本語能力試験直前対策のための標準的な学習プログラム及び指導要領

○　入国後８か月の時点でＮ３程度の合格が見込めない場合には、試験直前対策のプログラムによる学習を行うことが効果的である。

○　検討会では、介護の現場では２か月間も日本語学習に専念させることは困難との意見もあったが、実習の後半に入ってもＮ３程度の合格のめどが立たない場合は、かなりのてこ入れが必要な実習生が対象になることが想定されることから、２００時間程度（約２か月）の学習プログラムを検討することとした。

○　本プログラムは、監理団体による実施、または日本語学校等に委託し、日本語教育専門家が教育を行うことを想定している。

○　また、本事業では、対面での授業を想定した基本的なプログラムを示すが、実施する日本語学校が近辺にない場合は、通信による授業サービスを行っているプログラムも活用できるとの意見もあった。

（６）入国後の日本語学習補助 Web コンテンツ（仕様書）

○　本 Web コンテンツは、1）入国後 1 年以内のＮ３程度の取得を目的とした日本語学習の補助教材、2）実習生自身が目標を立て、計画、実行、振り返りまでを行う自律学習をサポートする機能をもツールという位置づけで検討を行った。

○　仕様書を作成するに当たり、主に次の事項の検討を行った。

1. コンテンツ概要（LMS 上で出題される問題、問題の出題システム、作問について等）
2. システムの概要（マイページ、自律学習支援機能、メッセージ機能、ユーザビリティについて）
3. 機能ごとの詳細仕様
   - 問題出題機能（問題バンク、ドリル、小テスト、復習テスト）
   - 自律学習支援機能（マイページ、学習計画の立案／進捗結果の入力・確認、問題の取り組み状況と結果進捗確認とアドバイス機能、メッセージ機能）
4. アカウント管理（アカウント、各機能／情報へのアクセス権限）
5. その他のシステム要件とハードウェア要件、保守等
6. 日本語及び介護の日本語学習コンテンツリンク集

○　ＷＥＢコンテンツは、実習生や実習実施機関におけるＷＥＢへのアクセス環境（端末の種類等も含む）を考慮し、スマートフォン及びＰＣの両方でのアクセスが可能な形式が提案された。

（７）実習実施機関の日本語学習支援担当者向けの手引き

○　本手引きは、実習実施機関の教育担当者による日本語指導上の留意点、日本語を母国語としない人への会話上の留意点、ＥＰＡ介護福祉士の受入れにおいて陥りやすい介護の場面でのコミュニケーション上の課題や取組みを紹介することを目的に内容の検討を行った。

○　介護分野の技能実習制度においては、実習生に一定の日本語能力要件が課せられることから、日本語能力試験や実習生のＮ３程度の資格取得に向けた自律学習のフォローに対する実習実施機関の理解が不可欠である。本手引きには、実習実施機関での標準的な学習プログラムや指導要領及び、介護の技能実習生との円滑なコミュニケーションのための留意事項（わかりやすい日本語で話すポイント、介護現場での日本語コミュニケーションの工夫、EPA 介護福祉士（資格取得者）の介護現場での日本語コミュニケーションの課題と取組み事例）等を掲載することとして検討した。

○　EPA 介護福祉士（資格取得者）の介護現場での日本語コミュニケーションの課題と取組み事例については、実際に就労している EPA 介護福祉士の受入れ施設の介護リーダー等を対象に、日本人介護職員や利用者・ご家族とのコミュニケーション上（「話す」「聞く」について、書面調査で事例を収集し、それらの情報をもとに内容を記載した。

（８）「介護の日本語」テキスト・サンプル（学習語彙・声かけ表現リスト等）

○　介護の技能実習生は、入職後の実習受入れ施設での就労・研修を通して、介護職員からの基本的な指示受けや利用者との基本的なコミュニケーションに必要な介護の初歩的な語彙や会話の習得が期待される。

　本テキストの目的は、技能実習生が、入国講習において、「介護の日本語」の科目で活用できるよう、介護の初歩的な語彙や声かけ例を習得するための教材とした。

○　本事業では、Ｎ４程度の実習生向けの本教材に掲載することばと声かけ表現に関するリストの作成、及び本リストから介護の場面を選び、イラストを付けたサンプルページを作成した。

○　全体の構成として、Ｎ４程度の技能実習生が学習しやすいように、「介護のことば」「介護場面での語彙」「介護場面での声かけ表現」に分けた。また、会話の場面を設定し、場面に関連する最低限の語彙や声かけ表現を、イラストを見て学習できる構成とした。

○　作成にあたっては、介護専門家が基本的な会話の場面や語彙を収集、整理した。日本語専門家により、日本語学習の観点から、入国後講習に学習する語彙・声かけ表現、実習開始後に後に学習する語彙・声かけ表現とに区分した。「介護のことば」については、１回の学習で学習しやすいよう１課分１０～１５語彙程度とした。

○　教材のサンプルページとして、次の課を準備した。

・「第８課　生活や環境整備に関することば」
・「第 12 課　入浴・清拭関連（その１）」
・「第 15 課　あいさつフレーズ」
・「第 18 課　衣類着脱」
・「第 19 課　食事介助」

○　学習効率を高めるため、本テキストをＷＥＢ上でアクセスできる教材とすることが推奨されており、今後、テキストが作成される際には、製本するだけでなく、ＷＥＢの学習教材としても検討されることが望ましい。

（９）入国前の日本語学習補助 Web コンテンツ（仕様書）

○　本コンテンツは、実習生が、送り出し国において、入国前の準備として行う学習を支援するツール。Ｎ４上位の者はよりＮ３に合格する確率が高いことから、既にＮ４程度を取得したがＮ４下位にある者が、Ｎ４上位の能力に達した状態で入国することを目的として検討を行った。

○　送り出し国として想定されるアジア各国においては、日本語能力試験の模擬試験を入手することは困難である現状から、模擬試験を学習教材として使用することが有効であるとの意見があった。各国によってインターネットへのアクセスや使用端末の環境も多様であり、双方向のシステムとすることは困難であるという状況を踏まえ、模擬試験をＰＤＦ形式でダウンロードすることで、学習者本人及び日本語教育者等、幅広く学習教材として使用することを可能とするものとした。

○　併せて、アジア諸国からもアクセス可能なＮ４及びＮ３程度の日本語学習サイトが多数存在することから、それらの一覧を提示することとした。

○　入国前のＮ４程度取得者は、本コンテンツを次のように活用することを想定した。

・入国前のＮ４程度取得者は、ＷＥＢからＰＤＦファイルをダウンロード・印刷の上、模試問題を解く。

・模試の自己採点後、ＷＥＢにアクセスして、自分の成績に対応した上学習アドバイス等を読み、学習の参考とする。

・サイトに掲載されている学習サイトを活用して学習を継続する。

以上。

（参考１：検討会開催概要）

・第１回検討会

・日時　平成２８年８月９日（火）午後２時～午後５時

・場所　東京八重洲ホール　６階　６１２会議室

・主な議題

（１）調査開発事業について

（２）調査開発事業の成果物の概要等の検討

（３）EPA 介護福祉士等受入れ施設への調査の検討

①就労開始後Ｎ３取得者の日本語学習方法等の調査

②EPA 介護福祉士の介護業務上のコミュニケーション課題等の調査

（４）第２回検討会での関係団体ヒアリング事項等の検討

（５）今後のスケジュール等について

・第２回検討会

・日時　平成２８年９月１５日（木）午後２時～午後５時

・場所　東京八重洲ホール　５階　５１１会議室

・主な議題

（１）EPA 日本語研修実施団体等からのヒアリング

・一般財団法人　海外産業人材育成協会

・公益社団法人　日本・インドネシア経済協力事業協会

（２）調査開発事業の成果物（案）の方針等の検討

①入国後１年間の日本語学習カリキュラム（領域）

②入国後２か月間の日本語集中研修シラバス

③入国後８か月間の日本語学習補助 Web コンテンツ・問題サンプル

④入国後５０時間の聴解研修（任意）

⑤介護のことばと場面別会話集（仮称）

（３）今後のスケジュール等について

・第３回検討会

・日時　平成２８年１０月２８日（金）午後２時～午後５時

・場所　東京八重洲ホール　５階　５１１会議室

・主な議題

（１）EPA 日本語研修実施団体からのヒアリング

・国際交流基金

（２）調査開発事業の成果物（案）等の検討
①入国後１年間の日本語学習カリキュラム（領域）案
②入国後２か月間の日本語集中研修シラバス案
③入国後５０時間の聴解研修（任意）シラバス案
④入国後３～１０か月間の日本語学習シラバス案
⑤入国後３～１０か月間の日本語学習補助 Web コンテンツ案
⑥入国後８～１０か月の日本語能力試験対策（任意）シラバス案
⑦入国前の日本語学習補助 Web コンテンツ案
⑧実習施設の日本語教育担当者向け手引き（構成案）
（３）今後のスケジュール等について

・第４回検討会
・日時　平成２８年１１月２５日（金）午後２時～午後５時
・場所　東京八重洲ホール　８階　８００会議室
・主な議題
（１）調査開発事業の成果物（案）等の検討
①入国後１年間の日本語学習カリキュラム（領域）案
②入国後２か月間の日本語集中研修シラバス案
③入国後５０時間の聴解研修（任意）シラバス案
④入国後の実習実施機関での日本語学習シラバス案
⑤入国後３～１０か月間の日本語学習補助 Web コンテンツ案
⑥入国後８～１０か月の日本語能力試験対策（任意）シラバス案
⑦入国前の日本語学習補助 Web コンテンツ案
（２）就労開始後にＮ３を取得した介護福祉士候補者に係る調査報告
（３）EPA 介護福祉士の介護業務上のコミュニケーション課題に係る調査報告
（４）今後のスケジュール等について

・第５回検討会
・日時　平成２９年２月９日（木）午前１０時から午後１時半
・場所　東京八重洲ホール　８階　８００会議室
・主な議題
（１）調査開発事業の成果物（案）等の検討
①入国後１年間の日本語学習カリキュラム（領域）
②入国後講習における日本語学習
③入国後５０時間の聴解研修（任意）

④入国後の実習実施機関での日本語学習
⑤入国後の日本語学習補助 Web コンテンツ仕様書案
⑥入国後８～１０か月の日本語能力試験対策（任意）
⑦入国前の日本語学習補助 Web コンテンツ仕様書案
⑧実習実施機関の日本語教育担当者向けの手引き案
⑨介護のことばと声かけ集案

（２）その他

（参考２：作業部会の開催概要）

	日時	場所
第１回	平成 28 年 8 月 24 日（水） 午後 3 時～午後 6 時	（公社）国際厚生事業団 会議室
第２回	平成 28 年 9 月 7 日（水） 午後 2 時～午後 5 時	（公社）国際厚生事業団 会議室
第３回	平成 28 年 10 月 14 日（金） 午後 2 時～午後 5 時	東京八重洲ホール 5 階 511 会議室
第４回	平成 28 年 11 月 18 日（金） 午後 2 時～午後 5 時	（公社）国際厚生事業団 会議室
第５回	平成 28 年 12 月 21 日（水） 午後 2 時～午後 5 時	（公社）国際厚生事業団 会議室
第６回	平成 29 年 1 月 17 日（火） 午後 2 時～午後 5 時	（公社）国際厚生事業団 会議室
第７回	平成 29 年 1 月 23 日（月） 午前 9 時半～正午	（公社）国際厚生事業団 会議室

別添：成果物

１．実習実施機関の日本語学習支援担当者向けの手引き

２．入国後の日本語学習補助 Web コンテンツ（仕様書概要）

３．入国前の日本語学習補助 Web コンテンツ（仕様書概要）

４．「介護の日本語」テキスト・サンプル（学習語彙・声かけ表現リスト等）

別添：成果物 1

実習実施機関の日本語学習支援担当者向け手引き

平成２８年度　生活困窮者就労準備支援事業費等補助金
社会福祉推進事業

介護分野の技能実習生の日本語学習方法及び学習教材等の調査開発事業

実習実施機関の日本語学習支援担当者向け手引き

公益社団法人　国際厚生事業団

目　次

1. 実習実施機関における日本語学習プログラムについて　・・・・・・・・24

1.1　実習実施機関における日本語学習に求められるもの　・・・・・・・・・・・・・24
1.2　入国後１年目の日本語学習の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
(1) 入国後講習における日本語学習　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
(2) 入国後の実習実施機関での日本語学習　・・・・・・・・・・・・・・・・・25
(3) 聴解学習　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
(4) 日本語能力試験直前対策のため学習プログラム　・・・・・・・・・・・・・26

2. 実習実施機関における日本語学習を支援する上での工夫・・・・・・・・31

2.1　自律学習の考え方と実習実施機関による学習支援　・・・・・・・・・・・・・31
2.2　実習生の日本語レベルに応じた学習内容の調整　・・・・・・・・・・・・・・33

3. 介護職種の技能実習生との円滑なコミュニケーションのための
留意事項　・・・・・・・・34

3.1　わかりやすい日本語で話すポイント　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
3.2　介護現場での日本語コミュニケーションの工夫　・・・・・・・・・・・・・・35
3.3　EPA 介護福祉士（資格取得者）の介護現場での日本語コミュニケーションの課題
と取組み事例　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39

（別添）
1. 実習実施機関で行う標準的な日本語学習プログラム及び指導要領
・・・・53

2. 監理団体が行う入国後講習の標準的な日本語学習プログラム及び指導要領
・・・・95

（参考）日本語能力を測定する試験についての情報　・・・・・・・・・・・131

はじめに

介護はコミュニケーションを前提として業務を遂行する対人サービスであるため、日本語によるコミュニケーション能力が不可欠の要素である。また、介護はチームケアであるため、利用者・家族とのコミュニケーションのみならず、同僚である介護職員や他職種との連携を担保する観点からも、日本語による一定のコミュニケーション能力が求められる。介護分野の技能実習制度においては、「外国人介護人材受入れの在り方に関する検討会中間とりまとめ（平成27年10月）」で示された具体的な対応の在り方に沿った適切な対応策を定めることとしているおり、コミュニケーション能力については『1年目(入国時)は、業務の到達水準として「指示の下であれば、決められた手順等に従って、基本的な介護を実践できるレベル」を想定することから、「基本的な日本語を理解することができる」水準である「N4」程度を要件として課し、さらに、「N3」程度を望ましい水準として、個々の事業者や実習生の自主的な努力を求め、2年目の業務への円滑な移行を図ることとする。また、実習2年目（2号）については、到達水準として「指示の下であれば、利用者の心身の状況に応じた介護を一定程度実践できるレベル」を想定することから、「N3」程度を2号移行時の要件とする。』とされている。この方針に沿って、入国した実習生が円滑に実習を進めていくために、実習実施機関においても日本語学習が継続して行われることが重要であるとされているところである。

特に、実習実施機関においては、日本語の学習支援を担当する者が実習管理者及び実習指導員等と連携し、実習計画に沿った学習が行われるよう支援することが求められている。ただし、日本語学習を支援する担当者が日本語教育の専門家でない場合も考えられることから、本手引きでは、標準的な学習プログラム、学習支援の方法、実習生との円滑なコミュニケーションの取り方等について示した。これらを参考に、実習実施機関における日本語学習が円滑に行われ、実習生の日本語能力が向上することで、効果的な実習が行われることを期待する。

また、本手引きでは、集中的な日本語能力の向上が求められる、実習実施機関における入国1年目に焦点を当てた日本語学習についての内容を記載している。2年目以降は、日本語学習が必要ではない、ということではなく、1年目に集中的に自律学習の支援を行うことで、日本語学習を自律的に行う習慣をつけ、日本語能力資格取得後も継続的な日本語学習が行われることで、介護の現場でのコミュニケーションがより円滑に行われることを目指すものである。

実習生の中には、はじめて来日し、日本語の学習は一定程度終了しいているものの、日本の文化や習慣に慣れるまでには時間を要することは想像できる。同時に、介護現場の第一線で働く施設等で実習生を受け入れる担当者の方々の苦労も想像できる。本手引きが、両者の橋渡しとなる日本語というコミュニケーションツールが効果的に活用できるようになるための一助となれば幸いである。

平成29年3月　公益社団法人　国際厚生事業団

1　実習実施機関における日本語学習プログラムについて

1.1　実習実施機関における日本語学習支援担当者に求められるもの

介護職種の技能実習生（以下、実習生という。）の実習実施機関における日本語学習の目標は、日本語能力試験 N3 程度の日本語能力を身につけ能力試験に合格することはもちろんのこと、日本語による介護現場でのコミュニケーションを円滑に行うための能力を身につけることである。

そのため、実習実施機関の日本語学習支援担当者は、これらの日本語能力を測定する試験に関する正確な情報を理解するとともに、実習生や関係者と相談しながら、受験スケジュールを組み、所定の期間内に N3 程度の資格取得を目指すことが求められる。同時に、日本語能力資格取得に向けた学習のみならず、介護の現場で利用者や介護職員、医療関係者とのコミュニケーションを通じた信頼関係を構築するための日本語能力の向上も不可欠である。

※日本語試験に関する受験手続等の情報は、「参考：日本語能力を測定する試験についての情報」を参照。

1.2　入国後 1 年目の日本語学習の概要

1.2.1　入国後 1 年目の日本語学習の目標

入国後の 1 年間の日本語学習の目標として、実習生の目指すべき日本語能力とともに、日本社会に対する理解を高めることにより、実習実施機関での実務、実習および日本語学習を円滑に進めること。日本語学習の 1 年間の到達目標は次のとおりとすることが望ましい。

(1) 日本語の基本的な会話、読み書き聞く能力（N3 程度）の確保
(2) 日本での生活に関する情報の提供と体験
(3) 日本の文化・社会に対する基本的理解
(4) 日本の介護に関する基本的な知識の習得

1.2.2　入国後 1 年目の日本語学習の内容

実習生が、2 号（2 年目）に移行する際に、日本語能力試験 N3 程度の資格を取得していることを目指す際の日本語学習のイメージを示している。

（1）入国後講習における日本語学習

技能実習生の受入れにあたっては、監理団体が所定の期間の入国後講習を行うことが義務づけられている。実習実施機関においては、監理団体でどのような日本語講習が行われたのか、また、その結果としてどの程度の日本語能力に達しているのか等について、把握しておく必要がある。

（2）入国後の実習実施機関での日本語学習

入国後講習が修了した後、実習生は、実習実施機関での介護の実習が始まり、同時に日本語能力の向上についても求められる。特に、実習開始前に N3 程度の日本語能力資格が取得できていない場合は、資格取得に向けた学習も併せて実施する必要がある。その場合は、まずは、日本語能力の資格取得のスケジュールを立て、それに応じた学習計画を立案することが重要である。

入国後講習が終了する際に評価される実習生の日本語レベル（講習修了時に日本語教育専門家による日本語能力の評価表を作成することが望ましい)に応じて、実習実施機関における学習を始める段階を「実習実施機関における日本語学習カリキュラム」から選択することができる。

日本語学習支援担当者は、1 週間に 1 回以上、進捗状況を確認して、実習生を励ますことは、継続的な自律学習に不可欠である。その際、職場や生活圏において学習環境を整え、学習しやすい場所を提供することは、学習効率を高める上でも重要である。

より高い日本語能力を習得するため、本手引きでは、N3 取得者も学習が継続できるように、4 段階の学習カリキュラムを提示してあるため、学習が継続できるよう支援する。

実習生は、介護の技術の習得もあるため、日本語の学習だけに時間を使うことは難しいと思われるが、滞在 1 年目の早いうちに日本語能力試験 N3 程度の試験に合格するためには、できるだけ毎日の継続的な学習時間を確保する必要がある。そのためには、日本語学習補助 Web コンテンツを活用した自律学習を行う等の効率的な学習が望ましい(※)。

（※）日本語学習補助 Web コンテンツによる自律学習

「日本語学習補助 Web コンテンツ」には、以下の内容が含まれている。

1）入国後 1 年以内の N3 程度の取得を目的とした日本語学習の補助教材

2）実習生自身が目標を立て、計画、実行、振り返りまでを行う自律学習をサポートする機能をもつ補助教材

実習実施機関の日本語学習支援担当者が、実習生の日本語習得状況を把握するツールとして活用できるものである。

実習生が自身で計画を立てて学習するが、Web 上に学習状況や目標設定等が記録されるため、実習実施機関の日本語学習支援担当者はいつでも必要なときに実習生の進捗状況を確認することができる。テストの結果等に応じて、N3 程度の日本語能力資格試験を受験させることを勧めるなど、日本語の習得状況を判断する材料として活用できる。

本システムは、実習生及び実習実施機関双方の利便性等を考慮し、スマートフォン及びパソコン等、多様な端末の種類に対応できるようデザインされる予定である。

（3）聴解学習

特に、来日が初めての実習生は、日本人の自然な日本語に不慣れなため、実習開始直後のできるだけ早い段階から、正確に聞き取る練習に特化した本学習を行うことが望ましい。入国後講習終了時に個々の実習生の能力評価を参考とし、所定のカリキュラムに沿って学習することを推奨する。特に、聴解学習は、短時間であっても継続が重要である。また、教材による聴解学習のみならず、日本語学習支援担当者が「生」の発音練習となる対面での学習を行うが効果的であることを考慮した学習計画となるよう、支援する必要がある。その頻度は、学習モチベーションのためにも、最低でも 1 週間に 1 回は対面学習を行うことが望ましい。

（4）日本語能力試験直前対策のための学習プログラム

一定の時期までに N3 程度が取得できるよう、日本語能力の資格試験合格に向けた試験対策の学習の活用についても考慮する必要がある。目安としては、入国後 6 か月後に模擬試験を行い、N3 程度に達しているかの判断を行う。監理団体の日本語教育専門家等に相談し、本試験対策学習に参加するよう手続きを行う。本学習は、最後の学習期間となるため、真剣に取り組むことが肝要である。本学習の途中で複数回 N3 程度の日本語試験に挑戦し、合格を勝ち取るように、支援する。

試験直前対策学習期間中に行う授業には、宿題及び予習復習を行う自宅学習が必要になる。自宅学習の時間は、平均して少なくとも 1 日 3 時間程度の学習時間を保証する学習環境を整える必要がある。

本試験対策学習の日本語教育担当者は、カリキュラムに沿って、全員が N3 程度の日本語試験に合格できるレベルに到達するように指導する。

入国後1年目の日本語学習の概要(標準的な学習デザイン)

目的　実習生の日本語能力及び日本社会に対する理解を高めることにより、実習実施機関での実務・実習及び日本語研修が円滑に進むことを目的とする。

目標　【参考】日本語能力試験N3

■日本語　日常的場面で使われる日本語をある程度理解することができる。
【読む】日常的な話題について書かれた具体的な内容を表す文章を、読んで理解することができる。
日常的な場面で目にする範囲の難易度がやや高い文章は、言い換え表現が与えられれば、要旨を理解することができる。
【聞く】日常的な場面で、やや自然に近いスピードのまとまりのある会話を聞いて、話の具体的な内容を登場人物の関係などとあわせてほぼ理解できる。

■生活　日本での生活に関する情報の理解

■日本社会　日本の文化・社会に対する基本的理解

時期	学習の種類		目標設定	学習内容・方法	概要	N3程度の日本語試験
来日～2か月	**(1)入国後講習** 入国後講習における日本語学習 ＝実習生来日後、全員に実施する必須研修 実習生の日本語能力及び日本社会に対する理解を高めることにより、実習実施機関での研修が少しでも円滑に進むようになることを目的とする。日本語習得状況から実習生を「N3取得者」「N4上位者」「N4下位者」の3レベルに分け研修を行う。	日本語	目標例(N4上位者) 1か月目 ・相手の質問に対して、正しく返答できる。 ・待遇関係を意識して話すことができる。 目標例(N4上位者) 2か月目 ・自身の考えをまとまりのある単位(複数の文レベル)で発話することができる。 ・特定の職業(病院スタッフ、介護スタッフ)の人とのやりとりがある程度できる。	【学習内容】 4技能(話す・聞く・書く・読む)の基礎力をバランスよく伸ばせるよう、以下の科目をたてて指導する ・総合日本語　・聴解　・読解　・文字 ・介護の日本語　・発音　・会話　・作文 【方法】 ・監理団体の責任のもと実施(研修場所の確保等も監理団体によって行われる) ・日本語教師(有資格者)による日本語指導	担当者　＝日本語教師(有資格者) 学習形態＝レベル別によるクラスレッスン 指導法　＝日本語直接法 その他　＝介護に関する話題や専門用語を取り入れる 留意点　＝授業に先だってオリエンテーションを実施する ＊自国での生活習慣や学習形態と異なる可能性があるため、丁寧に説明すること	**【レベル判定:入国後】クラス分け** N3程度の模擬試験　によって、クラス判定 (口頭試験も行う)
		介護の日本語	実習実施機関で必要となる基礎的な介護のことばを覚え、円滑に業務が行えるようになる。			
		その他	【WEBコンテンツ】(日本語学習補助コンテンツ) 自律学習の目的と意義を理解する	【学習内容】 WEBコンテンツによる自律学習の進め方研修を実施する 実習生は専用サイトにログインして、機能や操作方法を正しく理解するとともに、目標をたてる	監理団体および実習実施機関の担当者は、WEBコンテンツの概要を理解し、支援手法の知識を得る 実習生は、入国後講習が終わる前に、WEBコンテンツにて、8か月間の目標をたてる	**【レベル判定:2か月後】模擬試験** N3程度の模擬試験　によって、伸長を確認 【本試験】受験スケジュールを見て N3程度の試験を各自受験
入国後講習後 ～10か月	**(2)実習実施機関における日本語学習** 入国後3～10か月の自律的な日本語学習 ＝入国後講習後、各実習実施機関における日本語学習 実習実施機関での実務、および研修が少しでも円滑に進むようになることを目的とし、日本語能力試験N3程度の試験に合格できる日本語力の習得を目指す。	必須科目	各実習生の実力に合わせて、学習を始める段階を選択する 目標例(1段階) N3レベルの問題に取り組めるようにN4レベルの日本語の理解力、運用力を高める。 目標例(2段階) N3レベルの問題に取り組み、N3程度の合格への実力をつける。	【学習内容】 日本語能力試験N3程度の試験に合格するために、以下の科目を計画的に学習する ・文法　・文字　・語彙　・読解　・聴解 ・自律学習 【方法】 ・科目ごとに適切な教材を用いて、計画的に学習を進める ・実習実施機関の日本語学習支援担当者が定期的に確認する	担当者　＝実習実施機関の日本語学習支援担当者 ＊実習生の学習状況を定期的に確認 学習形態＝実習生一人一人に日本語教材を配付して自己学習 ＊入国後講習終了時の日本語レベルに応じて適切な教材を使用する	【本試験】 実習実施機関の日本語学習支援担当者は実習生と相談しながら受験スケジュールを組み、N3程度の合格を目指す
		推薦科目	目標例(介護の日本語) 入職後に必要な介護のことばを覚え、円滑に業務がこなせるようになる。	【学習内容】 実習実施機関での実務および研修が円滑に進むようになるために、以下の科目を計画的に学習する ・発音　・介護の日本語 【方法】 ・『介護の日本語』を用いて、用語や表現を学習する		
		その他	【WEBコンテンツ】 毎日のドリルなどを通して、実習生が自ら自律的に取り組む姿勢を養うとともに、N3程度の合格を目的とした勉強のとっかかりとする	【学習内容】 ドリル:1回5問程度を問題バンクから学習レベルに応じて科目ごと出題 小テスト:カテゴリごとのテスト(1回10分程度) 復習テスト:本番のテストと同様の問題(熟達度を確認)	定期的に、実習実施機関の日本語学習支援担当者(または監理団体スタッフ)が進捗を確認/入国後の日本語学習補助WEBコンテンツにアクセスして、コメント入力	**【レベル判定:模擬試験】** 入国後4か月後、6か月後、8か月後に実施
入国後講習後 ～50h	**※必要に応じ実施** **(3)聴解学習** 入国後講習後、聴解能力強化のための日本語学習 ＝実習実施機関で個別研修	日本語の聴解	【前半目標】 日本語の文の構造や初級文法をしっかりと理解し、細かい部分に注意を払って、正確に聞くことができる。 【後半目標】 日常生活の中で遭遇する可能性の高い場面で使用される自然な表現(言い回しやことば等)を正確に聞き取り、的確に応答することができる。	【学習内容】 まとまりのある発話や自然なスピードでの会話の聞き取り 【方法】 ・市販の日本語(音声)教材を用いて、計画的に学習を進める ・実習実施機関の日本語学習支援担当者が定期的に確認する	担当者　＝実習実施機関の日本語学習支援担当者 ＊実習生の学習状況を定期的に確認 学習形態＝実習生一人一人に日本語教材を配付して自己学習	
8か月～10か月	**※必要に応じ実施** **(4)日本語能力試験直前対策学習** N3程度の合格に向けた試験対策 ＝6か月後のレベルチェックにて結果の芳しくなかった実習生は合格するための最後の機会	日本語	【N3程度の試験合格】 数多くの問題を通して、正答率70%以上を目指す	【学習内容】 以下に重点を置いて、N3程度の試験合格を目指す ・時間を測って問題演習 ・解答テクニック習得 【方法】 ・監理団体/実習実施機関にて研修所確保 (または民間の日本語学校に委託) ・日本語教師(有資格者)による日本語指導	担当者　＝日本語教師(有資格者)が望ましい 指導法　＝日本語直接法 その他　＝市販の模擬試験などを用いて熟達度を可視化	【本試験】 在留資格の更新等の手続きに間に合うよう、入国後11か月目までに合格／認定証を取得する日程を組む

参考情報：実習生に求められる日本語能力の目安

介護職種の実習生に求められる日本語能力の目安として、日本語能力試験 N4 及び N3 の日本語能力のレベルについて、日本語学習を指導する際の参考となることから、以下に記載する。

参考：日本語能力試験公式サイト
http://www.jlpt.jp/about/levelsummary.html　(2017 年 1 月現在)

（1）日本語能力試験 N4 レベルの日本語能力
N4 とは日本語能力試験の 5 段階中、下から 2 段階目の日本語レベルである。

＜N4 認定の目安＞

基本的な日本語を理解することができる。

【読む】
・基本的な語彙や漢字を使って書かれた日常生活の中でも身近な話題の文章を、読んで理解することができる。

【聞く】
・日常的な場面で、ややゆっくりと話される会話であれば、内容がほぼ理解できる。

＜N4 認定者のうち、50%以上の人が「できる」と回答した言語活動例＞

・自己紹介（例「～からきました」「私は○○です。どうぞよろしく」）をしたり、自分についての簡単な質問に答えたりすることができる。
・店、郵便局、駅などで、よく使われることば（例「いくらですか」「○○をください」）を使って、簡単なやりとりができる。
・趣味（例「私の趣味は～ことです」）や興味のあることについて、話すことができる。
・自分の部屋（例「～に…があります」）について説明することができる。

（2）日本語能力試験 N3 レベルの日本語能力

N3 とは日本語能力試験の 5 段階中、真ん中の日本語レベルである。

＜N3 認定の目安＞

日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる。

【読む】
・日常的な話題について書かれた具体的な内容を表す文章を、読んで理解することができる。
・新聞の見出しなどから情報の概要をつかむことができる。
・日常的な場面で目にする範囲の難易度がやや高い文章は、言い換え表現が与えられれば、要旨を理解することができる。

【聞く】
・日常的な場面で、やや自然に近いスピードのまとまりのある会話を聞いて、話の具体的な内容を登場人物の関係などとあわせてほぼ理解できる。

＜N3 認定者のうち、50%以上の人が「できる」と回答した言語活動例＞

・店、郵便局、駅などで、よく使われることば（例「いくらですか」「○○をください」）を使って、簡単なやりとりができる。
・趣味（例「私の趣味は～ことです」）や興味のあることについて、話すことができる。
・自分の部屋（例「～に…があります」）について説明することができる。
・驚き、うれしさなどの自分の気持ちと、その理由を簡単なことばで説明することできる。

＜N3 認定者のうち「できる」と回答した人が 25%以上 50%未満の言語活動例＞

・よく知っている場所の道順や乗換について説明することができる。
・準備をしていれば、自分の送別会などフォーマルな場で短いスピーチをすることができる。
・店で買いたいものについて質問したり、希望や条件を説明したりすることができる。
・電話で遅刻や欠席の連絡ができる。
・身近で日常的な話題（例：週末の予定）ついて会話ができる。
・相手の都合を聞いて、会う日時を決めることができる。

２　実習実施機関における日本語学習を支援する上での工夫

2.1　自律学習の考え方と実習実施機関による学習支援

実習生は入国後講習において、日本語教育の専門家による日本語教育を受け、その後、実習実施機関での実習が開始されれば、実習実施機関における日本語学習支援者等の支援を受けながら、学習を進める「自律学習」が行われることが望ましい[1]。

つまり、実習生が自分で計画を立て、自分で実行し、振り返り、再度計画を立て直し、学習を進める。その過程の中で実習生は、実習実施機関の支援者等の支援を受けながら日本語能力を養い、介護現場で活躍できる人材に育成されていくと考えられる。

そのために、実習実施機関での日本語学習支援担当者は、実習生の日本語学習の進捗状況や日本語能力の獲得状況に応じた励まし等、実習生と担当者の双方向のコミュニケーションを持つことが肝要である。

これらの自律学習を効果的に実施するために、日本語学習 Web コンテンツを活用することが望ましい。本ツールは、実習生が日本語学習を自律的に行うことをサポートするものであり、教材コンテンツと自律学習支援ツールが含まれる。

以下に実習生の自律学習に対して実習実施機関の日本語学習支援担当者がどのような支援が可能かについて支援の例を示す。

2.1.1　入国後講習での「自律学習」習慣付け

入国後講習における日本語学習では、実習生が実習実施機関に移った後、Web コンテンツを十分に使いこなせるように、監理団体の研修担当者が、この Web コンテンツによる自律学習の進め方について説明を行う必要がある。

自律学習の進め方を学んだ実習生には、Web コンテンツを実際に使わせ、8 か月間の目標を立てることが望ましい。

これと並行して、日本語学習支援担当者は、実習生が実習実施機関で実習が開始する前に、学習支援手法の知識を得る必要がある。

---

[1] 「自律学習(autonomous learning) とは、「学習者自身が自己の学習に主体的に関わり学習を孤立化せず、教授者や教材や教育機関などといったリソースを利用して行う学習」（参考：国立国語研究所監修(1998)『日本語教育重要用語 1000』バベル・プレス）

2.1.2　入国後の実習実施機関での日本語学習

○　日本語学習計画の立て方

Web コンテンツ上の自律学習コンテンツを活用することで、週単位の学習計画を立て、日本語レベルおよびカリキュラムに沿った学習を実行することができる。具体的なカリキュラムは、別添１「実習実施機関で行う標準的な日本語学習プログラム及び指導要領」を参照されたい。また、以下に示すテスト教材を活用した学習成果（テスト結果）を振り返り、必要に応じて計画の見直しを行うことも考慮する。これに対して、日本語学習支援担当者は、実習生の 1 週間の学習実行状況を確認し、アドバイスを行う。

2.1.3　日本語自律学習支援ツール（Web コンテンツ）

（１）ドリル

Web コンテンツには、気軽に漢字語彙等を学習できるドリルが用意されている。実習生は、毎日、Web コンテンツ上にあるドリルをスマホやタブレットで、1 回に 5 問出題されるドリルを繰り返し解くことで、学習継続のモチベーションを高める。

Web コンテンツ上にある 1,020 問の問題の中から、毎日継続して問題を解くことによって、N3 程度に近づくように設計されている。学習状況の確認の際は、ドリルの実施状況をコミュニケーションを取りながら確認すると、学習のモチベーション維持につながる。

実習生は、N3 程度の試験に合格するまで、このドリルは継続して学習すと効果的である。実習生が N3 程度の試験に合格しても、日本語学習支援担当者は、日本語の基本的な知識を確実にするために、実習生に学習継続を薦める。

（２）小テスト

小テストは、１回 10 問の実習生は、1 週間に 1 度程度、Web コンテンツ上にある小テスト（10 問、10 分程度）を実施する。小テストには、聴解問題も含まれるため、日本語学習支援担当者は、静かな環境を用意する必要がある。

小テストの目的は、毎週の学習状況を確認することにある。日本語学習支援担当者は、終了後、小テストの成績状況を Web コンテンツ上に記録する。小テスト終了後は、質問等に答えるとともに、試験を実習生と一緒に振り返り、励まし等のアドバイスを行うとよい。

2.1.4　復習テスト

日本語学習支援担当者は、2 か月に 1 度復習テストを行い、Web コンテンツ上に記録する。4 か月後および 6 か月後の復習テストは、Web コンテンツ上にある復習テスト（102 問、140 分程度、聴解問題含む）をダウンロードして、紙ベースの復習テストを作成する。8 か月後の復習テストは、市販の模擬テストを運用する。成績記入の際には、出典を記載する。実習生に復習テストを行う際は、静かな環境を用意する必要がある。

復習テストでは、2 か月間の学習状況を確認する。日本語学習支援担当者は、終了後、復習テストの成績状況を Web コンテンツ上に記録する。復習テスト終了後は、

質問等に答えるとともに、試験を実習生と一緒に振り返り、励まし等のアドバイスを行うとよい。

2.1.5　本番の試験手続き

日本語学習支援担当者は、監理団体や実習実施機関の関係者と連携して実習生の模擬試験および復習テストの成績の状況を見て、本番の試験を受験する手続きを進める。

受験の判断は、模擬試験及び復習テストの 55%の正答率を基準とする。来日後 6 か月までに、複数回数受験を計画し、N3 程度の日本語試験合格を目指す。受験には、手続き期間および受験料が必要であるため、実習生と相談し、計画的に進める。各日本語試験のホームページ等で受験場所や時間の確認も必須である。

2.1.6　日本語能力試験対策学習への申し込み

来日 6 か月後の段階で、実習生の N3 程度の試験の結果が未合格の場合は、施設及び実習生と相談して、直前対策学習に申し込む。直前対策学習は、N3 程度の最後の砦であるため、6 か月までに合格することが望ましい。

残念ながら未合格の場合は、直前対策学習を受講し、9 か月目、10 か月目に複数回受験し、合格を目指す。直前試験対策学習の受講場所などの確認も必須である。

N3 程度に合格した場合は、速やかに査証の手続きに進む必要がある。

2.2　実習生の日本語レベルに応じた学習内容の調整

日本語のレベルが日本語能力試験 N3 程度に未達の場合は、標準カリキュラムに沿って学習を進める。N3 に合格している場合は、N3 合格者レベルの 4 段階目のカリキュラムに沿って学習を進める。

来日後 1 年間の日本語学習カリキュラムは準備されているので、実習生全員がマニュアルに沿って学習を進めることができる。日本語学習支援担当者は、毎週の声掛け、小テスト、2 か月に 1 回の復習テストなど、折に触れ実習生に声をかけコミュニケーションをとることが重要である。日本語学習が継続的に進んでいるかを確認の際も、ほめ、励ますことが大切である。

コミュニケーションは、日本語学習支援担当者だけが担当するものではない。同僚や上司、利用者、家族、地域の人々など、実習生を取り囲む社会全体で、相互のコミュニケーションを心がけることで、実習生の日本語のみならず、社会性も成長していくと考える。

3 介護職種の技能実習生との円滑なコミュニケーションのための留意事項

3.1 わかりやすい日本語で話すポイント

入国後講習における日本語学習で日本語を学習した実習生とうまくコミュニケーションをとるためには、どのような伝え方の工夫があるのか、実習実施機関の日本語学習支援担当者等が実習生にわかりやすく伝える、話す時の一般的なポイントをまとめた。

（1）内容を理解したかどうか確かめながら話す

- 実習生は、説明者が「わかりましたか」と聞くと、理解していなくても「わかりました」と答えて、実はわかっていないということがある。大事なポイントなどを説明する場合は、特に理解したかどうかを実習生に確認しながら、話をするようにする。
- 例えば、重要な内容については、説明したことを実際にやらせて確認したり、内容を自分の言葉で言わせたり、質問に答えさせるなどして理解を確かめる。
- ただ、理解の確認の際、実習生は、日本語能力が十分でないため、説明者の質問に対して、すらすらと答えられない場合がある。実習生が途中で言葉に詰まっても少し待って、言えないようであれば手助けするなどし、相手を焦らせない姿勢で聞くことが大切である。

（2）はっきりとゆっくり話す

- 日本人が普段の速さで話すと、実習生は、知っている単語や表現でも意味を捉えられないことがある。普通に話してみて、理解していないようであれば、はっきり発音して、ゆっくりと聞き取りやすい速さで話すようにする。
- また、日本語の文末表現は、複雑であいまいな表現になることがある。主語等の省略表現、日本語特有の含みのある言い方は、実習生には理解しにくく、誤解されやすいことがある。です、ます調で話すことで文末の表現が統一されることから、理解を促すことにつながる。
- 実習生には、主語、目的語、述語を省略せずに、時には断定的な言い方（例：「なるべく○時までに完了してください。」⇒「○○の仕事は、必ず○時までに完了してください。」等）で分かりやすく話すようにする。

（3）短い文で話す

- 実習生に説明をする場合、長い文になると、実習生には意味が通じにくくなる。長い文はできるだけ避けて、意識的に短く簡単な文を繋いで話すようにする。
- また、話の途中で、「えーと」「あのね」といった意味のない言葉や必要のない言葉をはさむと、実習生はそれらの言葉にも何か意味があるのではないかと意識し、全体の意味が理解できなくなることがある。実習生に話す時は、意味のない言葉や必要のない言葉は使わないようにする。

（4）です・ます体の簡単で丁寧な言葉を使う

・　実習生は、入国後講習における日本語学習では、文末の言い方を「～です」「～ます」体で学習する。よって、入職当初の実習生に対して、「行くの？」「わかる？」「昨日は何を食べた？」などのくだけた表現では、伝わらないことがある。そのときは、「行きますか？」「わかりましたか？」「昨日は何を食べましたか？」などと「です・ます」体を使って話すとわかりやすい。「どちらに住んでいらっしゃいますか？」等の敬語表現も実習生には理解が難しいので、避けた方が良い。「どこに住んでいますか？」と簡単で丁寧な言葉で話すと伝わりやすい。

（5）標準語で話す

・　実習実施機関に入る前の実習生は、標準語の日本語で学習する。実習開始当初は、方言や古い言葉遣いを聞いても理解できないことが多い。職場などで特に大事なことを説明する時は、標準語で話すようにする。たしかに仕事や生活をする上でその地域の方言に慣れることは必要なことだが、最初はできるだけ標準語で話すようにする。

（6）難しい漢字ではなく、やさしい言葉を使う

・　実習生は、入国後講習における日本語学習において、漢字の熟語、尊敬語や謙譲語といったあらたまった表現、くだけた表現は、あまり学習していない。よって、一般的なやさしい言葉を使って話すと良い。漢字の熟語であれば、まずは漢字熟語で話してみて、理解していないようであれば、和語に言い換えてみる。（例：「開始します」「終了します」「集合してください」等は、それぞれ「始めます」「終わります」「集まってください」）それでもわからない場合は、類似のやさしい言葉に言い換える方法もある。

・　しかし、介護現場で必要な専門用語は、専門用語として意味と一緒にそのまま覚えるように指導するとよい。

3.2　介護現場での日本語コミュニケーションの工夫

・　実習生が実習実施機関において、日本人職員や利用者、家族と円滑に日本語でコミュニケーションを取る際の留意事項について、EPA 介護福祉士候補者及び EPA 介護福祉士の受入れを行っている施設で実際に起こった失敗や、円滑なコミュニケーションを進める上での工夫した事例等を参考にまとめた。（「3.3　EPA 介護福祉士（資格取得者）の介護現場での日本語コミュニケーションの課題と取組み事例」を参照。）

・　介護職種の技能実習制度では、1、2 年目は指示の下に介護を行うことが想定されているため、まずは、指導者の指示を正確に聞き取ることが重要である。とはいえ、利用者や家族がいる中で実習を行うため、利用者からの質問や要望などが出されることは想定される。利用者や家族の安心と安全の確保の観点から、実習生の日本語によるコミュニケーション能力や性格等も考慮し、実習生に関わる日本人介護職員が共通の認識をもって、日本人職員こそが正しい日本語を使ってコミュニケーションを取ることを心がけることが重要である。

3.2.1　共通の場面で想定される内容

（1）丁寧語、敬語等の使い方に慣れさせる工夫

- 日本語がうまく使いこなせない時期は、敬語を上手く使えず、強い口調できつく聞こえることがあるため、日本人職員がその都度指導し、相手に合わせた会話ができるよう練習する。
- 丁寧語を覚えておけば、利用者に対しても失礼にならないことから、まずは丁寧語の指導からはじめる。日本人職員も、実習生に丁寧語で接するよう気をつける。
- 実習生との日常的な会話の中でその都度指摘できない場合は、不適切な表現等をメモしておき、それらを振り返りながら学習を行う時間を取ると良い。

（2）外国人特有の発音等の問題への対応

- 実習生の発音が適切でないことから、利用者が聞き取れない場合は、ゆっくりと一言一言をはっきり話すよう指導する。実習生が言ったことを日本人職員が再度利用者に伝え、フォローをする。
- 発音の問題から実習生と利用者との会話が成り立たない場合は、日本人職員が近くに寄って会話が成り立つようにサポートをする。

（3）方言、早口、世代に特有な言い回しに慣れる工夫

- 実習生の中には、すぐに方言に慣れる者もいるが、入職当初は、極力、方言を使わずに標準語で伝える。
- 方言の一覧表を作り、実習中でも確認できるようにしておくことが必要。
- 利用者からの訴えや話の内容がわからなかったら、理解できないまま返答するのではなく、すぐに、近くの日本人職員に助けを求めるように指導し、職員がすぐに対応できるようにする。

（4）実習生の聞き間違いや理解した「ふり」を防ぐ工夫

- 利用者や家族からの依頼内容は、すぐに担当者に報告をするよう指導する。実習生の理解が乏しかった場合は、担当者から利用者、家族に再度内容確認を実施する。
- 実習生が「はい。」と返事をしてしまうと、利用者側もわかったものと思ってしまうことから、実際に実習生が内容を聞き間違っていた場合は業務に支障、ひいては利用者の不利益につながることがあると説明し、聞き取れなかったことは「わかりません。」「もう１度お願いします。」と意思表示するか、日本人職員に再度聞いてもらうよう指導する。

3.2.2　介護の場面で想定される内容

（1）実習生に業務指示をする時の工夫

- ゆっくりと簡単な単語や短文で、大きな声で話す。
- 略語はできるだけ使わない。
- 正確に聞きとれたかを実習生に確認し、復唱させる。
- 実習生には必ずメモを取らせる、理解できない部分は日本人職員に尋ねるように指導する。
- 日本人職員が早口になると聞き取れないことがあるので、予め日本人職員には、できるだけゆっくり、正確な日本語（標準語）で話すよう協力を求める。

（2）利用者や家族からの要望、複雑な質問等への対応の工夫

- 利用者や家族からの要望や質問をされた際には、内容が理解できない場合は、曖昧な返事をせず、日本人職員を呼ぶように指導する。その際、わからないことを恥ずかしいと思い報告してこない場合があるため、利用者や家族と関わる機会があれば、毎回質問や要望がなかったか、あればどういう内容であったかを確認するとよい。
- ただ、実習生が慣れるまでは、日本人介護職員が実習生に代わって家族・利用者からの質問に対応するよう指導することが望ましい。その際、実習生を同席させたり、対応後、実習生に家族の質問内容を話し、対応の話し方を指導する。

（3）実習実施機関における会議や研修等に参加する実習生への配慮

- 会議への参加や日本語での研修の参加は、日本語が十分に使いこなせない時期は、負担になり、日本語学習や実習へのやる気を低下させてしまうことに繋がる可能性があるため、実習生の能力を見極めることが重要。
- 会議などに参加した場合は、会議終了後に、個別に内容を説明し、要点の振り返りを行う。実習生に議事録を読ませ、分からない箇所があれば、説明する。

（4）実習生に事故報告や申し送りをさせる時の工夫

- ゆっくりと実習生の話を聞く。思い当たる単語を日本人職員側から言って、実習生の説明を助ける。聞き取れない時は、正しい言葉を伝え、再度言ってもらう。
- 「出血があった」等、異常に関する報告があった際は、直接その場へ行き一緒に確認する。
- 異常の報告があった際は、重要な項目（入居者の体調面に関わること）に集中して情報を得ることとし、それ以外の日本語の言い間違いはその場で指摘しない。
- 実習生には難しい申し送りの際は、日本人職員に交代してもらう。

（5）利用者や家族への説明、突発的な事態への対応の工夫

- 実習生が利用者に同意を求める必要がある事項や、家族に説明を行う場面では、日本人職員が付いて一緒に話をし、トラブルにならないよう適宜フォローする。

・　実習生がスムーズに利用者と会話にならない時は日本人職員が間に入り、話し方のコツなどを見て聞いてもらい覚えてもらう。後に、どのように会話を進めたかについて振り返りを行うことが効果的である。
・利用者や家族と難しい会話になった時は、すぐに日本人職員を呼ぶように指導する。

3.3　EPA 介護福祉士（資格取得者）の介護現場での日本語コミュニケーションの課題と取組み事例

技能実習とは制度が異なるが、介護現場で研修を行う外国人の事例として、EPA 介護福祉士候補者受入れの制度における、日本語のコミュニケーションの課題と取り組みについてまとめた。

3.3.1　EPA 介護福祉士が日本人職員等から聞く場面での課題と取組み事例

（1）課題：専門用語、申し送り、複雑な業務指示が聞き取れない。

＜事例１＞
- 職員から業務やケアの指示をされた時、言い回しが難しいとニュアンスが上手く伝わっていない。
- 専門職としての用語（申し送り、看護、オムツ交換、食事摂取等）を EPA 介護福祉士に聞いても、理解が困難な様子である。
- 介護用語をまじえての指導で言語の意味を聞きとれない。
- 申し送りノートの内容が理解できていないことが多く、変更になったケアなどが出来ていないことが多い。
- 申し送りや引き継ぎなどで略語があると EPA 介護福祉士に間違って伝わることがある。例えば「当欠」を「吐血」と聞き間違うなどして EPA 介護福祉士が慌ててしまうことがあった。

対　応　例
- ゆっくり、できるだけ簡単な単語で丁寧に話し、略語は極力使わないようにした。
- どこまで正確に聞き取れたかを確認し、復唱させた。
- 分からない言葉は、その都度、日本人職員が噛みくだいて、簡単な言葉に置き換えて再度説明をした。
- 分からない言葉は電子辞書等で EPA 介護福祉士に調べさせ、意味が正しいかを日本人職員が確認した。
- わからないまま放置させないよう、わからないことはその都度、日本人職員に確認するよう EPA 介護福祉士に促した。また、大事な内容のお知らせや情報は追加で口頭でも伝えるようにした。
- 必ずメモを取らせるようにした。EPA 介護福祉士に自分のメモ帳を準備してもらい、日本語での聞き取りが難しい場合は、ローマ字やひらがなの混合を用いて、理解している部分を記入させた。その後、分からない部分は日本人職員に尋ねるように指導した。
- 申し送った内容を復唱してもらい、理解できたか確認した。特に注意事項は、日本人職員が事例など交え、どう行動するかを具体的に説明した。

＜事例２＞
・「できなければ、○○して下さい」と少し複雑な言い回しで指示すると内容が正確に伝わらない。
・「○○さん、○○をやってもらっていいですか」という表現が伝わらない。

対　応　例
・「○時までに○○をする」というようにメモに書いて EPA 介護福祉士に渡し、メモの内容を理解したか、復唱させた。
・「○○をしてください」と言い切る表現にした。

＜事例３＞
・メモで内容を残した際、メモの漢字が読めず内容が伝わらない。

対　応　例
・メモでは、難しい漢字を使用しないようにした。

＜事例４＞
・朝礼やカンファランスでの申し送りなど多数の職員に向けての報告などではスピードが速くてうまく聞き取れない。
・フロアミーティングやユニットミーティングでの話し合いの場面や重要事項の伝達が聞き取れない。

対　応　例
・ミーティング後、個別に内容を説明し、要点の振り返りを一緒に行った。議事録を読ませ、分からない箇所があれば説明した。
・会議中、１つ１つの議題のくぎりごとに、EPA 介護福祉士に「○○までわかりましたか？」と確認し、又は、言い換えなどして説明し、理解していることを確認し進めるようにした。

（２）課題：方言が聞き取れない。

＜事例＞
・国家資格を取得する前の EPA 介護福祉士候補者は、入職までは日本語を標準語で勉強してきているため、入職後、申し送り等での方言の聞き取りが難しいことがあった。
・日本人職員同士の情報交換の中での方言等が聞き取りにくい。

対　応　例
・できるだけ方言を使わずに標準語でコミュニケーションや申し送りを行ったが、EPA 介護福祉士もすぐに方言を覚えたのでそれほど問題ではなかった。
・わからない言葉、表現は、その都度、日本人職員に質問するように指導した。

（３）課題：日本人職員等の早口が聞き取れない。

＜事例１＞
・指示出し、申し送り等をする日本人職員が速いスピードで話すと聞き取れないことがある。EPA 介護福祉士が聞き取れないことを日本人職員に言えればいいが、本人はその場ではわかったふりをしてしまう。

対　応　例
・日本人職員側ができるだけゆっくり、標準語で正確な日本語を話すよう予め日本人職員に協力を求めた。
・EPA 介護福祉士が不安そうな顔をしていれば、わかったか否か確認するようにした。「わかりました」と言っても、復唱させ理解したかを確かめた。
・EPA 介護福祉士が理解しきれなかった所は、日誌に記入するように伝え、後日文章にして説明を行うようにした。

＜事例２＞
・朝礼、会議や研修会等、多人数に向けて話す場面で、司会者等の話すスピードが速いと内容が聞き取れず、付いていけないことがある。

対　応　例
・会議や研修では、できるだけ文字で書いた資料を渡し、EPA 介護福祉士が話の内容を目でも追えるよう配慮した。また、EPA 介護福祉士の横に日本人職員が１名ついて補助説明を行なった。時には司会者等が話すスピード等が適切かどうかを EPA 介護福祉士に確認して、適宜、速さの調整を行った。

（4）課題：日本人職員等からの電話の内容が聞き取れない。

＜事例＞
・EPA 介護福祉士が他の部署から電話を受けた時に、電話の内容が聞き取れず、理解しきれないことがある。

対　応　例

・すぐに他の日本人職員が電話を代わるようにした。一旦電話を切って、EPA 介護福祉士から日本人職員へ電話内容を伝え、職員から掛け直すようにした。

（5）課題：申し送りや指示が長いと聞き取れない。

＜事例＞
・朝礼、申し送り、業務中の指示で日本人職員の話が長くなったり、様々な内容の話を次々と続けた場合、EPA 介護福祉士が内容を聞き落としたり、細かい部分までその場で理解できなかったりする。

対　応　例

・短い単語や短文で、ゆっくりと大きな声で伝えた。ジェスチャーを交え、EPA 介護福祉士に理解できていたか確認を行うようにした。
・朝礼や申し送りの内容は必ず日本人職員がノートに記載し、その日のうちに EPA 介護福祉士が目視で確認できるようにした。
・EPA 介護福祉士への業務指示は、業務の区切りや休憩時に説明を行うようにした。

（6）課題：「わかりました」と返事をするが実は理解していなかった。

＜事例＞
・職員から指示・申し送りを受け、EPA 介護福祉士は「はい。わかりました。」と返事をする。しかし実際の指示内容とは異なる行動をしたり、利用者へ誤まった対応をすることがある。

対　応　例

・聞いた内容を EPA 介護福祉士に復唱させて理解度の確認を行った。理解していなかったら再度説明をした。
・EPA 介護福祉士の日本語能力に合わせて、長文ではなく短文で、ゆっくり、はっきりした口調で伝えるようにした。その際、ひとつひとつ「わかりましたか」と確認してから次に進むようにした。
・わからないことをわからないままにしてしまうことの弊害を具体的に説明し、きちんと意味がわかるまで日本人職員に質問するように指導した。

・EPA 介護福祉士は、意識をして聞く態勢にない時は、言葉が本人の中に入っていない場合がある。EPA 介護福祉士は予測している日本語の範囲で聞く可能性があるので、日本人職員側は、きちんと本人に呼びかけてから伝えるようにした。

3.2.2　EPA 介護福祉士が日本人職員等に話す場面での課題と取組み事例

（1）課題：日本人職員等への電話対応が難しい。

＜事例＞
・相手の表情が見えないので、EPA 介護福祉士から日本人職員への電話での業務連絡、利用者の急変時の緊急電話や電話での申し送りは難しい。

対　応　例

・電話業務は、日本人職員が代わって対応するようにした。
・EPA 介護福祉士には、なるべく電話連絡をさせずに直接伝えてもらうようにした。
・同じ部署内で電話をさせることで電話に慣れてもらった。また、着信時、電話機の表示に電話番号が出るため、誰からの電話かわかる場合は、積極的に EPA 介護福祉士に出てもらった。EPA 介護福祉士の電話に出る日本人職員には、できるだけ平易な言い方で話すように予め協力を求めた。

（2）課題：日本人職員への事故報告、申し送りが難しい。

＜事例＞
・EPA 介護福祉士が利用者の状態を申し送りする時、適切な言葉が言えず聞き取りにくいことがある。
・事故やトラブルの報告時、EPA 介護福祉士が詳しく説明しようとしたり、ニュアンスを伝えようとすると、言葉にしにくくわかりにくいことがある。

対　応　例

・難しい申し送りの際は、日本人職員が交代するようにした。
・日本人職員側が聞く態勢であることをボディランゲージで示すようにした。ゆっくりと EPA 介護福祉士の話を聞き、思い当たる単語を日本人職員側から言って、EPA 介護福祉士の説明を助けた。日本人職員が聞き取れない時は、職員の方から正しい言葉を伝え、再度言ってもらうようにした。
・「内出血が出きていた」と EPA 介護福祉士が申し送りした時は、直接その場へ行き一緒に確認するようにした。
・申し送りをした EPA 介護福祉士とそれを受けた日本人職員が、時にはジェスチャーを交じえながら、お互いに復唱して確認した。その際、分からない部分があれば、聞き直しをした。

・EPA 介護福祉士に自然体で話す機会を与えるため、本人の言葉に耳を傾け、重要な項目（入居者の体調面に関わること）以外の日本語の言い間違いは聞き直さず、受け止めるようにした。

（3）課題：敬語、助詞の使い方等が難しい。

＜事例＞
・EPA 介護福祉士が気を遣って敬語で話そうとしても、ため口になりクレームにつながることがある。
・他職種のスタッフへの内線や伝達の時、主語が不明だったり、単語の間違い、助詞の使い方の間違いで内容が伝わりにくいことがある。
・「～に」「～の」等、言葉の繋ぎ方が適切でない。
・漢字の音読みと訓読みを間違えることがある。

対　応　例
・自分の身内に丁寧語は使わない等、その都度教育した。日本の風土に慣れることで、言葉のニュアンスをつかむ練習をさせた。
・日本語講師から直接指導を受けさせた。日本人職員と外出するなど、日本語と接する時間を意識的に増やした。
・日本人職員が聞き取りと内容の確認をしっかりと行った。EPA 介護福祉士が言い間違いをした時はその都度修正させた。
・慣用句を増やすため、日本語の小説類を読むことを勧めた。
・「縁がない」「運がない」等、ちょっとした違いが大きな誤解を招くので注意しなければならない表現を教えた。
・その都度、ゆっくりと正確な言葉を説明し覚えさせた。

3.3.3　EPA 介護福祉士が利用者や家族等から聞く場面での課題と取組み事例

（1）課題：利用者や家族の早口、方言、古い言葉遣い等が聞き取れない。

＜事例１＞
・利用者や家族の早口、方言や古い言葉遣いが聞き取れないことがある。

対　応　例
・日本人職員が利用者や家族の間に入り、わからない言葉や方言の意味を EPA 介護福祉士にその都度説明した。
・方言の一覧表を作り、EPA 介護福祉士に持たせた。
・利用者の特性や特徴を EPA 介護福祉士に予め説明した。
・利用者からの訴えや話の内容がわからなかったら、理解できないまま返答するのではなく、すぐに、近くの日本人職員に助けを求めるように指導し、職員がすぐに対応できるようにした。

＜事例２＞
・利用者個人の入所前の生活状況、帰宅願望等について、家族からの話が長くなると、EPA 介護福祉士にはわかりづらいこともあり、うまく返答ができないことがある。

対　応　例
・担当フロアー内で別の日本人職員が EPA 介護福祉士と一緒に家族からの話を聞いた。または、日本人職員が EPA 介護福祉士に代わって聞くようにした。

（２）課題：利用者や家族からの要望、複雑な質問等に対応できない。

＜事例１＞
・家族からケアプランの説明を求められたが対応がうまくできない。

対　応　例
・リーダーやケアマネージャーを呼ぶよう指導した。

＜事例２＞
・EPA 介護福祉士が利用者からの要望等の重要度の判断が出来ずに、後日になって、日本人職員が聞いていた等の場面があった。

対　応　例
・利用者からの要望等は速やかにフロアリーダー等に報告することを徹底した。

＜事例３＞
・利用者からの希望や訴え、家族からの指示や希望を聞き取れないことがある。

対　応　例
・利用者や家族から聞いたことが分からない時は、分からないまま曖昧な返事をせず、日本人職員を呼ぶように指導した。
・十分に日本語を理解できるようになるまでは、勘違いやトラブルにならないように必ず日本人職員が横に付いて話をするようにした。

＜事例４＞
・面会に来た家族から利用者の様子を聞かれた時に正しく答えることができないことがある。

対　応　例

・家族へ利用者の様子を確実に伝達するために、様子を聞かれた時は他職員へ報告し対応するようにした。
・EPA 介護福祉士が勝手に判断して返答をしないように指導した。困ったら周りの職員（リーダー）に聞くように指導した。
・入職時に家族へのお便りに EPA 介護福祉士を顔写真入りで紹介し、外国人がいることを理解してもらい、対応した。
・職員を交代させて家族や利用者に説明してその場は対応した。対応が終わった後、EPA 介護福祉士に家族の質問内容を説明し、対応の話し方も指導した。

＜事例５＞
・個別機能訓練のことなどを家族から聞かれた時に対応がうまくできないことがある。

対　応　例

・他職員が同席して細かい内容をフォローした。

（３）課題：利用者や家族に対して聞き間違いや理解したふりをする。

＜事例１＞
・利用者や家族から依頼されたことなどに対して、EPA 介護福祉士は返事をするが内容を理解していないことがあり、利用者や家族から問い合わせがあった。

対　応　例

・利用者や家族からの依頼内容は、すぐに担当者に報告をするよう指導した。EPA 介護福祉士の理解が乏しかった場合は、担当者から利用者、家族に再度内容確認を実施した。

＜事例２＞
・ある利用者から「トイレが便で汚れていたから、声をかけて掃除をして欲しいと頼んだけど、EPA 介護福祉士は返事だけして掃除はしてくれなかった。」という訴えがあった。

対　応　例

・EPA 介護福祉士には、わからなかったこと、聞きとれなかったことについては「わからない」「もう１度」と意思表示するよう指導した。「はい」と返事をすると利用者側は伝達されたもの、わかったものと捉え、業務に支障、ひいては利用者の不利益につながる可能性がある、と説明した。

（４）その他

＜事例１＞
・家族からの電話のやり取りや家族からの伝言（誰がどうするという内容）がうまく伝わらないことがある。

対　応　例

・電話の途中で日本人職員が一緒に聞ける時は聞く、又は代わって聞くようにした。ある程度対応困難と予測のつくものは、担当を外した。
・家族からの電話の内容によっては、日本人職員がすぐに折り返しの電話で対応するようにした。

＜事例２＞
・家族は、EPA 介護福祉士だからといって、サービスの質を下げてしまうことを望まない。家族側が、EPA 介護福祉士に対して気を遣わずに本人の日本語能力に合わせるのは難しい。

対　応　例

・EPA 介護福祉士が対応することでクレームになりそうな家族の対応は行わせないようにした。国籍に関わらず EPA 介護福祉士を歓迎する家族も中にはいるので、ケースバイケースで対応した。

3.3.4　EPA 介護福祉士が利用者や家族等に話す場面での課題と取組み事例

（1）課題：丁寧語、敬語の使い分けが難しい。

＜事例１＞
- 敬語を上手く使えないことが多く、話す場面で少し強い口調になる時がある。丁寧に話そうとするがきつく聞こえることがある。
- 日本人特有の直接的な表現を用いないで伝えるということが難しいため、卒直な表現で誤解を招くことがある。

対　応　例
- 基本的に丁寧語が使えるようになれば、どのような場面でも、相手に不快感を与えることが少ないため、敬語が上手くできなくても、丁寧語が使えるように指導した。

＜事例２＞
- 利用者はペースがゆっくりなので、むしろ、EPA 介護福祉士がゆっくり話してくれる部分では、利用者は聞き取りやすいようだ。ただ、EPA 介護福祉士が無理に正しい敬語を使おうとするため、間違った伝わり方をすることがある。

対　応　例
- 専門の学習以外に、介護現場での会話の学習なども交えて指導した。日常会話の中で、上司や同僚から、文法は教えられなくても、正しい言葉や文の使い方を教えた。

＜事例３＞
- 声かけ、コミュニケーションを行う上で敬語がどういう言葉なのかはっきり理解しないまま使っている様子が見られるため、場面によっては不適切な声かけになっている。家族への説明時は上手く伝えることができないため、あまり行っていない。

対　応　例
- 日本人職員と同様に言葉使いや不適切な表現等について研修や勉強会に参加する等で知識を養うようにした。

＜事例４＞
・当初は、敬語と丁寧語が混じった話し方になっていた。家族から話しかけられることもなかった。

対　応　例
・EPA 介護福祉士は、職員と積極的に会話をしたり、外出し、公共交通機関を利用して社会参加をすることで、敬語と普通の話し方の使い分けができるようになった。家族との信頼関係もでき、質問されたら的確に答えることができるようになった。

＜事例５＞
・敬語が上手く使いこなせないので、単発的な発言でのやりとりが多い。

対　応　例
・声かけの際は、必ず利用者の同意を得るようにしてから行動に移すように、自分の言葉で相手に伝っているかの確認も含めて EPA 介護福祉士に指導した。

＜事例６＞
・親しみのある話し方の中に、使い方のおかしい敬語が混ざる。「はい」ではなく「うん」と返事をすることがある。

対　応　例
・正しい敬語の使い方を説明し、日本人職員が気付いた時に指導した。相手に合わせた会話ができるよう練習した。

＜事例７＞
・利用者に対し「○○さん」とさん付けができない。

対　応　例
・日本での名前の呼び方を指導し、EPA 介護福祉士もさん付けで呼ぶようにした。日頃から積極的に話し、利用者の家族とも話しをするように指導した。

＜事例８＞
・家族が面会に来て施設内のどこに家族がいるのか分からない時、「どこにいますか」と聞かれても、EPA 介護福祉士は正しい敬語がとっさに出てこないことがある。

対　応　例
・ある程度、返答の内容が決まっているものは、デモストレーションをして対応方法を EPA 介護福祉士に覚えさせた。

（２）課題：利用者や家族への説明、突発的な事態への対応が難しい。

＜事例１＞
・家族に対して、利用者のケアプラン・リハビリ計画書・栄養マネジメント計画書の説明がうまくできない。

対　応　例
・日本人職員が隣に付いて一緒に話をし、トラブルにならないよう適宜補足しフォローした。
・EPA 介護福祉士が説明などを行う際は、日本人職員とともに行うようにした。また、不安な時はいつでも日本人職員を呼ぶように指導した。その際には日本人職員と同席させて対応方法を学ばせた。

＜事例２＞
・認知症入居者の対応や精神不穏入居者への臨機応変な関わりがなかなかできない。

対　応　例
・EPA 介護福祉士が家族と関わる時は、日本人介護職員が一緒に対応した。利用者と関わる時は笑顔を心掛けるように伝えた。ある程度の理解があり、上手に話せないこと、臨機応変な言葉が出ないことで不穏になってしまう利用者においては、日本人職員と交代するようにした。

＜事例３＞
・利用者にはEPA介護福祉士から話しかけ、利用者との会話中もトラブルなく笑顔が多くみられる。対応の仕方の理解が弱いこともあり、利用者が少し落ちつかなくなることもあったが、その後EPA介護福祉士から話かけて利用者を理解しようとする姿勢がみられている。

対　応　例
・EPA 介護福祉士が１人でスムーズに利用者と会話にならない時は日本人職員が介入し、話し方のコツなどを見て聞いて覚えさせた。

（３）課題：助詞、接続詞の使い方、発音等が難しい。

＜事例１＞
・日本語のニュアンスでこまかい部分までの会話が難しい。

対　応　例
・難しい会話になった時は日本人職員を呼ぶように指導した。

＜事例２＞
・間の取り方、文章の構成（主語・述語が逆転しており伝わらない)。発音が悪い。

対　応　例
・その都度指摘して指導した。

＜事例３＞
・利用者に話すときに早口になったり、発音がはっきりしないとなかなか聞き取ってもらえないことがある。

対　応　例
・ゆっくりと一言一言をはっきり話したり、身ぶりで表現するよう指導した。また、わからない時には必ず他の日本人職員に助けを求めるよう指導した。

＜事例４＞
・あいさつ、会話、声かけ（体操プログラムの説明等毎日のことでも)、イントネーションの違いから、利用者が聞きとれないことがある。

対　応　例

・利用者が比較的慣れているプログラムから EPA 介護福祉士に対応させるようにした。利用者がわかりにくい時には、EPA 介護福祉士に少しアドバイスして修正した。日本人職員が同じことを再度利用者に伝えフォローした。

＜事例５＞
・発音が上手くないため違う意味にとられ会話が成立しないことが多い。

対　応　例

・EPA 介護福祉士が利用者と会話をしているのを見かけたら、日本人職員が近くに寄って会話が成立するようにサポートした。

＜事例６＞
・EPA 介護福祉士が利用者や家族と話そうとしても短い会話で終わったり、返事をするだけになってしまう。EPA 介護福祉士が不安に感じているのか、家族とのコミュニケーションを少し避けることがある。

対　応　例

・難しい対応でなく、あいさつ等簡単なことから行ってもらった。
・できるだけ EPA 介護福祉士の方からコミュニケーションを始められるように利用者や家族との会話の機会を作った。

別添１	実習実施機関で行う標準的な日本語学習プログラム及び指導要領

１．入国後１年間の日本語学習カリキュラム

（１）概要

入国後１年間の日本語学習は、介護分野の技能実習生が円滑な実習生活を送るうえで、非常に重要な位置づけである。そのため、日本語の学習計画を立てる際は、監理団体や実習実施機関の日本語学習支援担当者が実習管理者や実習指導員と連携し、技能実習計画も考慮した日本語学習計画を作成する必要がある。そのため、以下の項目を正しく理解しておく必要がある。

（２）目標

実習生の日本語能力及び日本社会に対する理解を高めることにより、実習実施機関での実習が円滑に進むことを目的とする。日本語研修の１年間の到達目標は次のとおりとする。

① 日本語の基本的な会話、読み、聞く能力の確保
　※ 日本語能力試験 N3 程度以上のレベル
　※ 指導者からの指示を適切に理解できるレベル
② 日本での生活に関する情報の提供と体験
③ 日本の文化・社会に対する基本的理解
④ 日本の介護に関する基本的な知識の習得

（３）対象者

本カリキュラムでは、日本語能力試験 N4 程度を取得したものが、入国後約 10 か月で N3 程度に合格するレベルを目指す者を対象とする。

※ 実習生の国籍、母国での教育背景や職歴等を考慮して、入国時の日本語能力のレベルを確認する必要がある。

（４） １年間の学習計画の概要

介護職種の技能実習生が行う１年間の日本語学習の概要を以下に示す。

① 入国後講習

・技能実習制度において、入国後、監理団体が行う事が義務付けられている。
・制度の規定に従い、通常 2 か月程度の講習が行われる場合、200 時間程度の日本語学習時間を確保することが必要である。

② 実習実施機関で行われる日本語学習

・入国後講習後、実習実施機関における日本語学習は、入国後講習終了後、10 か月間を想定。
・実習実施機関が、技能実習と並行して N3 程度取得に向けた日本語学習支援を行う。
・特に、介護の技能実習では、指導者の指示を正確に聞き取る必要があることから、聴解学習プログラムを別途示している。

③ 日本語能力試験直前対策のための学習

・実習 1 年目の後半で日本語能力試験 N3 程度の合格が困難で、集中的な試験対策のための学習が必要とされた場合に活用できる。
・200 時間を約 2 か月（入国後 8～10 か月目）に学習を行うことが想定されている。
・日本語教育の専門家による実施想定されるため、監理団体の日本語教育専門家、または、日本語学校等の日本語教育機関と連携して行う。

（５）レベル判定

・1 年間の学習を進める際、定期的に日本語能力のレベル判定を行い、日本語学習の進捗を確認するとともに、日本語能力試験の受験時期を判断する。

・標準的なレベル判定の時期、実施方法を以下に示す。

<table>
<tr><th>時期</th><th>内容</th><th>方法</th></tr>
<tr><td>①　入国後 (※1)</td><td>筆記・聴解・口頭（インタビュー）</td><td>市販の模擬試験</td></tr>
<tr><td>②　2 か月後</td><td rowspan="4">筆記・聴解</td><td>市販の模擬試験</td></tr>
<tr><td>③　4 か月後</td><td rowspan="2">復習テスト (※2)</td></tr>
<tr><td>④　6 か月後</td></tr>
<tr><td>⑤　8 か月後</td><td>市販の模擬試験</td></tr>
</table>

（※1）「①入国後」は、1 か月間の入国後講習前に実施し、成績によりクラス分けやクラスカリキュラムを決定する。

（※2）復習テストとは日本語学習 WEB コンテンツの日本語学習補助教材を指す。

（参考：１年間の日本語学習のスケジュール）

			学習目標・内容等	実施形態	学習目標・内容等	実施形態	レベル判定
1 か月	**自律学習** WEB コンテンツにて、入国後講習後の目標をたてる	WEB コンテンツによる自律学習の進め方研修を実施する	【日本語】 ■目標例（N4 上位者） 自身の考えをまとまりのある単位（複数の文レベル）で発話することができる。 特定の職業（病院スタッフ、介護スタッフ）の人とのやりとりがある程度できる。 ■学習内容 4 技能（話す・聞く・書く・読む）の基礎力をバランスよく伸ばせるよう、科目をたてて指導する。 例）聴解、読解、会話など 【介護の日本語】 ■目標 実習実施機関で必要となる基礎的な介護のことばを覚え、円滑に業務が行えるようになる。	**（入国後講習）**監理団体による入国後講習			①入国後【模擬試験】**クラス分け** 必要に応じてレベル分けを行う。（「N3 取得者」「N4 上位者」「N4 下位者」の 3 段階を想定。）
2 か月							②2 か月後【模擬試験】**入国後講習の学習成果を確認**

			学習目標・内容等	実施形態	学習目標・内容等	実施形態	レベル判定
3 か月	**自律学習** WEB 上のドリルや小テストにて学習を進め、N3 程度の合格を目指す 自分でスケジュール計画をたてて、自律学習を進める	実習実施機関の日本語学習支援担当者は実習生と相談しながら受験スケジュールを組み、N3 程度の合格を目指す	実習実施機関での実務および、日本語能力試験 N3 程度の試験に合格できる日本語の習得を目指す。各実習生の実力に合わせて、学習を始める段階を選択する。 【必須科目（日本語）】 ■目標例（１段階） N3 レベルの問題に取り組めるように N4 レベルの日本語の理解力、運用力を高める。 ■学習内容 日本語能力試験 N3 程度の試験に合格するために、以下の科目を計画的に学習する ・文字・語彙・文法 ・読解・聴解・自律学習 【推薦科目（介護の日本語）】 ■目標 入職後に必要な介護のことばを覚え、円滑に業務がこなせるようになる。	**(2)** **実習実施機関における自律的な日本語学習** ＝実習生の日本語学習を実習実施機関の日本語学習支援担当者は定期的に学習状況を確認する。 ■留意点 実習生は計画的に日本語学習を進める。	聴解能力強化のための日本語学習 ■目標例 日本語の文の構造や初級文法をしっかりと理解し、細かい部分に注意を払って、正確に聞くことができる。 ■学習内容 市販の日本語（音声）教材を用いて、まとまりのある発話や自然なスピードでの会話の聞き取りを行う。	**(聴解学習)** 実習実施機関における自律的な日本語学習 ＝実習生の日本語学習を実習実施機関の日本語学習支援担当者は定期的に学習状況を確認する。 ■留意点 実習生は計画的に日本語学習を進める。	
4 か月							③4 か月後 【模擬試験】 **WEB にて復習テスト**
5 か月							
6 か月							④6 か月後 【模擬試験】 **WEB にて復習テスト**

			学習目標・内容等	実施形態	学習目標・内容等	実施形態	レベル判定
7 か月							
8 か月					N3 程度の合格に向けた試験対策 ＝6 か月後のレベルチェックにて結果の芳しくなかった実習生は合格するための最後の機会 ■目標 数多くの問題を通して、正答率 70%以上を目指す ■学習内容 時間をはかって問題演習 解答テクニックの習得	**（直前学習）** 監理団体（または実習実施機関）運営による入国後講習 または、民間の日本語学校に委託 ■留意点 日本語教師（有資格者）による日本語指導が望ましい	⑤8 か月後 【模擬試験】 **市販のテストにて熟達度確認**
9 か月							
10 か月							
11 か月							
12 か月		各種手続					

２．実習実施機関での日本語学習指導要領

（１）目標

実習生の日本語能力及び日本社会に対する理解を深めることにより、実習実施機関での介護の実務、および実習が少しでも円滑に進むようになることを目的とし、日本語能力試験 N3 程度の試験に合格できる日本語力の習得を目指す。

（２）科目

「必須科目」と「推薦科目」に分類する。「必須科目」は日本語能力試験 N3 程度の試験に合格するための学習科目で構成し、「推薦科目」は実習実施機関での実務および実習が円滑に進むようになるための学習科目で構成する。各科目の具体的な内訳は、下記の通りである。

・必須科目：文法、語彙、読解、文字、聴解、自律学習
・推薦科目：発音、介護の日本語

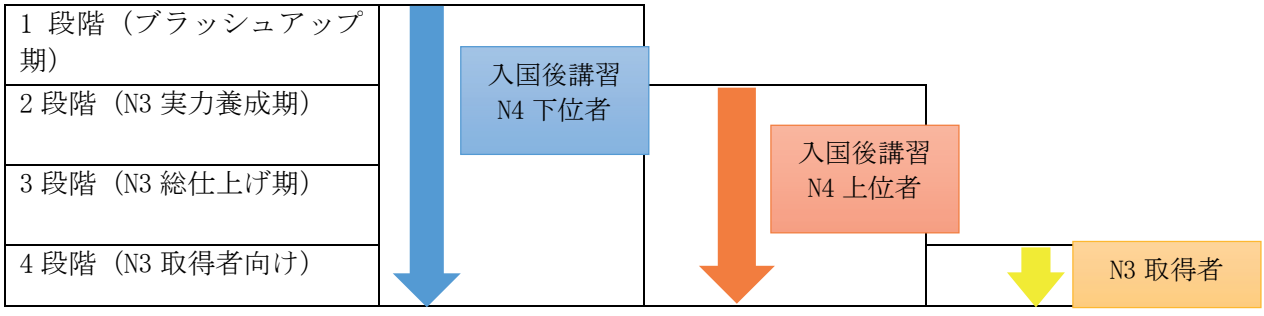
（３）教材の準備

① カリキュラムを参考に、科目ごとに適切な教材を使用する。
② 実習生一人一人に教材を配付し、自宅学習が可能にすることが望ましい。

（４）学習の進め方（入国後講習のレベルとの対応）

・効率的に学習を進めるために、1～4 段階ごとにシラバスを立案しており、1 段階ごとの学習期間は 2 か月間である。下記の記述を参考に各実習生の日本語能力に合わせて、学習を始める段階を選択することが望ましい。
・入国後講習において、「N4 下位者向け」の研修を受講した実習生は 1 段階目の「ブラッシュアップ（復習を兼ねた日本語力向上）期」から、「N4 上位者向け」の研修を受講した実習生は 2 段階目の「N3 実力養成期」から、「N3 取得者向け」の研修を受講した実習生は 4 段階目の「N3 取得者向け」から学習を開始するのが望ましい。研修の途中で N3 程度の試験に合格した場合は、4 段階目の「N3 取得者向け」の学習に移行し、更なる日本語力の向上を目指すことを推奨する。

＜学習モデル例＞



（５）時間割例

標準的なプログラムで示した内容に沿って、以下に示す時間割例を参考に、日本語学習計画を立案する。但し、本手引きで示した標準的な学習プログラム（1～3 段階）を 6 か月間で行う場合、少なくとも 1 週間当たり約 8 時間の学習時間の確保が必要。

（例）1 段階～3 段階の場合の 1 週間の学習モデル

	必須科目	推薦科目
月	文字、語彙、文法	発音、介護の日本語
火	文字、語彙、読解	発音、介護の日本語
水	文字、語彙、文法	発音、介護の日本語
木	文字、語彙、聴解	発音、介護の日本語
金	文字、語彙、文法	発音、介護の日本語
土	文字、語彙、文法、読解	発音、介護の日本語
日	文字、語彙、文法、聴解	発音、介護の日本語

※1 週間に 1 度、自律学習で学習の振り返りを行う。

（例）2 段階の場合の日々の学習モデル

月	・文字： 学習目安 『漢字マスターN3』を 2 日で 1 ページのペースで進める ・語彙： 学習目安 『日本語総まとめ N3 語彙』を 1 日 2 ページのペースで進める ・文法： 学習目安 『日本語総まとめ N3 文法』を 1 日 2 ページのペースで進める
火	・文字： 学習目安 『漢字マスターN3』を 2 日で 1 ページのペースで進める ・語彙： 学習目安 『日本語総まとめ N3 語彙』を 1 日 2 ページのペースで進める ・読解： 学習目安 『日本語総まとめ N3 読解』を 1 日 4 ページのペースで進める
水	・文字： 学習目安 『漢字マスターN3』を 2 日で 1 ページのペースで進める ・語彙： 学習目安 『日本語総まとめ N3 語彙』を 1 日 2 ページのペースで進める ・文法： 学習目安 『日本語総まとめ N3 文法』を 1 日 2 ページのペースで進める
木	・文字： 学習目安 『漢字マスターN3』を 2 日で 1 ページのペースで進める ・語彙： 学習目安 『日本語総まとめ N3 語彙』を 1 日 2 ページのペースで進める ・聴解： 学習目安 『日本語総まとめ N3 聴解』を 1 日 4 ページのペースで進める
金	・文字： 学習目安 『漢字マスターN3』を 2 日で 1 ページのペースで進める ・語彙： 学習目安 『日本語総まとめ N3 語彙』を 1 日 2 ページのペースで進める ・文法： 学習目安 『日本語総まとめ N3 文法』を 1 日 2 ページのペースで進める
土	・文字： 学習目安 『漢字マスターN3』を 2 日で 1 ページのペースで進める ・語彙： 学習目安 『日本語総まとめ N3 語彙』を 1 日 2 ページのペースで進める ・文法： 学習目安 『日本語総まとめ N3 文法』を 1 日 2 ページのペースで進める ・読解： 学習目安 『日本語総まとめ N3 読解』を 1 日 4 ページのペースで進める
日	・文字： 学習目安 『漢字マスターN3』を 2 日で 1 ページのペースで進める ・語彙： 学習目安 『日本語総まとめ N3 語彙』を 1 日 2 ページのペースで進める ・文法： 学習目安 『日本語総まとめ N3 文法』を 1 日 2 ページのペースで進める ・聴解： 学習目安 『日本語総まとめ N3 聴解』を 1 日 4 ページのペースで進める

（例） 4 段階の場合の 1 週間の学習モデル

※ N3 程度を既に取得した場合においても、日本語学習支援担当者は、日本語の基本的な知識を確実にするために、実習生に学習継続を薦める。

	必須科目	推薦科目
月	文字、総合日本語	発音、介護の日本語
火	文字、聴解	発音、介護の日本語
水	文字、総合日本語	発音、介護の日本語
木	文字、読解	発音、介護の日本語
金	文字、聴解	発音、介護の日本語
土	文字、総合日本語	発音、介護の日本語
日	文字、総合日本語	発音、介護の日本語

※1 週間に 1 度、自律学習で学習の振り返りを行う。

（6） 学習の進め方

1段階：ブラッシュアップ期（復習を兼ねた日本語能力の向上）

目標	N3 レベルの問題に取り組めるように N4 レベルの日本語の理解力、運用力を高める。	
科目ごとの学習の概要		
①文法	目標	文脈の中で、基本文法（N4）を上手に運用することができる。
	教材例	・『新完全マスター文法 日本語能力試験 N4』（スリーエーネットワーク） ・『にほんごチャレンジ N4【文法と読む練習】』（アスク出版） ・『日本語能力試験問題集 N4 文法スピードマスター』（Ｊリサーチ出版） 等
	進め方例	１．問題を解き、解答解説を見て答え合わせをする。 ２．解答解説を見ても理解が不十分な時は、実習実施機関の日本語学習支援担当者に質問する。
②語彙	目標	基礎語彙（N4 語彙）1500 語程度を運用することができる。
	教材例	・『はじめての日本語能力試験 N4 単語 1500』（アスク） ・『日本語能力試験対策 N4 漢字・語彙・文法』（三修社） ・『日本語能力試験問題集 N4 語彙スピードマスター』（Ｊリサーチ出版）、等
	進め方例	１．問題を解き、解答解説を見て答え合わせをする。 ２．解答解説を見ても理解が不十分な時は、実習実施機関の日本語学習支援担当者に質問する。
③読解	目標	読解力を伸ばすためのポイントを理解し、N4 レベルの試験に出題される様々なタイプの文章に触れながら、読解力を高める。

	教材例	・『実力アップ！日本語能力試験 N4　読む』（ユニコム） ・『日本語能力試験問題集 N4 読解スピードマスター』（Ｊリサーチ出版）等
	進め方例	１．問題を解き、解答解説を見て答え合わせをする。 ２．解答解説を見ても理解が不十分な時は、実習実施機関の日本語学習支援担当者に質問する。
④文字	目標	・N3 漢字 220 字程度が読め、書ける。 ・日常生活でよく目にする漢字の意味が理解できる。
	教材例	『漢字マスターN3』（三修社）等
	進め方例	１．漢字の読み、正しい書き方を１文字ずつ着実に覚える。 ２．学習した漢字の用例を確認する。 ３．章ごとの復習問題を解き、学習した漢字の定着度を確認する。定着状況がよくない漢字については、復習を行う。
⑤聴解	目標	聴解のポイントを理解し、N4 レベルの試験で高得点が取れる聴解力をつける。
	教材例	・『耳から覚える日本語能力試験 N4 聴解トレーニング』（アルク） ・『実力アップ！日本語能力試験 N4　聴解』（ユニコム） ・『日本語能力試験問題集 N4 聴解スピードマスター』（Ｊリサーチ出版）、等
	進め方例	１．問題を解き、解答解説を見て答え合わせをする。 ２．解答解説を見ても理解が不十分な時は、実習実施機関の日本語学習支援担当者に質問する。
⑥発音	目標	2 週間に 1 つの歌を歌って覚える。曲を忠実に再現できるように発音に注意する。目標 4 曲。
	教材例	「みんなで聞こう　日本の歌」 http://nihon-no-uta.jp/　（2017 年 1 月現在）

	進め方例	1．実習実施機関の日本語学習支援担当者に相談して選曲する。 2．歌と歌詞を入手し、カラオケで歌えるように練習する。 3．2 週間に 1 回は、実習実施機関の日本語学習支援担当者に歌を披露する。
⑦ 介護の日本語	目標	入職後に必要な介護のことばを覚え、円滑に業務がこなせるようになる。
	教材例	『介護の日本語』
	進め方例	上記教材例を用いて、1 日当たり 5 個程度のことばを学習する。 1．学習する介護のことばが使用される場面を確認する。 2．イラストや写真で理解を深めながら、ことばの意味と発音を確認する。 3．実際の介護の現場では、学習したことばがどのような発話例で用いられるかを学習し、理解を深める。
⑧ 自律学習 （1 週間に 1 度のペースで学習の振り返りを行う）	目標	自律学習スキルを習得し、目標に向かって学習計画をたて、計画に沿って学習を進め、振り返りを行うことで、N3 程度の合格までの学習が円滑に進められるようになる。
	教材例	日本語学習補助 Web コンテンツ
	進め方例	1．自律学習支援ノートを用いて、今週の学習を振り返り、学習に対する自己評　価を行う。 2．次週の学習目標を立て、学習計画を立てる。 3．実習実施機関の日本語学習支援担当者に学習の進捗状況を報告する。

2段階：N3 実力養成期

目標	N3 レベルの問題に取り組み、N3 程度の合格への実力をつける。	
科目ごとの学習の概要		
①文法	目標	会話や文章中の用例を通してN3 レベルの文法を学習し、文型が使われる場面や状況、意味や用法が的確にとらえることができるようになる。
	教材例	・『日本語総まとめ N3 文法』（アスク出版） ・『耳から覚える日本語能力試験 N3 文法トレーニング』（アルク）、等
	進め方例	１．問題を解き、解答解説を見て答え合わせをする。 ２．解答解説を見ても理解が不十分な時は、実習実施機関の日本語学習支援担当者に質問する。
②語彙	目標	類義語や対義語などの関連語の学習を進めながら語彙を増やし、N3 レベルの語彙を理解し、運用できるようになる。
	教材例	・『日本語総まとめ N3 語彙』（アスク出版） ・『日本語能力試験対策 N3 漢字・語彙・文法』（三修社）、等
	進め方例	１．問題を解き、解答解説を見て答え合わせをする。 ２．解答解説を見ても理解が不十分な時は、実習実施機関の日本語学習支援担当者に質問する。
③読解	目標	N3 レベルの試験に出題される多様なタイプの文章に触れながら、文章読解に必要な語句や表現を整理し、効率よく情報を処理する力を養い、読解力を高める。
	教材例	・『日本語総まとめ N3 読解』（アスク出版） ・『実力アップ！日本語能力試験 N3　読む』（ユニコム）、等
	進め方例	１．問題を解き、解答解説を見て答え合わせをする。 ２．解答解説を見ても理解が不十分な時は、実習実施機関の日本語学習支援担当者に質問する。

④文字	目標	・N3 漢字が読め、書ける。 ・日常生活でよく目にする漢字の意味が理解できる。
	教材例	『漢字マスターN3』（三修社）　等
	進め方例	１．漢字の読み、正しい書き方を１文字ずつ着実に覚える。 ２．学習した漢字の用例を確認する。 ３．章ごとの復習問題を解き、学習した漢字の定着度を確認する。定着状況がよくない漢字については、復習を行う。
⑤聴解	目標	・会話文の特徴と話し言葉の音の変化を整理し、聴解力を身につける。 ・N3 の聴解で出題される 5 つの問題形式（「発話表現」「即時応答」「課題理解」「ポイント理解」「概要理解」）に慣れ、高得点をとるスキルを身につける。
	教材例	・『日本語総まとめ N3 聴解』（アスク出版） ・『耳から覚える日本語能力試験 N3 聴解トレーニング』（アルク）、等
	進め方例	１．問題を解き、解答解説を見て答え合わせをする。 ２．解答解説を見ても理解が不十分な時は、実習実施機関の日本語学習支援担当者に質問する。
⑥発音	目標	2 週間に 1 つの歌を歌って覚える。曲を忠実に再現できるように発音に注意する。目標 4 曲。
	教材例	「みんなで聞こう　日本の歌」 http://nihon-no-uta.jp/　（2017 年 1 月現在）
	進め方例	１．実習実施機関の日本語学習支援担当者に相談して選曲する。 ２．歌と歌詞を入手し、カラオケで歌えるように練習する。 ３．2 週間に 1 回は、実習実施機関の日本語学習支援担当者に歌を披露する。

⑦ 介護の日本語	目標	入職後に必要な介護のことばを覚え、円滑に業務がこなせるようになる。
	教材例	『介護の日本語』
	進め方例	上記教材例を用いて、1日当たり5個程度のことばを学習する。 １．学習する介護のことばが使用される場面を確認する。 ２．イラストや写真で理解を深めながら、ことばの意味と発音を確認する。 ３．実際の介護の現場では、学習したことばがどのような発話例で用いられるかを学習し、理解を深める。
⑧ 自律学習 （1週間に1度のペースで学習の振り返りを行う）	目標	自律学習スキルを習得し、目標に向かって学習計画をたて、計画に沿って学習を進め、振り返りを行うことで、N3程度の合格までの学習が円滑に進められるようになる。
	教材例	日本語学習補助Webコンテンツ
	進め方例	１．自律学習支援ノートを用いて、今週の学習を振り返り、学習に対する自己評価を行う。 ２．次週の学習目標を立て、学習計画を立てる。 ３．実習実施機関の日本語学習支援担当者に学習の進捗状況を報告する。

3段階：N3 総仕上げ期

目標	N3 レベルの問題に取り組み、N3 程度の合格への実力をつける。	
科目ごとの学習の概要		
①文法	目標	会話や文章中の用例を通して N3 レベルの文法を学習し、文型が使われる場面や状況、意味や用法が的確にとらえることができるようになる。
	教材例	・『新完全マスター文法 日本語能力試験 N3』（スリーエーネットワーク） ・『日本語能力試験問題集 N3 文法スピードマスター』（Ｊリサーチ出版） 等
	進め方例	１．問題を解き、解答解説を見て答え合わせをする。 ２．解答解説を見ても理解が不十分な時は、実習実施機関の日本語学習支援担当者に質問する。
②語彙	目標	類義語や対義語などの関連語の学習を進めながら語彙を増やし、N3 レベルの語彙を理解し、運用できるようになる。
	教材例	・『日本語能力試験問題集 N3 語彙スピードマスター』（Ｊリサーチ出版） ・『はじめての日本語能力試験 N3 単語 2000』（アスク） 等
	進め方例	１．問題を解き、解答解説を見て答え合わせをする。 ２．解答解説を見ても理解が不十分な時は、実習実施機関の日本語学習支援担当者に質問する。
③読解	目標	N3 レベルの試験に出題される多様なタイプの文章に触れながら、文章読解に必要な語句や表現を整理し、効率よく情報を処理する力を養い、読解力を高める。
	教材例	・『新完全マスター読解 日本語能力試験 N3』（スリーエーネットワーク） ・『日本語能力試験問題集 N3 読解スピードマスター』（Ｊリサーチ出版） 等

	進め方例	1．問題を解き、解答解説を見て答え合わせをする。 2．解答解説を見ても理解が不十分な時は、実習実施機関の日本語学習支援担当者に質問する。
④文字	目標	・N3 漢字が読め、書ける。 ・日常生活でよく目にする漢字の意味が理解できる。
	教材例	『漢字マスターN3』（三修社）　等
	進め方例	1．漢字の読み、正しい書き方を１文字ずつ着実に覚える。 2．学習した漢字の用例を確認する。 3．章毎の復習問題を解き、学習した漢字の定着度を確認する。定着状況がよくない漢字については、復習を行う。
⑤聴解	目標	・会話文の特徴と話し言葉の音の変化を整理し、聴解力を身につける。 ・N3 の聴解で出題される 5 つの問題形式（「発話表現」「即時応答」「課題理解」「ポイント理解」「概要理解」）に慣れ、高得点をとるスキルを身につける。
	教材例	・『新完全マスター聴解 日本語能力試験 N3』 （スリーエーネットワーク） ・『日本語能力試験問題集 N3 聴解スピードマスター』 （Ｊリサーチ出版）　等
	進め方例	1．問題を解き、解答解説を見て答え合わせをする。 2．解答解説を見ても理解が不十分な時は、実習実施機関の日本語学習支援担当者に質問する。
⑥発音	目標	2 週間に 1 つの歌を歌って覚える。介護歌詞を忠実に再現できるように発音に注意する。目標 4 曲。
	教材例	「みんなで聞こう　日本の歌」 http://nihon-no-uta.jp/　（2017 年 1 月現在）

	進め方例	1．実習実施機関の日本語学習支援担当者に相談し選曲する。 2．歌と歌詞を自身で入手し、カラオケで歌えるように練習する。 3．2 週間に 1 回は、実習実施機関において歌を披露する機会を設定する。
⑦ 介護の日本語	目標	入職後に必要な介護のことばを覚え、円滑に業務がこなせるようになる。
	教材例	『介護の日本語』
	進め方例	上記教材例を用いて、1 日当たり 5 個程度のことばを学習する。 1.学習する介護のことばが使用される場面を確認する。 2．イラストや写真で理解を深めながら、ことばの意味と発音を確認する。 3．実際の介護の現場では、学習したことばがどのような発話例で用いられるかを学習し、理解を深める。
⑧ 自律学習 （1 週間に 1 度のペースで学習の振り返りを行う）	目標	自律学習スキルを習得し、目標に向かって学習計画をたて、計画に沿って学習を進め、振り返りを行うことで、N3 程度の合格までの学習が円滑に進められるようになる。
	教材例	日本語学習補助 Web コンテンツ
	進め方例	1．自律学習支援ノートを用いて、今週の学習を振り返り、学習に対する自己評価を行う。 2．次週の学習目標を立て、学習計画を立てる。 3．実習実施機関の日本語学習支援担当者に学習の進捗状況を報告する。

4段階：N3取得後

目標	総合的な日本語運用力を高め、実習実施機関において、ある程度円滑にやりとりすることができるようになる。	
科目ごとの学習の概要		
① 総合 日本語 （総合的に日本語能力を伸ばすことができる教材を選定する）	目標	文章を読解したり、自分の力で文章をまとめたりすることを通して日本語の運用力を高める。
	教材例	・『話す・書くにつながる！日本語読解　中級』（アルク） ・『改訂版　トピックによる日本語総合演習 - テーマ探しから発表へ - 中級後期』（スリーエーネットワーク） 等
	進め方例	1．読解文を読み、問題を解く。解答を見て、答え合わせをする。 2．解説を見ながら、読解文中の語彙や文法を学習する。 3．読解したテーマの感想や意見、自分で調べたことをまとめて、実習実施機関の日本語学習支援担当者に話す。 4．解答解説を見ても理解が不十分な時は、実習実施機関の日本語学習支援担当者に質問する。
②読解	目標	解説、エッセイ、小説など500字以上のテキストを読んで、概要や論理の展開などが理解できる。
	教材例	・『にほんご多読ブックス』（大修館書店） ・『レベル別日本語多読ライブラリー（にほんご読む読む文庫）』（アスク出版）　等
	進め方例	1．自分のレベルや興味に合った読み物を選び、読解する。 2．読解した文章の感想や意見を実習実施機関の日本語学習支援担当者に話す。 3．読解した文章で理解が不十分な個所があった場合は、実習実施機関の日本語学習支援担当者に質問する。

③文字	目標	介護看護の現場で使われる漢字や N2 レベルの漢字の読み書きができるようになる。
	教材例	・『介護看護の漢字マスター』（三修社） ・『漢字マスターN2』（三修社）　等
	進め方例	１．漢字の読み、正しい書き方を１文字ずつ着実に覚える。 ２．学習した漢字の用例を確認する。 ３．章ごとの復習問題を解き、学習した漢字の定着度を確認する。定着状況がよくない漢字については、復習を行う。
④聴解	目標	日常生活における様々な形式の自然な会話が理解できる。
	教材例	・『日本語生中継　聞いて覚える話し方（初中級編 2）』（くろしお出版） ・『LIVE from TOKYO』（ジャパンタイムズ）　等
	進め方例	１．問題を解き、解答解説を見て答え合わせをする。 ２．解答解説を見ても理解が不十分な時は、実習実施機関の日本語学習支援担当者に質問する。
⑤発音	目標	2 週間に１つの歌を歌って覚える。曲を忠実に再現できるように発音に注意する。目標 4 曲。
	教材例	「みんなで聞こう　日本の歌」 http://nihon-no-uta.jp/　（2017 年 1 月現在）
	進め方例	１．実習実施機関の日本語学習支援担当者に相談し選曲する。 ２．歌と歌詞を入手し、カラオケで歌えるように練習する。 ３．2 週間に 1 回は、実習実施機関の日本語学習支援担当者に歌を披露する。

⑥ 介護の日本語	目標	入職後に必要な介護のことばを覚え、円滑に業務がこなせるようになる
	教材例	『介護の日本語』
	進め方例	上記教材例を用いて、1 日当たり 5 個程度のことばを学習する。 １.学習する介護のことばが使用される場面を確認する。 ２．イラストや写真で理解を深めながら、ことばの意味と発音を確認する。 ３．実際の介護の現場では、学習したことばがどのような発話例で用いられるかを学習し、理解を深める。
⑦ 自律学習 （1 週間に 1 度のペースで学習の振り返りを行う）	目標	自律学習スキルを習得し、目標に向かって学習計画をたて、計画に沿って学習を進め、振り返りを行うことで、日本語の学習が円滑に進められるようになる。
	教材例	日本語学習補助 Web コンテンツ
	進め方例	１．自律学習支援ノートを用いて、今週の学習を振り返り、学習に対する自己評価を行う。 ２．次週の学習目標を立て、学習計画を立てる。 ３．実習実施機関の日本語学習支援担当者に学習の進捗状況を報告する。

実習実施機関での日本語学習　シラバス

				必須科目					推薦科目		
		全体目標	科目	文法	語彙	読解	文字	聴解	発音	介護の日本語	自律学習
1段階	ブラッシュアップ期	N3レベルの問題に取り組めるようにN4レベルの日本語の理解力、運用力を高める。	目標	・文脈の中で、基本文法（N4）を上手に運用することができる。	・基礎語彙（N4語彙）1500語程度を運用することができる。	・読解力を伸ばすためのポイントを理解し、N4レベルの試験に出題される様々なタイプの文章に触れながら、読解力を高める。	・N3漢字220字程度が読め、書ける。 ・日常生活でよく目にする漢字の意味が理解できる	・聴解のポイントを理解し、N4レベルの試験で高得点が取れる聴解力をつける。	・2週間に1つの歌を歌って覚える。曲を忠実に再現できるように発音に注意する。目標4曲。	・入職後に必要な介護のことばを覚え、円滑に業務がこなせるようになる。	・自律学習スキルを習得し、目標に向かって学習計画をたて、計画に沿って学習を進め、振り返りを行うことで、N3程度の合格までの学習が円滑に進められるようになる。
			教材例	・『新完全マスター文法 日本語能力試験N4』 ・『にほんごチャレンジN4【文法と読む練習】』 ・『日本語能力試験問題集N4文法スピードマスター』等	・『はじめての日本語能力試験N4単語1500』 ・『日本語能力試験対策N4漢字・語彙・文法』 ・『日本語能力試験問題集N4語彙スピードマスター』等	・『実力アップ！日本語能力試験N4　読む』 ・『日本語能力試験問題集N4読解スピードマスター』等	『漢字マスターN3』等	・『耳から覚える日本語能力試験N4聴解トレーニング』 ・『実力アップ！日本語能力試験N4　聴解』 ・『日本語能力試験問題集N4聴解スピードマスター』等	「みんなで聞こう　日本の歌」 http://nihon-no-uta.jp/ （2017年1月現在）	『介護の日本語』	日本語学習補助Webコンテンツ
		全体目標	科目	文法	語彙	読解	文字	聴解	発音	介護の日本語	自律学習
2段階	N3実力養成期	・N3レベルの問題に取り組み、N3程度の合格への実力をつける。	目標	・会話や文章中の用例を通してN3レベルの文法を学習し、文型が使われる場面や状況、意味や用法が的確にとらえることができるようになる。	・類義語や対義語などの関連語の学習を進めながら語彙を増やし、N3レベルの語彙を理解し、運用できるようになる。	・N3レベルの試験に出題される多様なタイプの文章に触れながら、文章読解に必要な語句や表現を整理し、効率よく情報を処理する力を養い、読解力を高める。	・N3漢字が読め、書ける。 ・日常生活でよく目にする漢字の意味が理解できる。	・会話文の特徴と話し言葉の音の変化を整理し、聴解力を身につける。 ・N3の聴解で出題される5つの問題形式（「発話表現」「即時応答」「課題理解」「ポイント理解」「概要理解」）に慣れ、高得点をとるスキルを身につける。	・2週間に1つの歌を歌って覚える。曲を忠実に再現できるように発音に注意する。目標4曲。	・入職後に必要な介護のことばを覚え、円滑に業務がこなせるようになる。	・自律学習スキルを習得し、目標に向かって学習計画をたて、計画に沿って学習を進め、振り返りを行うことで、N3程度の合格までの学習が円滑に進められるようになる。
			教材例	・『日本語総まとめN3文法』 ・『耳から覚える日本語能力試験N3文法トレーニング』等	・『日本語総まとめN3語彙』 ・『日本語能力試験対策N3漢字・語彙・文法』等	・『日本語総まとめN3読解』 ・『実力アップ！日本語能力試験N3　読む』等	・『漢字マスターN3』等	・『日本語総まとめN3聴解』 ・『耳から覚える日本語能力試験N3聴解トレーニング』等	「みんなで聞こう　日本の歌」 http://nihon-no-uta.jp/ （2017年1月現在）	『介護の日本語』	日本語学習補助Webコンテンツ
		全体目標	科目	文法	語彙	読解	文字	聴解	発音	介護の日本語	自律学習
3段階	N3総仕上げ期	・N3レベルの問題に取り組み、N3程度の合格への実力をつける。	目標	・会話や文章中の用例を通してN3レベルの文法を学習し、文型が使われる場面や状況、意味や用法が的確にとらえることができるようになる。	・類義語や対義語などの関連語の学習を進めながら語彙を増やし、N3レベルの語彙を理解し、運用できるようになる。	・N3レベルの試験に出題される多様なタイプの文章に触れながら、文章読解に必要な語句や表現を整理し、効率よく情報を処理する力を養い、読解力を高める。	・N3漢字が読め、書ける。 ・日常生活でよく目にする漢字の意味が理解できる。	・会話文の特徴と話し言葉の音の変化を整理し、聴解力を身につける。 ・N3の聴解で出題される5つの問題形式（「発話表現」「即時応答」「課題理解」「ポイント理解」「概要理解」）に慣れ、高得点をとるスキルを身につける。	・2週間に1つの歌を歌って覚える。曲を忠実に再現できるように発音に注意する。目標4曲。	・入職後に必要な介護のことばを覚え、円滑に業務がこなせるようになる。	・自律学習スキルを習得し、目標に向かって学習計画をたて、計画に沿って学習を進め、振り返りを行うことで、N3程度の合格までの学習が円滑に進められるようになる。
			教材例	・『新完全マスター文法 日本語能力試験N3』 ・『日本語能力試験問題集N3文法スピードマスター』等	・『日本語能力試験問題集N3語彙スピードマスター』 ・『はじめての日本語能力試験N3単語2000』等	・『新完全マスター読解 日本語能力試験N3』 ・『日本語能力試験問題集N3読解スピードマスター』等	・『漢字マスターN3』等	・『新完全マスター聴解 日本語能力試験N3』 ・『日本語能力試験問題集N3聴解スピードマスター』等	「みんなで聞こう　日本の歌」 http://nihon-no-uta.jp/ （2017年1月現在）	『介護の日本語』	日本語学習補助Webコンテンツ
		全体目標	科目	総合日本語		読解	文字	聴解	発音	介護の日本語	自律学習
4段階	N3取得者向け	・総合的な日本語運用力を高め、実習実施機関において、ある程度円滑にやりとりすることができるようになる。	目標	・文章を読解したり、自分の力で文章をまとめたりすることを通して日本語の運用力を高める。		・解説、エッセイ、小説など500字以上のテキストを読んで、概要や論理の展開などが理解できる。	・介護看護の現場で使われる漢字やN2レベルの漢字の読み書きができるようになる。	・日常生活における様々な形式の自然な会話が理解できる。	・2週間に1つの歌を歌って覚える。曲を忠実に再現できるように発音に注意する。目標4曲。	・入職後に必要な介護のことばを覚え、円滑に業務がこなせるようになる。	・自律学習スキルを習得し、目標に向かって学習計画をたて、計画に沿って学習を進め、振り返りを行うことで、日本語の学習が円滑に進められるようになる。
			教材例	・『話す・書くにつながる！日本語読解　中級』 ・『改訂版　トピックによる日本語総合演習-テーマ探しから発表へ-中級後期』等		・『にほんご多読ブックス』 ・『レベル別日本語多読ライブラリー（にほんご読む読む文庫）』等	・『介護看護の漢字マスター』 ・『漢字マスターN2』等	・『日本語生中継　聞いて覚える話し方（初中級編2）』 ・『LIVE from TOKYO』等	「みんなで聞こう　日本の歌」 http://nihon-no-uta.jp/ （2017年1月現在）	『介護の日本語』	日本語学習補助Webコンテンツ

３．聴解学習指導要領

（１）目標

① 前半目標：

日本語の文の構造や初級文法をしっかりと理解し、細かい部分に注意を払って、正確に聞くことができる。

② 後半目標：

日常生活の中で遭遇する可能性の高い場面で使用される自然な表現（言い回しやことば等）を正確に聞き取り、的確に応答することができる。

（２）対象者

・入国後講習において、N4 下位者向け研修に参加した者は全員を対象とすることが望ましい。

・入国後講習において、N4 上位者向け研修参加者は、聴解の評価がＣ以下の実習生を対象とすることが望ましい。（評価の詳細については、日本語講習の項を参照）

（３）教材の準備

・実習生一人一人に教材を配付し、自己学習を可能にする。

（４）学習の進め方

・安定した聴解力を身につけるために、1 日 1 時間、1 週間で約 5 時間の聴解練習を 10 週間継続して行うことを想定している。（合計約 50 時間）

①前半（１～４週目）	
教材例	・『聴解が弱いあなたへ』（凡人社） ・『毎日の聞き取り 50 日下』（凡人社）　等
練習例	・日本語の音を正確に聞きわける練習：音声を聞いて、正しい文法を選ぶ　等 ・まとまりのある会話を聞いて大意をつかむ練習：会話の内容と合っているものを選ぶ　等
進め方例	1.既習の文法や文型を聞いて理解できるかどうかを確認する基本な問題に取り組む。細かい部分にもよく注意して聞き取るようにする。 2. 文型を使った会話練習の聴解問題に取り組む。会話が行われている場面を想像しながら聞き、会話の内容を理解する。聞き取れなかったところは、何回も繰り返し聞くようにする。どうしても分からない場合は、教材に付属しているスクリプトを見て確認し、再度聞き取り練習を行うとよい。 3.聞いた内容の感想などを実習実施機関の日本語学習支援担当者に話すようにすると、実践的なコミュニケーションの練習になるので、実施するのが望ましい。

②後半（５～10 週目）	
教材例	・『実力アップ！　日本語能力試験　N3　聞く　聴解』（ユニコム） ・『TRY! 日本語能力試験 N3 文法から伸ばす日本語』（アスク） ・『日本語総まとめ　N3　聴解』（アスク）　等
練習例	・キーワードを正確に聞き取る練習：空欄にあてはまることばや文を選ぶ　等 ・自然なスピードの会話を聞いて、正しく応答する：会話の流れから、的確な応答例を選ぶ　等
進め方例	１．問題文を聞き、適切な選択肢を選ぶ。 ２．的確な応答例や表現を選ぶタイプの問題のときは、実際に正しい日本語で答えが言えるようになるまで声に出して練習する。滑らかに言えるまで、繰り返し練習することが望ましい。

聴解学習シラバス

	目標	教材例	練習例
前半 1～4週目	日本語の文の構造や初級文法をしっかりと理解し、細かい部分に注意を払って、正確に聞くことができる。	•『聴解が弱いあなたへ』 •『毎日の聞き取り50日下』等	日本語の音を正確に聞きわける練習 ・・・音声を聞いて、正しい文法を選ぶ　等 まとまりのある会話を聞いて大意をつかむ練習 ・・・会話の内容と合っているものを選ぶ　等
後半 5～10週目	日常生活の中で遭遇する可能性の高い場面で使用される自然な表現（言い回しやことば等）を正確に聞き取り、的確に応答することができる。	•『実力アップ！　日本語能力試験　N3　聞く聴解』 •『TRY! 日本語能力試験 N3 文法から伸ばす日本語』 •『日本語総まとめ　N3　聴解』等	キーワードを正確に聞き取る練習 ・・・空欄にあてはまることばや文を選ぶ　等 自然なスピードの会話を聞いて、正しく応答する ・・・会話の流れから、的確な応答例を選ぶ　等

４．日本語能力試験対策学習指導要領

（１）目標.

N3 程度の公的な日本語試験に合格する。具体的な到達目標は次のとおりとする。

① 1 か月目：【ポイント整理】

・基本知識を再確認する。

・設問の傾向とポイントを理解する。

② 2 か月目：【実践演習形式】

・数多くの問題を通して、正答率 70%以上を目指す。

（２）対象者

N3 程度の公的な日本語試験の未取得者

具体的には、①～③のいずれかに該当する者

① 入国後 6 か月後のレベル判定において、成績の芳しくない者

具体的には、下記に該当する実習生を対象とすることが望ましい。

・得点区分のいずれかにおいて、合格に必要な点（＝基準点）に達していない者

・総合得点が合格点（95 点）に達していない者

② 入国後 6 か月間、N3 程度の公的な日本語試験を一度も受験したことのない者

③ 実習実施機関の日本語学習支援担当者より参加を促された者

（３）研修概要

① 研修内容： N3 程度の合格に向けた直前試験対策学習

② 研修期間： 入国後 8～10 か月目（200 時間）

③ 研修場所： 監理団体（または実習実施機関）にて研修場所を確保、もしくは民間の日本語教育機関に委託

（４）日本語学習支援担当者

① 日本語試験に関して十分な指導経験のある日本語教師（有資格者）が担当することが望ましい。

② 指導は基本的に直接法で行う。

③ 研修期間中は、監理団体と、コースデザイナー（日本語学習運営責任者)、講師が連携しながら、研修を進める。

（５）日本語レベルチェック及びクラス編成

① 本研修の開講前にレベルチェック(※)を行い、個々の実習生の日本語レベルを把握する。

（※）日本語学習補助 Web コンテンツのレベルチェック（8 か月目の模擬試験）を活用してもよい。

② 語学学習につき、1 クラスは 20 名以下が望ましい。

（6）受験への意識付けと手続き

① 意識付け

・市販の模擬試験や日本語学習補助 Web コンテンツ（小テストなど）を効果的に用いて、熟達度を可視化させ、学習のモチベーション向上につなげる。

・また、試験結果をもとに、苦手科目の克服や得点アップのための学習計画がはかれるよう、日本語教師・実習実施機関の日本語学習支援担当者が一体となって支援する。

② N3 程度の受験手続き

・本研修期間中に、複数回(※)の受験ができるよう、事前に実習実施機関の日本語学習支援担当者と受験日程を確認し、申込手続きを完了させること。

（※）できるだけ、1 月目が終了する直前と 2 か月目に受験できるよう、本研修開講前に手続きする。

（7）学習の進め方の例

N3 程度の公的な日本語試験の試験科目に合わせて、学習すべき科目を以下のようにたてる。

学習科目	学習の進め方例
①言語知識（文字／語彙）	・1 か月目は言語知識を体系立てて理解すること（インプット）に重点を置く。 ・2 か月目は実践演習に重点を置く。
②言語知識（文法）	
③読解	
④聴解	
⑤その他（模擬試験）	

（8）時間割例

	コマ	時間	月	火	水	木	金
午前	1	50 分	言語知識（文字・語彙）				模擬試験＋自己採点
	2	50 分	言語知識（文字・語彙）				
	3	50 分	読解				
	4	50 分	聴解				
午後	5	50 分	模擬試験振り返り	言語知識（文法）			
	6	50 分		言語知識（文法）			
	7	50 分		自律学習(※)			

（※）自律学習は研修時間に含まないものとする。

日）50 分×6 コマ＝300 分（5 時間）

週）25 時間

月）100 時間

2 か月）200 時間

（9）科目ごとの学習の進め方

① 言語知識 （文字／ 語彙）	目標	・1か月目：出題範囲の言語知識を体系立てて理解する。 ・N3 漢字 400 字程度が読める。 ・N3 語彙 2000 語程度を運用することができる。 ・2か月目：問題に慣れ、正答率 70%以上を目指す。
	進め方例	2通りの進め方を例示する。実習生（またはクラス）の進捗に応じて、アレンジすること。 【ポイント整理】 テーマごとに、使用される漢字および関連語彙を整理する。 １．前日の復習（例：10 問程度の理解テスト） ２．その日のまとまり（テーマ）を提示 ３．テーマごとに提示される 15～20 程度の漢字、および関連する語彙を理解 ４．問題演習（その日に取り上げた漢字／語彙を含んだ問題）にて定着確認 【実践演習】 大問毎に出題形式に慣れ、正答率を高める。 １．その日扱う大問の出題形式、解答の留意点（どこに注意したらよいか）を確認 ２．時間をはかって、一定数の問題に回答 ３．解答解説（※） （※）正解の選択肢（漢字・語彙）だけでなく、その他の選択肢も丁寧に解説 （それぞれの漢字・語彙の意味・用法を提示することで、知識を広げていく） 〔大問毎の指導ポイント〕 ■漢字読み それぞれの選択肢を声に出して読むなど、特殊音や清濁等に注意させる。 ■表記 同音意義や同じ部首の漢字を比較対照させ、形や発音、意味の似ている（あるいは同じ）漢字に注意させる。

		■文脈規定 空欄の前後部分に回答のヒントがあることが多いことを確認。また、共起することば・表現をセットで提示する。 ■言い換え類義 同じような意味を持つことばを、和語・漢語・外来語にて整理する。 ■用法 共起することば・表現をセットで提示する。
	教材例	実習生の実状に即した教材を選定するように心がける。 状況に応じて、複数の教材を併用してもよい。 【ポイント整理】 ・『日本語総まとめ　N3 漢字』（アスク出版） ・・・N3 レベルの漢字語彙 850 語を収録し、部首・読み・語彙別に紹介 ・『新完全マスター漢字　日本語能力試験 N3』（スリーエーネットワーク） ・・・N3 レベルの漢字 354 字とその読み方、および N4 までの漢字の中から 88 字の新しい読み方を収録 ・『日本語総まとめ　N3 語彙』（アスク出版） ・・・N3 レベルの語彙を 1200 語収録し、場面別・機能別に紹介 ・『はじめての日本語能力試験　N3 単語 2000』（アスク出版） ・・・N3 レベルで、かつ毎日の暮らしにも役立つ単語をリストアップして紹介 ・『パターン別　徹底ドリル　日本語能力試験 N3』（アルク） ・・・問題の型を丁寧に解説、ベトナム語訳がダウンロード可能 ・『N3 合格！　日本語能力試験問題集　N3 語彙スピードマスター』（J リサーチ出版） ・・・見開きで、左に解説、右に問題という構成 等

		【実践演習】 ・『日本語パワードリル[N3 文字・語彙]』(アスク出版) ・・・JLPT 本試験と同形式の問題を 640 問収録しているドリル帳 ・『日本語能力試験　直前対策 N3　文字・語彙・文法』(国書刊行会) ・・・JLPT 本試験に即した模擬試験 15 回分を収録 ・『ドリル＆ドリル　日本語能力試験 N3　文字・語彙』(ユニコム) ・・・英中韓訳付き　　等
② 言語知識 (文法)	目標	・1 か月目：出題範囲の言語知識を体系立てて理解する。 ・N3 文法を理解し、運用することができる。 ・2 か月目：問題に慣れ、正答率 70%以上を目指す。
	進め方例	2 通りの進め方を例示する。実習生(またはクラス)の進捗に応じて、アレンジすること。 【ポイント整理】 項目ごとに提示される文法の意味や接続の形等を整理する。 １．前日の復習(例：10 問程度の理解テスト) ２．その日のまとまり(テーマ)を提示 ３．テーマごとに提示される 7～8 程度の文法の用法を理解 ４．問題演習(その日に取り上げた文法を用いた文作成や選択問題など)を通して定着確認 【実践演習】 大問毎に出題形式に慣れ、正答率を高める。 １．その日扱う大問の出題形式、解答の留意点(どこに注意したらよいか)を確認 ２．時間をはかって、一定数の問題に回答 ３．解答解説(※) (※)正解の選択肢だけでなく、その他の選択肢も丁寧に解説 (それぞれの選択肢の意味・用法を提示することで、知識を広げていく) 〔大問毎の指導ポイント〕 ■文の文法１ 初級後半レベルの文法項目の複合的な使い方を整理する。

		「に対して・によって・において」など、形の似ている選択肢は例文を作って、理解を深める。 ■文の文法２ 文の構成要素のうち、まず主部・述部（あるいは主節・従属節等）を確認する。 ■文章の文法 文の前後を読みながら、接続詞や文末表現、文脈指示などを確認する。
	教材例	実習生の実状に即した教材を選定するように心がける。 状況に応じて、複数の教材を併用してもよい。 【ポイント整理】 ・『日本語総まとめ　N3 文法』（アスク出版） ・・・各項目に複数の例文が掲載（目安：1 日見開き 2 ページで 6 週間） ・『新完全マスター文法　日本語能力試験 N3』（スリーエーネットワーク） ・・・初中級文法を整理し、中上級への橋渡しを狙いとする ・『パターン別　徹底ドリル　日本語能力試験 N3』（アルク） ・・・問題の型を丁寧に解説、ベトナム語訳がダウンロード可能 ・『N3 合格！　日本語能力試験問題集　N3 文法スピードマスター』（J リサーチ出版） ・・・見開きで、左に解説、右に問題という構成　等 【実践演習】 ・『日本語パワードリル[N3 文法]』（アスク出版） ・・・JLPT 本試験と同形式の問題を 580 問収録しているドリル帳 ・『日本語能力試験　直前対策 N3　文字・語彙・文法』（国書刊行会） ・・・JLPT 本試験に即した模擬試験 15 回分を収録 ・『ドリル＆ドリル　日本語能力試験 N3　文法』（ユニコム） ・・・英中韓訳付き 等

③読解	目標	・1か月目：出題の傾向と解き方を理解する。 ・書き下ろした説明文やエッセイなどを読んで、内容・キーワードや因果関係などが理解できる。 ・解説や手紙などを読んで概要や論理の展開が理解できる。 ・広告やパンフレットなどの中から必要な情報を探し出すことができる。 ・2か月目：問題に慣れ、正答率70%以上を目指す。
	進め方例	2通りの進め方を例示する。実習生（またはクラス）の進捗に応じて、アレンジすること。 【ポイント整理】 出題形式（「指示代名詞」「理由」「内容一致」「情報検索」等）を正しく理解し、解き方を身につける。 １．その日の出題形式（テーマ）を提示 ２．注目ポイントを解説し、出題形式を理解 ３．問題演習を通して定着確認 【実践演習】 数多くの問題に触れ、正答率を高める。 １．時間をはかって、一定数の問題に回答 ２．解答解説（※） （※）選択肢の絞り込み方など、具体的なテクニックを添えて解説 〔出題形式毎の指導ポイント〕 ■内容理解１（指示語） 指示語が何（または誰）を指しているのか、下線部の前後に注目して読む練習をするとよい。 ■内容理解２（理由説明） 何度も出てくる表現やキーワードを見つけ、問題点やその原因、理由を整理しながら読む練習をするとよい。 ■内容理解３（内容一致） 特徴や方法、順番など、何を説明しているのかを段落ごとに整理して読むようにする。また、選択肢を一つ一つ、対応する本文の箇所と照合しながら読む練習をするとよい。

		■内容理解４（心情理解） 文章の内容なのか、筆者の意見なのか、分類しながら読む練習をするとよい。 ■情報検索 必要な情報を探しだすために、キーワードを素早く見つける練習をするとよい。
	教材例	実習生の実状に即した教材を選定するように心がける。 状況に応じて、複数の教材を併用してもよい。 ・『パターン別　徹底ドリル　日本語能力試験 N3』（アルク） ・・・問題の型を丁寧に解説、ベトナム語訳がダウンロード可能 ・『N3 合格！　日本語能力試験問題集　N3 読解スピードマスター』（J リサーチ出版） ・・・さまざまな文章素材による実践形式の問題を多く収録 ・『新完全マスター読解　日本語能力試験 N3』（スリーエーネットワーク） ・・・さまざまな形式の文章を読む練習を通して読解力を養成　等
④聴解	目標	・1 か月目：出題の傾向と解き方を理解する。 ・まとまりのあるテキストを聞いて、内容（次にしなければならない行動や話者の主張など）が理解できる。 ・イラストを見ながら、状況説明を聞いて、適切な発話を選択することができる ・質問などの短い発話を聞いて、適切な応答が選択できる。 ・2 か月目：問題に慣れ、正答率 70%以上を目指す。

	進め方例	2 通りの進め方を例示する。実習生（またはクラス）の進捗に応じて、アレンジすること。 【ポイント整理】 大問毎の出題形式を正しく理解し、解き方を身につける。 １．その日の出題形式（テーマ）を提示 ２．注目ポイントを解説し、出題形式を理解 ３．問題演習を通して定着確認 【実践演習】数多くの問題に触れ、正答率を高める。 １．時間をはかって、一定数の問題に回答 ２．解答解説（※） ※選択肢の絞り込み方など、具体的なテクニックを添えて解説 〔出題形式毎の指導ポイント〕 ■課題理解 会話文を聞いて、次に（このあと）何をするかを聞き取る練習をするとよい。 ■ポイント理解 5W1H（誰、どこ、いつ、なぜ、どうやって、何をしたか）に注意して聞く練習をするとよい。 ■概要理解 質問に関係のない部分はわからなくても気にせず、大切なところを聞き取る練習をするとよい。 ■発話表現 イラストを見ながら、状況説明を聞いて、適切な発話を聞き取る練習をするとよい。 ■即時応答 イントネーションなどに注意して聞く練習をするとともに、短い会話練習として声に 出してみるとよい。

	教材例	実習生の実状に即した教材を選定するように心がける。 状況に応じて、複数の教材を併用してもよい。 ・『パターン別　徹底ドリル　日本語能力試験 N3』 （アルク） ・・・問題の型を丁寧に解説、ベトナム語訳がダウンロード可能 ・『N3 合格！　日本語能力試験問題集　N3 聴解スピードマスター』（J リサーチ出版） ・・・さまざまな文章素材による実践形式の問題を多く収録 ・『新完全マスター聴解　日本語能力試験 N3』 （スリーエーネットワーク） ・・・聴解に必要なスキルを積み上げながら問題を解く形式 等
⑤ 模擬試験	目標	模擬試験を通して、熟達度を自身でチェックする。
	進め方例	【実施】 市販の模擬試験（または問題集）を用いて、本番同様に所定時間内にマークシートに回答する。 ・所要時間は以下の通り（市販教材に時間の指定がある場合は、それに従う） ・言語知識（文字・語彙）：30 分 ・言語知識（文法）・読解：70 分 ・聴解　　：40 分 ・所要時間内は、原則として離席禁止とする。休憩時間を設ける場合は、所要時間外とする。全ての問題に回答後、解答を配付して、自己採点を行う。 ・結果は担当者（日本語教師もしくは監理団体/実習実施機関担当者）に報告する。 【振返】 担当者は実習生の試験結果を把握した上で、後日振り返りを行う。 ・振り返りにおいて、以下の内容を丁寧に解説する。 ・正答率の低かった問題、

		・得点の推移や熟達度（過去に試験結果のある場合） （留意点） ・本番の試験同様に、静かな環境/部屋で実施すること ・マークシート形式に慣れるため、市販教材に付属の解答用紙（マークシート用紙）を使うこと。 ・聴解は途中で CD を止めずに行うこと。 ・得点の算出方法は、市販教材の記載に従うこと。 ・模擬試験の記録表（時系列で各回の結果を転記する表）があると、得点の推移が分析しやすい。
	教材例	実習生の実状に即した教材を選定するように心がける。 本研修前に実施したレベル判定（例：入国後のクラス分け）で使用した教材との重複に留意する。 ・『日本語能力試験公式問題集 N3』（国際交流基金） ・・・2010 年以降の試験に出題された問題の中から試験 1 回分に相当する量を収録 ・『日本語能力試験　模試と対策 N3』（アスク出版） ・・・2 回分の模擬試験を収録 解説すべてに英中韓訳付き ・『ゼッタイ合格　日本語能力試験完全模試 N3』 （J リサーチ出版） ・・・3 回分の模擬試験を収録 重要語句、文型リスト付き ・『日本語能力試験 N3 予想問題集〔改訂版〕』 （国書刊行会） ・・・試験対策の最初もしくは直前の総仕上げとして使用すると効果的 ※別冊解説にて英中韓の部分訳付き ・『日本語能力試験 N3 予想問題集』（U-CAN） ・・・2 回分の模擬試験を収録 ※英中韓の翻訳付き ・『日本語能力試験スーパー模試 N3』（アルク） ・・・3 回分の模擬試験を収録 ・『「短期マスター　日本語能力試験ドリル』（凡人社） ・・・約 2 回分に相当する問題を収録、等

⑥その他	（1）日本語学習補助 Web コンテンツの効果的な使い方例 本研修期間において、数多くの問題を繰り返して解くことは、得点アップにつながる有効な勉強方法と言える。そのため、WEB コンテンツの効果的な使い方例を以下に紹介する。 ●ドリル 自宅学習にて、言語知識（文字／語彙／文法）の問題を中心に、毎日最低でも 10 回分の問題を解く。 （間違えた問題は、一定期間後に再度出現するため、定着度を実習生自身が確認できる） ●小テスト 自宅学習にて、に、毎日最低でも１回ずつ受験し、基準点（各科目の 33%）をクリアすることを目標に読解／聴解の問題を解く。 （間違えた問題は、翌日の研修内で日本語教師に質問して、正解を導けるようにする）
	（2）環境づくり 実習実施機関の日本語学習支援担当者および日本語教師は、学習環境を整備することはもちろん、受験を目前に不安を抱える実習生の心理的ケアにつとめること。

日本語能力試験対策学習　シラバス

		全体目標	科目	言語知識（文字／語彙）	言語知識（文法）	読解	聴解	模擬試験
1か月目	ポイント整理	基本知識を再確認する 設問の傾向とポイントを理解する	目標	**出題範囲の言語知識を体系立てて理解する** ・N3漢字400字程度が読める ・N3語彙2000語程度を運用することができる	**出題範囲の言語知識を体系立てて理解する** ・N3文法を理解し、運用することができる	**出題の傾向と解き方を理解する** ・書きおろした説明文やエッセイなどを読んで、内容・キーワードや因果関係などが理解できる ・解説や手紙などを読んで概要や論理の展開が理解できる ・広告やパンフレットなどの中から必要な情報を探し出すことができる	**出題の傾向と解き方を理解する** ・まとまりのあるテキストを聞いて、内容（次にしなければならない行動や話者の主張など）が理解できる ・イラストを見ながら、状況説明を聞いて、適切な発話を選択することができる ・質問などの短い発話を聞いて、適切な応答が選択できる	**模擬試験を通して、熟達度を自身でチェックする**
			教材例	**実習生の実状に即した教材を選定するように心がける。** 『日本語総まとめ　N3漢字』 『N3合格！　日本語能力試験問題集　N3文法スピードマスター』 『パターン別　徹底ドリル　日本語能力試験N3』 『N3合格！　日本語能力試験問題集　N3語彙スピードマスター』 『パターン別　徹底ドリル　日本語能力試験N3』 等	**実習生の実状に即した教材を選定するように心がける。** 『N3合格！　日本語能力試験問題集　N3文法スピードマスター』 『パターン別　徹底ドリル　日本語能力試験N3』 『新完全マスター文法　日本語能力試験N3』 等	**実習生の実状に即した教材を選定するように心がける。** 『新完全マスター読解　日本語能力試験N3』 『パターン別　徹底ドリル　日本語能力試験N3』 『N3合格！　日本語能力試験問題集　N3読解スピードマスター』 等	**実習生の実状に即した教材を選定するように心がける。** 『新完全マスター聴解　日本語能力試験N3』 『パターン別　徹底ドリル　日本語能力試験N3』 『N3合格！　日本語能力試験問題集　N3聴解スピードマスター』 等	**本研修前に実施したレベルチェック（例：入国後のクラス分け）で使用した教材との重複に留意する。** 『日本語能力試験　模試と対策N3』 『日本語能力試験N3予想問題集〔改訂版〕』 『日本語能力試験スーパー模試N3』　等

		全体目標		言語知識（文字／語彙）	言語知識（文法）	読解	聴解	模擬試験
2か月目	実践演習形式	数多くの問題を通して、正答率70％以上を目指す	目標	**問題に慣れ、正答率70％以上を目指す**				**模擬試験を通して、熟達度を自身でチェックする**
			教材例	**実習生の実状に即した教材を選定するように心がける。** 『日本語パワードリル[N3文字・語彙]』 『日本語能力試験　直前対策N3　文字・語彙・文法』 『ドリル＆ドリル　日本語能力試験N3文字・語彙』 等	**実習生の実状に即した教材を選定するように心がける。** 『日本語パワードリル[N3文法]』 『日本語能力試験　直前対策N3　文字・語彙・文法』 『ドリル＆ドリル　日本語能力試験N3文法』 等	**実習生の実状に即した教材を選定するように心がける。** 『新完全マスター読解　日本語能力試験N3』 『パターン別　徹底ドリル　日本語能力試験N3』 『N3合格！　日本語能力試験問題集　N3読解スピードマスター』 等	**実習生の実状に即した教材を選定するように心がける。** 『新完全マスター聴解　日本語能力試験N3』 『パターン別　徹底ドリル　日本語能力試験N3』 『N3合格！　日本語能力試験問題集　N3聴解スピードマスター』 等	**本研修前に実施したレベルチェック（例：入国後のクラス分け）で使用した教材との重複に留意する。** 『日本語能力試験　模試と対策N3』 『日本語能力試験N3予想問題集〔改訂版〕』 『日本語能力試験スーパー模試N3』　等

別添２	監理団体が行う入国後講習の標準的な日本語学習プログラム及び指導要領

監理団体が行う入国後講習の標準的な日本語学習指導要領

1. 目標

実習生の日本語能力及び日本社会に対する理解を高めることにより、実習実施機関での研修が少しでも円滑に進むようになることを目的とする。日本語習得状況から実習生を「N3 取得者」「N4 上位者「「N4 下位者」の 3 レベルに分け研修を行う。それぞれのレベルの日本語研修の到達目標は次のとおりとする。

1.1 「N3 取得者」向けプログラム目標

（1）1 か月目：【ブラッシュアップ（復習を兼ねた日本語力の向上）期】

・実習実施機関での仕事上の日本語でのやり取りに慣れ、自身の考えをまとまりのある単位（複数の文レベル）で発話することができる。

・特定の職業（病院スタッフ、介護スタッフ）の人とのやりとりがある程度できる。

2 か月目：【実力養成期】

・自身の考えを聞き手にとって分かりやすく、段落の意識をもって発話することができる。

・日常生活及び基本的な仕事における円滑なコミュニケーション力を身につける。

（2）日本での生活に関する情報の理解

（3）日本の文化・社会に対する基本的理解

1.2 「N4 上位者」向けプログラム目標

（1）1 か月目：【初級日本語のブラッシュアップ（復習を兼ねた日本語力の向上）期】

・相手の質問に対して、正しく返答できる。

・待遇関係を意識して話すことができる。

2 か月目：【実力養成期】

・自身の考えをまとまりのある単位（複数の文レベル）で発話することができる。

・特定の職業（病院スタッフ、介護スタッフ）の人とのやりとりがある程度できる。

（2）日本での生活に関する情報の理解
（3）日本の文化・社会に対する基本的理解

1.3 「N4 下位者」向けプログラム目標

（1）1か月目：【初級日本語のブラッシュアップ（復習を兼ねた日本語力の向上）期】
・相手の質問に対して、正しく返答できる。
・日常生活における基本的なコミュニケーション力を習得する。

2か月目：【実力養成期】
・待遇関係を意識して話すことができる。
・初級日本語の総合的な運用力を高める。

（2）日本での生活に関する情報の理解
（3）日本の文化・社会に対する基本的理解

2. 日本語学習支援担当者

（1）外国人に対する日本語研修に関して十分な経験のある日本語教師が担当することが望ましい。
（2）各クラスに担任を配置することが望ましい。
（3）別途通訳を配置することが望ましい。
（4）研修全体を統括し、進捗管理をする人が必要なので、コースデザイナー（日本語学習運営責任者）が担当することが望ましい。
（5）入国後講習期間中は、監理団体と、コースデザイナー（日本語学習運営責任者）、日本語教師が連携しながら、研修を進める。

3. 教材の準備

（1）科目ごとに適切な教材を使用する。
（2）実習生一人一人に教材を配付し、自己学習を可能にする。

4. 日本語レベルチェック及びクラス編成

（1）来日後、筆記レベルチェックを行い、実力を判断する評価を行う。筆記レベルチェックは、N3 レベルの市販模擬テストを使用する。
（2）同様に、口頭レベルチェックを行い、実力を判断する評価を行う。
（3）上記レベルチェックをクラス編成の参考とする。
（4）レベルチェッカーは、日本語研修に関して十分な経験のある日本語教育コースデザイナー（日本語学習運営責任者）が担当する。

5. クラス編成

（1）語学学習につき 1 クラスは 20 名以下が望ましい。

（2）カリキュラム運営上、研修中のクラス編成は、基本的に固定とする。ただし、レベルによってはクラスの再編成はありうる。

6. 研修オリエンテーション実施

授業に先立って、下記の内容のオリエンテーションを実施する。

・生活オリエンテーション
・日本語学習オリエンテーション
・自律学習オリエンテーション

7. 入国後講習

（1）教授法

基本的に、日本語直接法により実施する。なお、実習生の日本語能力に応じて、日本の生活や、文化、習慣、専門的な介護に関する話題や用語等を用いた研修内容も採り入れる。必要があれば、通訳者も適宜利用する。

（2）出欠確認・報告

実習生の出欠については、各クラスの講師が確認し、欠席者等がいる場合には担任あるいは、コースデザイナー（日本語学習運営責任者）に報告し、管理する。

（3）自律学習の薦め

・自律学習支援ノートを用いて、自ら計画を立て、実行し、振り返り、再計画をたてる能力を養う。
・金曜日の 8 限目に、自律学習時間を設け、1 週間の学習の振り返りを行い、翌週の学習目標設定と学習計画の立案を行う。

（4）テスト

・毎週、アチーブメントテスト（学習結果測定試験）を行い、自らの反省材料の一つとさせる。
・中間テストおよび期末テストも行い、到達度を測る。（テストの頻度は科目ごとに異なってもよい）
・研修終了時には、N3 レベルの模擬試験を行い、研修開始当初の能力との比較を行う。模擬試験は、N3 レベルの市販模擬テストを使用する。研修開始時同様に、口頭によるテストも実施することが望ましい。
・テスト結果は関係部署に伝える。

（5）評価

基本的に語学学習につき、絶対的評価（クラスメートと比較せず、実習生自身の能力）で判断する。診断時期により、以下を用いる。

・研修開始時：実力を評価
・研修途中：学習した範囲が、目標に達しているか評価
・研修修了時：実力を評価

（6）科目

総合日本語、聴解、読解、文字、介護の日本語、発音、会話、作文を行う。

（７）時間割例

		時間	月	火	水	木	金
午前	1	50 分	発音　・　文字				
	2	50 分	聴解	読解	聴解	読解	聴解
	3	50 分	総合日本語				
	4	50 分	総合日本語				アチーブ
午後	5	50 分	介護の日本語				
	6	50 分	会話				介護
	7	50 分	総合日本語				作文
	8	50 分					総合日本語

※金曜日 4 時限目の「アチーブ」は、「総合日本語」で学習した内容から出題する。

学習時間数（計 240 時間）	
日）50 分×6 コマ＝300 分＝5 時間 週）5 時間×5 日＝25 時間 月）25 時間×4 週間＝100 時間 2 か月）200 時間	介護の日本語 週）50 分×6 コマ＝300 分＝5 時間 月）5 時間×4 週間=20 時間 2 か月）40 時間

入国後講習の標準的な日本語学習プログラム（案）

科目	時間数（時間）
総合日本語	100
聴解	20
読解	13
文字	27
発音	7
会話	27
作文	6
介護の日本語	40
合計	240

（8）科目ごとの概要

以下、レベルごとに記載する。

「N3 取得者」向けプログラム

1）総合日本語

○目標：

1 か月目

・中級学習へスムーズに移行するための基礎を固める。

・初級文型の復習と整理も行い、運用力を伴った定着をはかる。

2 か月目

・より滑らかなコミュニケーション力と表現力をつける。

・一般的話題について相手を意識した意見が述べられる。

上記目標に到達するために、四技能（読む、聞く、書く、話す）の総合的な伸長を目指す教材を選定するのが望ましい。

○教材例：

・『学ぼう！　にほんご　中級』（専門教育出版）

・『テーマ別　中級から学ぶ日本語』（研究社）

・『日本語中級 J501』（スリーエーネットワーク）、等

○進め方例：

1 課を 1 週間程度で終わるように学習を進める。学習内容を復習するために、毎日宿題を課す。課ごとの進め方例は、以下の通り。

1．課のテーマに関する質問をし、学習者の関心を高める。

2．本文を読む。（講師が本文を音読する。実習生には、「文章を目で追う」「分からない言葉に線を引く」「意味の切れ目に線を引く」ように指示を与えておくとよい。）

3．本文の大意取り（大まかな内容理解）の質問をする。

4．本文中の文型や語彙を学習する。

5．本文の精読（細かい内容理解）の質問をする。

6．本文の要約をする。

7．課のテーマについての表出活動（ディスカッションや意見述べ等）を行う。

○評価：

宿題提出率：10%、週アチーブ：30%、

学期末テスト：50%、平常点　10%

※平常点は、授業中の取り組み状況などから判断する。

2）聴解

○目標：ある程度の長さの情報文を聞き、必要な情報を得ることができる。

○教材例：

・『新毎日の聞き取り 50 日下』（凡人社）

・『中級からはじめるニュースの日本語聴解 40』

（スリーエーネットワーク）　等

○進め方例：

1．聴解内容に関する話題を導入し、学習者の関心を高める。

2．聴解にあたって、未知であると困難だと考えられる必要最低限の語彙を指導する。

3．聞くポイントの確認。何に注意して聞くのかを問題文を読んで確認する。

4．聴解実施。聴解に慣れないうちは、複数回聞かせてもよい。その際は、「1 回目は大意をとる」、「2 回目は問題文に合わせて細かい内容にまで注意して聞く」というように聞く目的を明示して聴解を実施するとよい。

5．答え合わせ

6．聴解内容に関する意見交換を行う。

○評価：　学期末テスト：90%、平常点：10%

3）読解

○目標：まとまった文章を最後まで読み、内容を正しく把握する。

○教材例：

・『読解をはじめるあなたへ』（凡人社）

・『初・中級学習者向け日本語教材　日本文化を読む』（アルク）

・『日本語を楽しく読む本・初中級』（産能短期大学国際交流センター）等

○進め方例：

1．読解内容に関する話題を導入し、学習者の関心を高める。

2．読解にあたって、未知であると困難だと考えられる必要最低限の語彙や表現を指導する。

３．読解実施（実習生が個別に黙読し、問題を解く。制限時間を設けるとよい）
４．講師による模範音読（または、実習生を個別に指名し音読させてもよい）
５．答え合わせ
６．読解内容に関する意見交換を行う。

○評価：学期末テスト：90％、平常点：10％

４）文字

○目標：N2 レベルの漢字の読み書きができるようになる。

○教材例：『漢字マスターN2』（三修社）　等

○進め方例：

1 日当たり 1 ページ（6 文字程度）の学習ペースが望ましい。

１．前日に学習した漢字の小テストを行い、定着状況を確認する。
２．学習する漢字の話題を通して本時の学習漢字を提示する。
３．それぞれの漢字の読み方、語彙、使用例を指導する。
４．必要に応じて例文を提示しながら、補足説明や語彙の拡大（反義語、類義語の紹介）を行う。

○評価：課ごとのテスト：50％、学期末テスト：50％

５）介護の日本語

○目標：実習実施機関で必要となる基礎的な介護のことばを覚え、円滑に業務が行えるようになる。

○教材例：『介護の日本語』

○進め方例：

上記教材例を用いて、1 日当たり 15 個程度のことばを学習する。

１．場面導入：学習する介護のことばが使用される場面を導入し、学習意欲を高める。
２．ことばの意味・発音確認：イラストや写真で理解を促しながら、ことばの意味と発音を確認する。発音は正しく発音できることと正しく聞き取りができるようになることを目指す。
３．例文確認：実際の介護の現場では、学習したことばがどのような発話例で用いられるかを提示し、理解を深める。
４．運用練習：実際の介護の現場を想定し、学習したことばを用いた会話練習を行う。

５．確認テスト：本時の学習内容が理解できているかを小テスト（5 分程度で実施できる問題）で確認する。

○評価：毎時の確認テスト：50%、学期末テスト：50%

6）発音

○目標：実習実施機関において円滑なコミュニケーションがはかれるように、日本語らしい聞きやすく分かりやすい発音で話せるようになる。

「日本語らしい発音」を習得するためには、第一に「高低アクセント」と「拍（モーラ）感覚」の理解が不可欠である。集中研修の初期段階でこの 2 点の練習を繰り返し行い、その後、文単位の発話指導（イントネーション等の指導）を行うことが望ましい。なお、発音練習は、長時間かけて短期間で練習するよりも、短い時間の練習を日々繰り返すことで効果が表れるので、集中研修においては、毎日の研修の最初の時間を発音練習の時間に当て、毎回 10 分程度の時間を使って指導することを推奨する。

○授業内容：

1 か月目：拍、アクセントの練習
2 か月目：シャドーイング

1 か月目：拍、アクセントの練習

◇目標：日本語の高低アクセントと拍の感覚を理解し、聞きやすい発音で話せるようになる。

◇教材例：

・『1 日 10 分の発音練習』（くろしお出版）
・『毎日練習！リズムで身につく日本語の発音』
（スリーエーネットワーク）
・『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』
（スリーエーネットワーク）、等

◇進め方例：

１．音声を聞き取る。
２．聞き取った音声をノートに書きとり、アクセントの上がり下がりを記入する。

3．教師の指導のもと、アクセントの上がり下がりや拍のリズムを確認する。
4．声に出して練習する。

2か月目：シャドーイング

◇目標：

・日常生活で耳にする会話の意味を理解し、プロミネンス（リズム・ポーズ)、イントネーションを習得する。
・聞いたままの音声を口頭で再現できるようになる。

◇教材例：

・『シャドーイング　日本語を話そう　初～中級編』
（くろしお出版）
・『シャドーイングで日本語発音レッスン』
（スリーエーネットワーク）
・『初級文型でできる　にほんご発音アクティビティ』
（アスク出版）
等

◇進め方例：

1回目	①スクリプト配付、意味の把握(1)（内容確認、語彙確認） ②CDを流して練習 ＊練習方法：シンクロ・リーディング(2)、サイレント・シャドーイング(3)
2・3回目	CDを流して練習 ＊練習方法：スクリプト付シャドーイング(4)、 マンブリング(5)、プロソディー・シャドーイング(6)
4回目	CDを流して練習 ＊練習方法：プロソディー・シャドーイング
5回目	CDを流して練習 ＊練習方法：プロソディー・シャドーイング、コンテンツ・シャドーイング(7)

＜2 回目の練習方法＞

クラスを二つにわけ、片方を「A 役」、もう片方を「B 役」として練習。

→　できたら、役割を反対にして練習する。

- ①スクリプト付シャドーイング（3 回ほど）
- ②マンブリング（2 回ほど）
- ③プロソディー・シャドーイング（2 回ほど）

※回数は目安なので、実習生の様子を見ながら適宜調整するとよい。

※2 回目はある程度のスピードに慣れることを目標とするため、「発音面」はあまり重視しなくてよい。

＜3 回目の練習方法＞

クラスを二つにわけ、片方を「A 役」、もう片方を「B 役」として練習。

→　できたら、役割を反対にして練習する。

- ①スクリプト付シャドーイング（2 回ほど）
- ②プロソディー・シャドーイング（4 回ほど）

※回数は目安なので、実習生の様子を見ながら適宜調整するとよい。

※3 回目は「発音面：イントネーション・プロミネンス・ポーズ等」に重きをおいて練習する。

○評価：中間テスト（1 か月目の学習終了時に実施）：50%、期末テスト：50%

【注意点・用語説明】

（1）意味の把握

配付されたスクリプトを見て、会話の場面や内容、言葉の意味を確認する。

（2）シンクロ・リーディング

スクリプトを見ながら音声を聞いて目で追う。この時点では何も話さず、聞くことと文字で確認することに重点を置く。スピードの速い箇所や間があるところ、声が大きくなったり高くなったりするところ、長音や促音など、注意する点を把握し確認しながら聞く。

（3）サイレント・シャドーイング

音声を聞きながら、声には出さずに頭の中だけで復唱する。

（スピードの速い会話や言い慣れない表現などが出てくる会話を練習すること

に適した練習法）

（4）スクリプト付きシャドーイング

スクリプトを見ながら音声を聞き、すぐ後を復唱する。実際に正しくすらすら話せたか確認しながら行う。ナチュラルスピードで言うことが目的である。口ならしの練習と思って行う。

（5）マンブリング

スクリプトを見ずにブツブツつぶやきながら復唱する。つぶやくように言うため、大きく口を動かす必要がなく、言いにくい文も復唱しやすくなる。

（6）プロソディー・シャドーイング

スクリプトを見ないで音声素材と同じように発音することを目指してシャドーイングをする。同じスピード、同じイントネーション、声の強弱（プロミネンス）や間（ポーズ）にも徹底的に忠実に練習する。この練習の目標は流暢さなので、会話の内容に意識がいかなくてもよい。

（7）コンテンツ・シャドーイング

スクリプトを見ずに、意味内容を意識しながらシャドーイングをする。

7）会話

○目標：人間関係や場面に対応した表現や、文末表現、効果的な相槌を用いて会話が展開できる。

○教材例：

・『日本語集中トレーニング』（アルク）
・『聞いて覚える話し方　日本語生中継・初中級編＜1＞』
（くろしお出版）　　等

○進め方例：

1．学習する会話の話題に合わせて、学習者とやり取りをし、経験を引き出す。
2．会話の役割を記載したロールカードを実習生に渡し、ロールプレイを実施する。
3．よりよい会話とするために必要な語彙や表現を導入し、運用力を高める。
4．再度、場面や状況に合わせたロールプレイを実施し、講師がフィードバックを行う。

○評価：学期末テスト：60%、平常点：40%

8）作文

○目標：

・中級文型を使って、自分の意図を表現することができる。
・書き言葉（である体）で、意見文が書ける。

○教材例：

・『学ぼう！　にほんご　中級』（専門教育出版）内の「応用練習　書く」を使用する
・『日本語中級 J501』（スリーエーネットワーク）内の「書いてみよう」を使用する
・『日本語作文Ⅰ』（専門教育出版）　等

○進め方例：

1．作文のテーマに関する話題を導入し、学習者の関心を高める。
2．モデル作文を提示し、文章の構成の仕方や必要な表現を確認する。
3．作文のテーマに関して、グループで話し合いを行い、書く内容について考察を深める。
4．作文を書く（授業時間内で時間が足りなくなった場合は、宿題とする）
5．作文発表、意見交換（実習生同士で作文を交換して読み合ったり、クラスで数名に発表させたりして、意見交換を行う。意見交換を行うときは、「作文のよかった点（構成、表現、分かりやすさ等)」や「作文をよりよくするためのアドバイス」を述べるように指導するとよい。）

○評価：毎回の課題

9）自律学習

○目標：自律学習スキルを習得し、目標に向かって学習計画をたて、計画に沿って学習を進め、振り返りができるようになる。

○教材：自律学習支援ノート

○進め方：

1．自律学習支援ノートを用いて、今週の学習を振り返り、学習に対する自己評価を行う。
2．次週の学習目標を立て、学習計画を立てる。
3．自律学習支援ノートは担任講師がチェックし、学習が円滑に進むように適宜フォローを行う。

○評価：特になし

「N4 上位者」向けプログラム

1）総合日本語

○目標：

1 か月目

・日常生活をより円滑にするための語彙、表現力を拡大する。
・「話し言葉」と「書き言葉」の使い分けを知り、適切に使用することの意識付けを行う。
・中級学習へスムーズに移行するための基礎を固める。
・テーマについて簡単に意見が述べられるようになる。

2 か月目

・より滑らかなコミュニケーション力と表現力をつける。
・一般的話題について相手を意識した意見が述べられるようになる。

上記目標に到達するために、初級終了後の学習者が無理なく中級の学習に移行することを目指した『ブリッジ型教材』を用いて、四技能（読む、聞く、書く、話す）の総合的な伸長を図る教材を選定するのが望ましい。

○教材例：

・『学ぼう！　にほんご　初中級』（専門教育出版）
・『テーマ別　中級までに学ぶ日本語』（研究社）
・『中級へ行こう』（スリーエーネットワーク）　　等

○進め方例：

1 課を 1 週間程度で終わるように学習を進める。学習内容を復習するために、毎日宿題を課す。課ごとの進め方例は、以下の通り。

1．課のテーマに関する質問をし、学習者の関心を高める。
2．本文を読解するのに必要な語彙や表現を指導する。
3．本文を読む。（講師が本文を音読する。実習生には、「文章を目で追う」「分からない言葉に線を引く」「意味の切れ目に線を引く」ように指示を与えておくとよい。）
4．本文の大意取り（大まかな内容理解）の質問をする。（文章の長さに応じて、段落ごとに行ってもよい。）
5．本文中の文型や語彙を学習する。
6．本文の精読（細かい内容理解）の質問をする。
7．本文の要約をする。

８．課のテーマについての表出活動（ディスカッションや意見述べ等）を行う。

○評価：

宿題提出率：10%、週アチーブ：30%、

学期末テスト：50%、平常点：10%

※平常点は、授業中の取り組み状況などから判断する

２）聴解

○目標：

・日本語教師以外の発話に慣れる。

・ある程度の長さの情報文を聞き、必要な情報を得ることができる。

○教材例：

・『新毎日の聞き取り 50 日上』（凡人社）

・『中級からはじめるニュースの日本語聴解 40』

（スリーエーネットワーク）　等

○進め方例：

１．聴解内容に関する話題を導入し、学習者の関心を高める。

２．聴解にあたって、未知であると困難だと考えられる語彙を指導する。

３．聞くポイントの確認。何に注意して聞くのかを問題文を読んで確認する。

４.聴解実施（実習生の聞き取り状況を見ながら、複数回聞かせてもよい）

５．答え合わせ

６．聴解内容に関する意見交換を行う。

○評価：学期末テスト：90%、平常点：10%

３）読解

○目標：色々なタイプの文章を読み、中級レベルの読解力の養成のための基礎力をつける。

○教材例：

・『楽しく読もうⅡ』（文化外国語専門学校）

・『日本語を楽しく読む本・初中級』（産能短期大学国際交流センター）

・『たのしい読みもの 55　初級＆初中級』　（アルク）　等

○進め方例：

１．読解内容に関する話題を導入し、学習者の関心を高める。

２．読解にあたって、未知であると困難だと考えられる語彙や表現を指導する。
３．読解実施（実習生が個別に黙読し、問題を解く。制限時間を設けるとよい）
４．講師による模範音読（または、実習生を個別に指名し音読させてもよい）
５．答え合わせ
６．読解内容に関する意見交換を行う。

○評価：学期末テスト：90％、平常点：10％

４）文字

○目標：N3 レベルの漢字の読み書きができ、日常生活でよく目にする漢字の意味が理解できるようになる。

○教材例：『漢字マスターN3』（三修社）　等

○進め方例：

1 日当たり 1 ページ（4 文字程度）の学習ペースが望ましい。

１．前日に学習した漢字の小テストを行い、定着状況を確認する。
２．学習する漢字の話題を通して本時の学習漢字を提示する。
３．それぞれの漢字の読み方、語彙、使用例を指導する。
４．必要に応じて例文を提示しながら、補足説明や語彙の拡大（反義語、類義語の紹介）を行う。

○評価：課ごとのテスト：50％、学期末テスト：50％

５）介護の日本語

○目標：実習実施機関で必要となる基礎的な介護のことばを覚え、円滑に業務が行えるようになる。

○教材例：『介護の日本語』

○進め方例：

上記教材例を用いて、1 日当たり 15 個程度のことばを学習する。

１．場面導入：学習する介護のことばが使用される場面を導入し、学習意欲を高める。
２．ことばの意味・発音確認：イラストや写真で理解を促しながら、ことばの意味と発音を確認する。発音は正しく発音できることと正しく聞き取りができるようになることを目指す。

３．例文確認：実際の介護の現場では、学習したことばがどのような発話例で用いられるかを提示し、理解を深める。
４．運用練習：実際の介護の現場を想定し、学習したことばを用いた会話練習を行う。
５．確認テスト：本時の学習内容が理解できているかを小テスト（5 分程度で実施できる問題）で確認する。

○評価：毎時の確認テスト：50%、学期末テスト：50%

6）発音

○目標：実習実施機関において円滑なコミュニケーションがはかれるように、日本語らしい聞きやすく分かりやすい発音で話せるようになる。

「日本語らしい発音」を習得するためには、第一に「高低アクセント」と「拍（モーラ）感覚」の理解が不可欠である。集中研修の初期段階でこの 2 点の練習を繰り返し行い、その後、文単位の発話指導（イントネーション等の指導）を行うことが望ましい。なお、発音練習は、長時間かけて短期間で練習するよりも、短い時間の練習を日々繰り返すことで効果が表れるので、集中研修においては、毎日の研修の最初の時間を発音練習の時間に当て、毎回 10 分程度の時間を使って指導することを推奨する。

○授業内容：

1 か月目：拍、アクセントの練習
2 か月目：シャドーイング

1 か月目：拍、アクセントの練習

◇目標：日本語の高低アクセントと拍の感覚を理解し、聞きやすい発音で話せるようになる。

◇教材例：

・『1 日 10 分の発音練習』（くろしお出版）
・『毎日練習！リズムで身につく日本語の発音』
（スリーエーネットワーク）
・『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』
（スリーエーネットワーク）　等

◇進め方例：

1．音声を聞き取る。
2．聞き取った音声をノートに書きとり、アクセントの上がり下がりを記入する。
3．教師の指導のもと、アクセントの上がり下がりや拍のリズムを確認する。
4．声に出して練習する。

2か月目：シャドーイング

◇目標：

・日常生活で耳にする会話の意味を理解し、プロミネンス（リズム・ポーズ)、イントネーションを習得する。
・聞いたままの音声を口頭で再現できるようになる。

◇教材例：

・『シャドーイング　日本語を話そう　初～中級編』
（くろしお出版）
・『シャドーイングで日本語発音レッスン』
(スリーエーネットワーク)
・『初級文型でできる　にほんご発音アクティビティ』
（アスク出版）　　等

◇進め方例：

1回目	①スクリプト配付、意味の把握(1)（内容確認、語彙確認） ②CDを流して練習 ＊練習方法：シンクロ・リーディング(2)、 サイレント・シャドーイング(3)
2・3回目	CDを流して練習 ＊練習方法：スクリプト付シャドーイング(4)、 マンブリング(5)、プロソディー・シャドーイング(6)
4回目	CDを流して練習 ＊練習方法：プロソディー・シャドーイング
5回目	CDを流して練習 ＊練習方法：プロソディー・シャドーイング、コンテンツ・シャドーイング(7)

＜2 回目の練習方法＞

クラスを二つにわけ、片方を「A 役」、もう片方を「B 役」として練習。

→　できたら、役割を反対にして練習する。

①スクリプト付シャドーイング（3 回ほど）
②マンブリング（2 回ほど）
③プロソディー・シャドーイング（2 回ほど）

※回数は目安なので、実習生の様子を見ながら適宜調整するとよい。

※2 回目はある程度のスピードに慣れることを目標とするため、「発音面」はあまり重視しなくてよい。

＜3 回目の練習方法＞

クラスを二つにわけ、片方を「A 役」、もう片方を「B 役」として練習。

→　できたら、役割を反対にして練習する。

①スクリプト付シャドーイング（2 回ほど）
②プロソディー・シャドーイング（4 回ほど）

※回数は目安なので、実習生の様子を見ながら適宜調整するとよい。

※3 回目は「発音面：イントネーション・プロミネンス・ポーズ等」に重きをおいて練習する。

○評価：中間テスト（1 か月目の学習終了時に実施）：50%、期末テスト：50%

【注意点・用語説明】

（1）意味の把握

配付されたスクリプトを見て、会話の場面や内容、言葉の意味を確認する。

（2）シンクロ・リーディング

スクリプトを見ながら音声を聞いて目で追う。この時点では何も話さず、聞くことと文字で確認することに重点を置く。スピードの速い箇所や間があるところ、声が大きくなったり高くなったりするところ、長音や促音など、注意する点を把握し確認しながら聞く。

（3）サイレント・シャドーイング

音声を聞きながら、声には出さずに頭の中だけで復唱する。

（スピードの速い会話や言い慣れない表現などが出てくる会話を練習することに適した練習法）

（4）スクリプト付きシャドーイング

スクリプトを見ながら音声を聞き、すぐ後を復唱する。実際に正しくすらすら話せたか確認しながら行う。ナチュラルスピードで言うことが目的である。口ならしの練習と思って行う。

（5）マンブリング

スクリプトを見ずにブツブツつぶやきながら復唱する。つぶやくように言うため、大きく口を動かす必要がなく、言いにくい文も復唱しやすくなる。

（6）プロソディー・シャドーイング

スクリプトを見ないで音声素材と同じように発音することを目指してシャドーイングをする。

同じスピード、同じイントネーション、声の強弱（プロミネンス）や間（ポーズ）にも徹底的に忠実に練習する。この練習の目標は流暢さなので、会話の内容に意識がいかなくてもよい。

（7）コンテンツ・シャドーイング

スクリプトを見ずに、意味内容を意識しながらシャドーイングをする。

7）会話

○目標：人間関係や場面に対応した表現を用いて会話が展開できるようになる。

○教材例：

・『日本語集中トレーニング』（アルク）
・『聞いて覚える話し方　日本語生中継・初中級編＜１＞』
（くろしお出版）
等

○進め方例：

1．学習する会話の話題に合わせて、学習者とやり取りをし、経験を引き出す。
2．会話に必要な語彙や表現を導入し、運用力を高める。
3．場面や状況に合わせたロールプレイを実施し、講師がフィードバックを行う。

○評価：学期末テスト：60％、平常点：40％

8）作文

○目標：

・既習文型を使って、自分の意図を表現することができる。

・文の構成を意識して、ある程度まとまった文章が書ける。

○教材例：

・『学ぼう！　にほんご　初中級』（専門教育出版）内の『応用練習　書く』を使用する

・『日本語作文Ⅰ』（専門教育出版）　等

○進め方（例）：

1．作文のテーマに関する話題を導入し、学習者の関心を高める。

2．モデル作文を提示し、文章の構成の仕方や必要な表現を確認する。

3．作文のテーマに関して、グループで話し合いを行い、書く内容について考察を深める。

4．作文を書く（授業時間内で時間が足りなくなった場合は、宿題とする）

5．作文発表、意見交換（実習生同士で作文を交換して読み合ったり、クラスで数名に発表させたりして、意見交換を行う。意見交換を行うときは、「作文のよかった点（構成、表現、分かりやすさ等)」や「作文をよりよくするためのアドバイス」を述べるように指導するとよい。）

○評価：毎回の課題

9）自律学習

○目標：自律学習スキルを習得し、目標に向かって学習計画をたて、計画に沿って学習を進め、振り返りができるようになる。

○教材：自律学習支援ノート

○進め方：

1．自律学習支援ノートを用いて、今週の学習を振り返り、学習に対する自己評価を行う。

2．次週の学習目標を立て、学習計画を立てる。

3．自律学習支援ノートは担任講師がチェックし、学習が円滑に進むように適宜フォローを行う。

○評価：特になし

「N4 下位者」向けプログラム

1）総合日本語

○目標：

1 か月目

・相手の質問に対して、（複文・重文を交えて）正しい返答ができる。

2 か月目

・待遇関係を意識したコミュニケーションをはかることができる。
・初級文型を組み合わせて話すことができる。

上記目標に到達するために、2 か月の集中研修では初級後半文法の学習ができる教材を選定し、徹底的な基礎固めを行うことが望ましい。

○教材例：

・『文化初級日本語Ⅱ』（文化外国語専門学校）
・『できる日本語初中級』（アルク）
・『みんなの日本語Ⅱ』（スリーエーネットワーク）　　等

○進め方例：

学習内容を復習するために、毎日宿題を課す。進め方例は、以下の通り。

1．話題導入：学習する文型が使われる場面や状況がよく分かるようなトピックを導入する。
2．語彙導入：トピックに合わせて、語彙を導入する。
3．文型導入：文型の意味、使い方、接続を分かりやすく説明する。
4．ドリル練習：文型が正しく言えることを目指し、ドリル練習を行う。
5．談話練習：コミュニケーションの場面で運用できるように談話練習を行う。

○評価：

宿題提出率：10%、週アチーブ：30%、
学期末テスト：50%、平常点：10%
※平常点は、授業中の取り組み状況などから判断する

2）聴解

○目標：

・日本語教師以外の発話に慣れる。

・必要な情報を得ることができる。

○教材例：

・『楽しく聞こうⅠⅡ』（文化外国語専門学校）

・『みんなの日本語初級Ⅱ　聴解タスク 25』（スリーエーネットワーク）

等

○進め方例：

１．聴解内容に関する話題を導入し、学習者の関心を高める。

２．聴解にあたって必要な語彙を指導する。

３．聞くポイントの確認。何に注意して聞くのかを問題文を読んで確認する。

４.聴解実施（実習生の聞き取り状況を見ながら、複数回聞かせてもよい）

５．答え合わせ

６．聴解内容に関する意見交換を行う。

○評価：学期末テスト：90％、平常点：10％

3）読解

○目標：長文を最後まで読むことに慣れる。

○教材例：

・『楽しく読もうⅠ』（文化外国語専門学校）

・『たのしい読みもの 55　初級＆初中級』　（アルク）

・『みんなの日本語初級Ⅱ　トピック 25』（スリーエーネットワーク）

等

○進め方例：

１．読解内容に関する話題を導入し、学習者の関心を高める。

２．読解にあたって必要な語彙や表現を指導する。

３．読解実施（実習生が個別に黙読し、問題を解く。制限時間を設けるとよい）

４．講師による模範音読

５．答え合わせ

６．読解内容に関する意見交換を行う。

○評価：学期末テスト：90%、平常点：10%

4）文字

○目標：N3 レベルの漢字の読み書きができ、日常生活でよく目にする漢字の意味が理解できるようになる。

○教材例：『漢字マスターN3』（三修社）　等

○進め方例：

1 日当たり 1 ページ（4 文字程度）の学習ペースが望ましい。

1．前日に学習した漢字の小テストを行い、定着状況を確認する。
2．学習する漢字の話題を通して本時の学習漢字を提示する。
3．それぞれの漢字の読み方、語彙、使用例を指導する。
4．必要に応じて例文を提示しながら、補足説明や語彙の拡大（反義語、類義語の紹介）を行う。

○評価：課ごとのテスト：50%、学期末テスト：50%

5）介護の日本語

○目標：実習実施機関で必要となる基礎的な介護のことばを覚え、円滑に業務が行えるようになる。

○教材例：『介護の日本語』

○進め方例：

上記教材例を用いて、1 日当たり 15 個程度のことばを学習する。

1．場面導入：学習する介護のことばが使用される場面を導入し、学習意欲を高める。
2．ことばの意味・発音確認：イラストや写真で理解を促しながら、ことばの意味と発音を確認する。発音は正しく発音できることと正しく聞き取りができるようになることを目指す。
3．例文確認：実際の介護の現場では、学習したことばがどのような発話例で用いられるかを提示し、理解を深める。
4．運用練習：実際の介護の現場を想定し、学習したことばを用いた会話練習を行う。
5．確認テスト：本時の学習内容が理解できているかを小テスト（5 分程度で実施できる問題）で確認する。

○評価：毎時の確認テスト：50%、学期末テスト：50%

6）発音

○目標：実習実施機関において円滑なコミュニケーションがはかれるように、日本語らしい聞きやすく分かりやすい発音で話せるようになる。

「日本語らしい発音」を習得するためには、第一に「高低アクセント」と「拍（モーラ）感覚」の理解が不可欠である。集中研修の初期段階でこの 2 点の練習を繰り返し行い、その後、文単位の発話指導（イントネーション等の指導）を行うことが望ましい。なお、発音練習は、長時間かけて短期間で練習するよりも、短い時間の練習を日々繰り返すことで効果が表れるので、集中研修においては、毎日の研修の最初の時間を発音練習の時間に当て、毎回 10 分程度の時間を使って指導することを推奨する。

○授業内容：

1 か月目：拍、アクセントの練習

2 か月目：シャドーイング

1 か月目：拍、アクセントの練習

◇目標：日本語の高低アクセントと拍の感覚を理解し、聞きやすい発音で話せるようになる。

◇教材例：

・『1 日 10 分の発音練習』（くろしお出版）

・『毎日練習！リズムで身につく日本語の発音』（スリーエーネットワーク）

・『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』（スリーエーネットワーク）　等

◇進め方（例）：

1．音声を聞き取る。

2．聞き取った音声をノートに書きとり、アクセントの上がり下がりを記入する。

3．教師の指導のもと、アクセントの上がり下がりや拍のリズムを確認する。

4．声に出して練習する。

2か月目：シャドーイング

◇目標：

・日常生活で耳にする会話の意味を理解し、プロミネンス（リズム・ポーズ)、イントネーションを習得する。

・聞いたままの音声を口頭で再現できるようになる。

◇教材例：

・『シャドーイング　日本語を話そう　初～中級編』
（くろしお出版）

・『シャドーイングで日本語発音レッスン』
（スリーエーネットワーク）

・『初級文型でできる　にほんご発音アクティビティ』
（アスク出版）　等

◇進め方例：

1回目	①スクリプト配付、意味の把握(1)（内容確認、語彙確認） ②CDを流して練習 ＊練習方法：シンクロ・リーディング(2)、 サイレント・シャドーイング(3)
2・3回目	CDを流して練習 ＊練習方法：スクリプト付シャドーイング(4)、 マンブリング(5)、プロソディー・シャドーイング(6)
4回目	CDを流して練習 ＊練習方法：プロソディー・シャドーイング
5回目	CDを流して練習 ＊練習方法：プロソディー・シャドーイング、コンテンツ・シャドーイング(7)

＜2回目の練習方法＞

クラスを二つにわけ、片方を「A役」、もう片方を「B役」として練習。

→　できたら、役割を反対にして練習する。

①スクリプト付シャドーイング（3回ほど）
②マンブリング（2回ほど）
③プロソディー・シャドーイング（2回ほど）

※回数は目安なので、実習生の様子を見ながら適宜調整するとよい。
※2 回目はある程度のスピードに慣れることを目標とするため、「発音面」はあまり重視しなくてよい。

＜3 回目の練習方法＞
クラスを二つにわけ、片方を「A 役」、もう片方を「B 役」として練習。
→ できたら、役割を反対にして練習する。
①スクリプト付シャドーイング（2 回ほど）
②プロソディー・シャドーイング（4 回ほど）

※回数は目安なので、実習生の様子を見ながら適宜調整するとよい。
※3 回目は「発音面：イントネーション・プロミネンス・ポーズ等」に重きをおいて練習する。

○評価：中間テスト（1 か月目の学習終了時に実施）：50%、期末テスト：50%

【注意点・用語説明】
（1）意味の把握
配付されたスクリプトを見て、会話の場面や内容、言葉の意味を確認する。

（2）シンクロ・リーディング
スクリプトを見ながら音声を聞いて目で追う。この時点では何も話さず、聞くことと文字で確認することに重点を置く。スピードの速い箇所や間があるところ、声が大きくなったり高くなったりするところ、長音や促音など、注意する点を把握し確認しながら聞く。

（3）サイレント・シャドーイング
音声を聞きながら、声には出さずに頭の中だけで復唱する。
（スピードの速い会話や言い慣れない表現などが出てくる会話を練習することに適した練習法）

（4）スクリプト付きシャドーイング
スクリプトを見ながら音声を聞き、すぐ後を復唱する。実際に正しくすらすら話せたか確認しながら行う。ナチュラルスピードで言うことが目的である。口ならしの練習と思って行う。

（5）マンブリング
スクリプトを見ずにブツブツつぶやきながら復唱する。つぶやくように言うため、大きく口を動かす必要がなく、言いにくい文も復唱しやすくなる。

（6）プロソディー・シャドーイング

スクリプトを見ないで音声素材と同じように発音することを目指してシャドーイングをする。

同じスピード、同じイントネーション、声の強弱（プロミネンス）や間（ポーズ）にも徹底的に忠実に練習する。この練習の目標は流暢さなので、会話の内容に意識がいかなくてもよい。

（7）コンテンツ・シャドーイング

スクリプトを見ずに、意味内容を意識しながらシャドーイングをする。

7）会話

○目標：

・身近な場面や話題においてコミュニケーションをはかることができる
・実践的な場面に即した語彙・表現を習得し日常生活に運用できる（病院、駅構内など）

○教材例：

・『日本語会話トレーニング』（アスク出版）
・『日本語集中トレーニング』（アルク）　等

○進め方例：

1．学習内容に関する話題を導入し、学習者の関心を高める。
2．会話に必要な語彙や表現を導入する。
3．場面や状況に合わせた会話を作成し、発表する。会話内容について、講師がフィードバックを行う。

○評価：学期末テスト：60%、平常点：40%

8）作文

○目標：既習文型を使って、段落を意識しながら自分の身の回りのことについて記述できるようになる。

○教材例：

・『みんなの日本語初級　やさしい作文』（スリーエーネットワーク）
・『日本語作文Ⅰ』（専門教育出版）　等

○進め方例：

1．作文のテーマに関する話題を導入し、学習者の関心を高める。

２．モデル作文を提示し、文章の構成の仕方や必要な表現を確認する。
３．作文のテーマに関して、グループで話し合いを行い、書く内容について考察を深める。
４．作文を書く（授業時間内で時間が足りなくなった場合は、宿題とする）
５．作文発表、意見交換（実習生同士で作文を交換して読み合ったり、クラスで数名に発表させたりして、意見交換を行う。意見交換を行うときは、「作文のよかった点（構成、表現、分かりやすさ等)」や「作文をよりよくするためのアドバイス」を述べるように指導するとよい。）

○評価：毎回の課題

９）自律学習

○目標：自律学習スキルを習得し、目標に向かって学習計画をたて、計画に沿って学習を進め、振り返りができるようになる。

○教材：自律学習支援ノート

○進め方：

１．自律学習支援ノートを用いて、今週の学習を振り返り、学習に対する自己評価を行う。
２．次週の学習目標を立て、学習計画を立てる。
３．自律学習支援ノートは担任講師がチェックし、学習が円滑に進むように適宜フォローを行う。

○評価：特になし

（９）研修に関する報告

各実習生の科目別の評価、受講態度、レベルチェックテストの結果などについて担任講師コメントを含め、入国後講習後速やかに作成する。作成された報告書は関係部署に送付する。報告書については、実習生の研修開始時点の状況と対比させたうえで、今後の課題も記載し、今後の日本語学習に活用できるように配慮することが望ましい。

＜報告書サンプル＞

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿御中

年　　月　　日

入国後講習報告書

１．研修の名称　　入国後講習における日本語学習

２．研修の概要

①受 講 者：

（ＩＤ）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（国籍）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（実習生名）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

②研修期間：　　年　月　日（　）～　　月　日（　）

③研修場所：

３．研修の実施結果（クラス評価）

科目別評価

（Ｓ（90％以上）＞Ａ（80～89％）＞Ｂ（70～79％）＞Ｃ（60～69％＞Ｄ（60％未満））

総合日本語	聴解	読解	文字	介護の日本語	発音	会話	作文

４．レベルチェックテスト結果

	筆記試験			口頭試験
	言語知識 (文字・語彙・文法)	読解	聴解	
研修開始時				
研修終了時				

［コメント］	
研修開始時	
研修終了時	
今後の課題	

報告者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

入国後講習の標準的な日本語学習プログラム【N3取得者向け】

		全体目標	科目	総合日本語	聴解	読解	文字	介護の日本語	発音	会話	作文	自律学習
1か月目	ブラッシュアップ期	・実習実施機関での仕事上の日本語でのやり取りに慣れ、自身の考えをまとまりのある単位（複数の文レベル）で発話することができる。 ・特定の職業（病院スタッフ、介護スタッフ）の人とのやりとりがある程度できる。	目標	・中級学習へスムーズに移行するための基礎を固める。 ・初級文型の復習と整理も行い、運用力を伴った定着をはかる。	・ある程度の長さの情報文を聞き、必要な情報を得ることができる。	・まとまった文章を最後まで読み、内容を正しく把握する。	・N2レベルの漢字の読み書きができるようになる。	・実習実施機関で必要となる基礎的な介護のことばを覚え、円滑に業務が行えるようになる。	・日本語の高低アクセントと拍の感覚を理解し、聞きやすい発音で話せるようになる。	・人間関係や場面に対応した表現や、文末表現、効果的な相槌を用いて会話が展開できる。	・既習文型を使って、自分の意図を表現できる。 ・書き言葉（である体）で、意見文が書ける。	・自律学習スキルを習得し、目標に向かって学習計画をたて、計画に沿って学習を進め、振り返りができるようになる。
			教材例	・『学ぼう！　にほんご　中級』 ・『テーマ別　中級から学ぶ日本語』 ・『日本語中級J501』等	・『新毎日の聞き取り50日下』 ・『中級からはじめるニュースの日本語聴解40』等	・『読解をはじめるあなたへ』 ・『初・中級学習者向け日本語教材　日本文化を読む』 ・『日本語を楽しく読む本・初中級』等	・『漢字マスターN2』 等	・『介護の日本語』	・『1日10分の発音練習』 ・『毎日練習！リズムで身につく日本語の発音』 ・『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』等	・『日本語集中トレーニング』 ・『聞いて覚える話し方　日本語生中継・初中級編＜1＞』等	・『学ぼう！　にほんご　中級』内の「応用練習　書く」を使用 ・『日本語中級J501』内の「書いてみよう」を使用 ・『日本語作文Ⅰ』等	自律学習支援ノート

		全体目標	科目	総合日本語	聴解	読解	文字	介護の日本語	発音	会話	作文	自律学習
2か月目	実力養成期	・自身の考えを聞き手にとって分かりやすく、段落の意識をもって発話することができる。 ・日常生活及び基本的な仕事における円滑なコミュニケーション力を身につける。	目標	・より滑らかなコミュニケーション力と表現力をつける。 ・一般的話題について相手を意識した意見が述べられる。	・ある程度の長さの情報文を聞き、必要な情報を得ることができる。	・まとまった文章を最後まで読み、内容を正しく把握する。	・N2漢字の読み書きができる。	・実習実施機関で必要となる基礎的な介護のことばを覚え、円滑に業務が行えるようになる。	・日常生活で耳にする会話の意味を理解し、プロミネンス（リズム・ポーズ）、イントネーションを習得する。 ・聞いたままの音声を口頭で再現できるようになる。	・人間関係や場面に対応した表現や、文末表現、効果的な相槌を用いて会話が展開できる。	・既習文型を使って、自分の意図を表現できる。 ・書き言葉（である体）で、意見文が書ける。	・自律学習スキルを習得し、目標に向かって学習計画をたて、計画に沿って学習を進め、振り返りができるようになる。
			教材例	・『学ぼう！　にほんご　中級』 ・『テーマ別　中級から学ぶ日本語』 ・『日本語中級J501』等	・『新毎日の聞き取り50日下』 ・『中級からはじめるニュースの日本語聴解40』等	・『読解をはじめるあなたへ』 ・『初・中級学習者向け日本語教材　日本文化を読む』 ・『日本語を楽しく読む本・初中級』等	・『漢字マスターN2』 等	・『介護の日本語』	・『シャドーイング　日本語を話そう　初～中級編』 ・『シャドーイングで日本語発音レッスン』 ・『初級文型でできる　にほんご発音アクティビティ』等	・『日本語集中トレーニング』 ・『聞いて覚える話し方　日本語生中継・初中級編＜1＞』等	・『学ぼう！　にほんご　中級』内の「応用練習　書く」を使用 ・『日本語中級J501』内の「書いてみよう」を使用 ・『日本語作文Ⅰ』等	自律学習支援ノート

入国後講習の標準的な日本語学習プログラム【N4上位者向け】

		全体目標	科目	総合日本語	聴解	読解	文字	介護の日本語	発音	会話	作文	自律学習
1か月目	ブラッシュアップ期	・相手の質問に対して、正しく返答できる。 ・待遇関係を意識して話すことができる。	目標	・日常生活をより円滑にするための語彙、表現力を拡大する。 ・「話し言葉」と「書き言葉」の使い分けを知り、適切に使用することの意識付けを行う。 ・中級学習へスムーズに移行するための基礎を固める。 ・テーマについて簡単に意見が述べられるようになる。	・日本語教師以外の発話に慣れる。 ・ある程度の長さの情報文を聞き、必要な情報を得ることができる。	・色々なタイプの文章を読み、中級レベルの読解力の養成のための基礎力をつける。	・N3レベルの漢字の読み書きができ、日常生活でよく目にする漢字の意味が理解できるようになる。	・実習実施機関で必要となる基礎的な介護のことばを覚え、円滑に業務が行えるようになる。	・日本語の高低アクセントと拍の感覚を理解し、聞きやすい発音で話せるようになる。	・人間関係や場面に対応した表現を用いて会話が展開できるようになる。	・既習文型を使って、自分の意図を表現することができる。 ・文の構成を意識して、ある程度まとまった文章が書ける。	・自律学習スキルを習得し、目標に向かって学習計画をたて、計画に沿って学習を進め、振り返りができるようになる。
			教材例	・『学ぼう！　にほんご初中級』 ・『テーマ別　中級までに学ぶ日本語』 ・『中級へ行こう』等	・『新毎日の聞き取り50日上』 ・『中級からはじめるニュースの日本語聴解40』等	・『楽しく読もうⅡ』 ・『日本語を楽しく読む本・初中級』 ・『たのしい読みもの55　初級＆初中級』等	・『漢字マスターN3』等	・『介護の日本語』	・『1日10分の発音練習』 ・『毎日練習！リズムで身につく日本語の発音』 ・『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』等	・『日本語集中トレーニング』 ・『聞いて覚える話し方　日本語生中継・初中級編＜1＞』等	・『学ぼう！　にほんご　初中級』内の『応用練習　書く』を使用 ・『日本語作文Ⅰ』等	自律学習支援ノート

		全体目標	科目	総合日本語	聴解	読解	文字	介護の日本語	発音	会話	作文	自律学習
2か月目	実力養成期	・自身の考えをまとまりのある単位（複数の文レベル）で発話することができる。 ・特定の職業（病院スタッフ、介護スタッフ）の人とのやりとりがある程度できる。	目標	・より滑らかなコミュニケーション力と表現力をつける。 ・一般的話題について相手を意識した意見が述べられるようになる。	・日本語教師以外の発話に慣れる。 ・ある程度の長さの情報文を聞き、必要な情報を得ることができる。	・色々なタイプの文章を読み、中級レベルの読解力の養成のための基礎力をつける。	・N3レベルの漢字の読み書きができ、日常生活でよく目にする漢字の意味が理解できるようになる。	・実習実施機関で必要となる基礎的な介護のことばを覚え、円滑に業務が行えるようになる。	・日常生活で耳にする会話の意味を理解し、プロミネンス（リズム・ポーズ）、イントネーションを習得する。 ・聞いたままの音声を口頭で再現できるようになる。	・人間関係や場面に対応した表現を用いて会話が展開できるようになる。	・既習文型を使って、自分の意図を表現することができる。 ・文の構成を意識して、ある程度まとまった文章が書ける。	・自律学習スキルを習得し、目標に向かって学習計画をたて、計画に沿って学習を進め、振り返りができるようになる。
			教材例	・『学ぼう！　にほんご初中級』 ・『テーマ別　中級までに学ぶ日本語』 ・『中級へ行こう』等	・『新毎日の聞き取り50日上』 ・『中級からはじめるニュースの日本語聴解40』等	・『楽しく読もうⅡ』 ・『日本語を楽しく読む本・初中級』 ・『たのしい読みもの55　初級＆初中級』等	・『漢字マスターN3』等	・『介護の日本語』	・『シャドーイング日本語を話そう　初～中級編』 ・『シャドーイングで日本語発音レッスン』 ・『初級文型でできる　にほんご発音アクティビティ』等	・『日本語集中トレーニング』 ・『聞いて覚える話し方　日本語生中継・初中級編＜1＞』等	・『学ぼう！　にほんご　初中級』内の『応用練習　書く』を使用 ・『日本語作文Ⅰ』等	自律学習支援ノート

入国後講習の標準的な日本語学習プログラム【N4下位者向け】

		全体目標	科目	総合日本語	聴解	読解	文字	介護の日本語	発音	会話	作文	自律学習
1か月目	ブラッシュアップ期	・相手の質問に対して、正しく返答できる。 ・日常生活における基本的なコミュニケーション力を習得する。	目標	・相手の質問に対して、(複文・重文を交えて)正しい返答ができる。	・日本語教師以外の発話に慣れる。 ・必要な情報を得ることができる。	・長文を最後まで読むことに慣れる。	・N3レベルの漢字の読み書きができ、日常生活でよく目にする漢字の意味が理解できるようになる。	・実習実施機関で必要となる基礎的な介護のことばを覚え、円滑に業務が行えるようになる。	・日本語の高低アクセントと拍の感覚を理解し、聞きやすい発音で話せるようになる。	・身近な場面や話題においてコミュニケーションをはかることができる。 ・実践的な場面に即した語彙・表現を習得し日常生活に運用できる(病院、駅構内など)。	・既習文型を使って、段落を意識しながら自分の身の回りのことについて記述できるようになる。	・自律学習スキルを習得し、目標に向かって学習計画をたて、計画に沿って学習を進め、振り返りができるようになる。
			教材例	・『文化初級日本語Ⅱ』 ・『できる日本語初中級』 ・『みんなの日本語Ⅱ』等	・『楽しく聞こうⅠⅡ』 ・『みんなの日本語初級Ⅱ　聴解タスク25』等	・『楽しく読もうⅠ』 ・『たのしい読みもの55　初級＆初中級』 ・『みんなの日本語初級Ⅱ　トピック25』等	・『漢字マスターN3』等	・『介護の日本語』	・『1日10分の発音練習』 ・『毎日練習！リズムで身につく日本語の発音』 ・『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』等	・『日本語会話トレーニング』 ・『日本語集中トレーニング』等	・『みんなの日本語初級　やさしい作文』 ・『日本語作文Ⅰ』等	自律学習支援ノート

		全体目標	科目	総合日本語	聴解	読解	文字	介護の日本語	発音	会話	作文	自律学習
2か月目	実力養成期	・待遇関係を意識して話すことができる。 ・初級日本語の総合的な運用力を高める。	目標	・待遇関係を意識したコミュニケーションをはかることができる。 ・初級文型を組み合わせて話すことができる。	・日本語教師以外の発話に慣れる。 ・必要な情報を得ることができる。	・長文を最後まで読むことに慣れる。	・N3レベルの漢字の読み書きができ、日常生活でよく目にする漢字の意味が理解できるようになる。	・実習実施機関で必要となる基礎的な介護のことばを覚え、円滑に業務が行えるようになる。	・日常生活で耳にする会話の意味を理解し、プロミネンス(リズム・ポーズ)、イントネーションを習得する。 ・聞いたままの音声を口頭で再現できるようになる。	・身近な場面や話題においてコミュニケーションをはかることができる。 ・実践的な場面に即した語彙・表現を習得し日常生活に運用できる(病院、駅構内など)。	・既習文型を使って、段落を意識しながら自分の身の回りのことについて記述できるようになる。	・自律学習スキルを習得し、目標に向かって学習計画をたて、計画に沿って学習を進め、振り返りができるようになる。
			教材例	・『文化初級日本語Ⅱ』 ・『できる日本語初中級』 ・『みんなの日本語Ⅱ』等	・『楽しく聞こうⅠⅡ』 ・『みんなの日本語初級Ⅱ　聴解タスク25』等	・『楽しく読もうⅠ』 ・『たのしい読みもの55　初級＆初中級』 ・『みんなの日本語初級Ⅱ　トピック25』等	・『漢字マスターN3』等	・『介護の日本語』	・『シャドーイング日本語を話そう　初～中級編』 ・『シャドーイングで日本語発音レッスン』 ・『初級文型でできる　にほんご発音アクティビティ』等	・『日本語会話トレーニング』 ・『日本語集中トレーニング』等	・『みんなの日本語初級　やさしい作文』 ・『日本語作文Ⅰ』等	自律学習支援ノート

参考	日本語能力を測定する試験についての情報

日本語能力試験等の日本語試験の概要及び受験手続き等については次の通りである。(記載内容は、すべて 2017 年 1 月時点)。

日本語能力試験（JLPT）

ホームページ	http://www.jlpt.jp/
概要	日本語能力試験（JLPT）は、日本語を母語としない人の日本語能力を測定し、認定する世界最大規模の日本語の試験。 【試験科目と試験時間】 ・言語知識（文字・語彙）：30 分 ・言語知識（文法）・読解：70 分 ・聴解：40 分 【合否の判定】 合格するためには、①総合得点が合格に必要な点（＝合格点）以上であること、②各得点区分の得点が、区分ごとに設けられた合格に必要な点（＝基準点）以上であること、の 2 つが必要である。1 つでも基準点に達していない得点区分がある場合は、総合得点がどんなに高くても、不合格になる。
時期	年 2 回（7 月、12 月）
会場	公益財団法人 日本国際教育支援協会のホームページ（http://info.jees-jlpt.jp/）にて確認できる。
日程	それぞれの試験の約 5 か月前に発表
結果通知	合否結果通知書は毎年 9 月上旬、2 月上旬に発送
受験料	5,500 円
申込手順	【郵送】 ①全国の大きな書店にて受験案内（願書）を購入（願書は、それぞれの試験の約 4 か月前に発売（全国の大きな書店にて購入可能）） ②受験料をゆうちょ銀行か郵便局で支払 ③特定記録郵便にて受験願書を郵送

	【インターネット】 ①日本国際教育支援協会のホームページより、MyJLPT へ登録 ②MyJLPT にログインして受験申込情報を登録 ③受験料をクレジットカードまたは銀行振込（もしくはコンビニ）にて支払い ④発行された申込受付番号を控えておく

別添：成果物 2

入国後の日本語学習補助 Web コンテンツ（仕様書概要）

平成２８年度　生活困窮者就労準備支援事業費等補助金
社会福祉推進事業

介護分野の技能実習生の日本語学習方法及び学習教材等の調査開発事業

入国後の日本語学習補助 Web コンテンツ（仕様書概要）

公益社団法人　国際厚生事業団

Ⅰ．概要

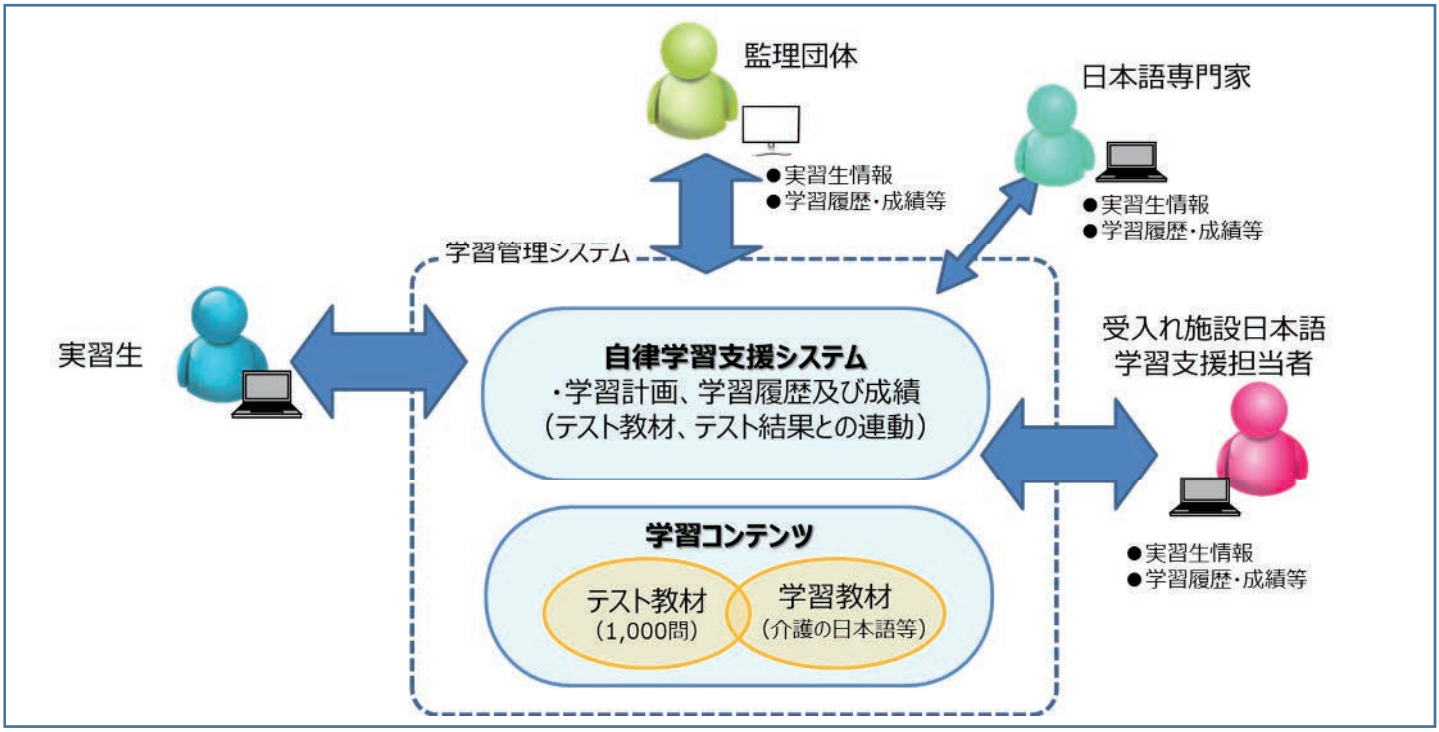
語学学習で高い学習効果を発揮するためには、優れた指導者と学習プログラムが必要であるが、それだけなく、学習者が自ら自律的に学習に取り組むことが不可欠である[1]。

本「日本語学習補助 Web コンテンツ」は、入国した技能実習生を対象とし、入国後 1 年以内の N3 相当の合格を目的とした日本語教育の補助教材であり、以下の内容で構成されている。

1）入国後 1 年以内の N3 程度の取得ができ、介護現場で活用できることばや声かけについて学習すること目的とした「学習コンテンツ」（テスト教材と学習教材が含まれる。）

2）実習生自身が自ら学習を計画・実施し、その進捗及びテスト結果を確認し、必要に応じて計画の修正を行う、という自律学習をサポートする「自律学習支援システム」

実習実施機関の日本語学習支援担当者が、実習生の日本語習得状況を把握するツールとして活用できるものである。実習生が自身で計画を立てて学習するが、Web 上に学習状況や目標設定等が記録されるため、監理団体や実習実施機関の日本語学習支援担当者は、いつでも必要なときに実習生の進捗状況を確認することができる。テストの結果等に応じて、N3 程度の日本語能力資格試験を受験させることを勧めるなど、日本語の習得状況を判断する材料として活用することもできる。



[1]自律学習とは

学習上の障害を実習生自らに認識させ、学習を習慣づけるためには、自律学習が重要である。

自律学習（autonomous learning）とは、「学習者自身が自己の学習に主体的に関わり学習を孤立化せず、教授者や教材や教育機関などといったリソースを利用して行う学習」を言う。（国立国語研究所監修（1998）『日本語教育重要用語 1000』バベル・プレス）

つまり、学習者（＝技能実習生）に、自ら主体的に、学習方法を計画、実施、振り返り、再計画という一連のサイクルを意識させ、繰り返し行わせることであるといえる。

II. 機能等

(1) 利用者（アクセス権者とその権限）

実習生本人のほか、実習実施機関の日本語学習支援担当者、アカウント発行・変更・削除等を行う監理団体、そして日本語教師が利用する。

① 実習生：マイページにアクセスし、テスト教材やその他の学習コンテンツ、自律学習機能を利用することができる。

② 実習実施機関の日本語学習支援担当者：自施設に所属する実習生の、学習進捗状況や学習到達度等を閲覧できる。

③ 日本語教師：入国後 2 か月間の集合研修中に、実習生の本 Web コンテンツの利活用をサポートするため、実習生の各種情報にアクセスすることができる。

④ 監理団体：実習生および実習実施機関の日本語学習支援担当者、日本語教師のアカウントの発行・修正・削除等の管理を行う。実習生管理のため、各種情報にアクセスすることができる。

(2) 問題出題機能

① 問題バンク

入国後日本語学習補助 Web コンテンツ上で出題される問題は、すべてカテゴリおよび難易度が設定され、入国後日本語学習補助 Web コンテンツ上のデータベースに登録されるものとする。これを「問題バンク」という。

問題は日本語能力試験（JLPT）に倣い、すべて 4 択（もしくは 3 択）形式とする。また、問題は、テキストや画像を見て答える形式のものと、音声を聞いて回答するものがある。

② 練習問題（以下「**ドリル**」という）：

日々継続的に学習に取り組む習慣づけを目的とし、簡易に実力をチェックできるクイズ形式のテスト教材。時間制限および受験回数の制限なし。JLPT の「大問」に相当するカテゴリを選択後、1 回につき 5 問が出題される。回答後は正解と正誤が表示される。誤答した問題は、マイページからリンクされる「誤答問題一覧ページ」で確認することができる。

問題は、問題バンクから、難易度が低い（＝易しい）問題から優先的に出題されるようプログラムされ、3 回正解すると「クリア」したものとみなされ、以降出題されなくなる。

なお、読解の長文問題など、ドリルでは出題されないカテゴリがある。

③　カテゴリごとの「**小テスト**」:

学習到達度をチェックするために行うテスト。JLPT の「科目」に相当するカテゴリを選択後、そのカテゴリに応じた問題数が出題され、回答送信後に正解と正答率が表示される。

問題は、カテゴリの中から難易度や、過去に出題ドリルで出題されたかどうか、また正答したかどうかを問わず、ランダムに選ばれ出題される。

④　入国後 2 か月ごとに実施される模擬テスト（以下「**復習テスト**」という）:

入国後 2 か月後から 2 か月ごとに行われる、JLPT と同様のテストで、これを受験することにより、N3 レベルの熟達度を判断することができる。

入国後 2 か月終了後および同 8 か月終了後に行うものは、市販のテストを用いて行う。同 4 か月終了後と同 6 か月終了後に実施されるものは、実習実施機関の日本語学習支援担当者などが、あらかじめ本 Web サイトから PDF 形式の問題、回答用紙と、聴解問題用の音声ファイルをダウンロードし、受験はこれら（PDF ファイルは印刷しておく）を使って行う。

回答結果は、実習実施機関の日本語学習支援担当者などが採点を行い、WEB 上で入力。4 か月終了後と同 6 か月終了後に行うものについては、実習生および実習実施機関の日本語学習支援担当者は、回答結果を踏まえた分野別の解答分析と学習アドバイスを、サイト上で参照することができる。

⑤　その他

1）作問について

問題の作成については、別途提供される作問方針に準拠するものとする。

2）その他のコンテンツ

参考サイトリンク集：他サイトの簡易な説明とそのサイトへのリンク。

(3) 自律学習支援機能

①　マイページ

実習生による自律学習活動のポータルとなるページで、各種目標や計画の立案／確認、学習計画の立案／進捗確認、また各種テスト教材の実績確認などを行うことができる。

②　自律学習支援機能

1）学習目標および計画の立案

実習生は、最終の目標および 2 か月ごとの目標を設定し、それを達成するための 1 週間ごとの計画を立案する。

学習目標は、選択した教材に基づいた定型的な目標と、自らが設定する目標（これを「セルフ目標」という）を立案する。画面上での入力は極力選択式（プルダウンなど）で行えるようにし、テキスト項目は英語等での入力も可能とす

る。

学習計画は、週の始まる前に立案・入力させるようにし、一度設定した計画は変更できない。学習実績（結果）の入力は、日々やっても、まとめてやってもよいように一定期間は上書き可能。

2）問題取り組み状況と結果進捗確認とアドバイス機能：

テキストの取り組み状況は、前項の学習進捗結果の入力情報が、マイページで確認できる。

学習進捗状況（計画と実績、およびその差異)、ドリル、小テスト、復習テストの結果と学習アドバイスなどを進捗確認し、次の学習計画立案のために、学習者自ら自分の得意・不得意分野を把握することができる。

さらにその結果を、日本語教師（入国後講習における日本語学習のみ）や施設日本語学習支援担当者と共有でき、効率的な学習につなげることが可能。※受講者以外の者が「評価」を行うものではない。

問題の取り組み状況については、システム上で行った結果が自動的に表示される。

ドリルについては、受験した問題数、正解数、クリアした問題数がグラフで表示される。

小テストは、カテゴリごとの受験日と、その際の正答率が表示される。

復習テストは、受験日と点数が表示され、さらに詳細（解答分析と学習アドバイス）が表示される。

3）留意点

入国後講習における日本語学習中は、自律学習に慣れ、習慣づけするため、日本語教師とともに作成する。(実施内容の入力、確認方法や振り返り等についても同様)

(4) その他

①メッセージ機能

1）実習生が、目標を設定、計画を作成（入力)、結果を入力するたびに、日本語教師および実習実施機関の日本語学習支援担当者へ、メールを自動配信。(内容は、更新された項目とその確認ページへのリンクのみ。)

2)一定期間入国後日本語学習補助 Web コンテンツ上でアクションがない実習生には、実習生本人および支援者（日本語教師および実習実施機関の日本語学習支援担当者)へ、メールが自動配信される。(内容は、受講者名、最終ログイン日時など)

② ユーザビリティについて

実習生は、PC だけでなく、タブレットやスマートフォンでのアクセスが多いことが予

想されるため、「スマホファースト」かつ「レスポンシブデザイン」で設計、実装する。※PC からのアクセスのみが想定される画面（例えば管理機能画面等）については、特にスマホに最適させる必要はない。

③　コンテンツ形式

入国後日本語学習補助 Web コンテンツおよびそのコンテンツは、原則として SCORM 形式に準拠すること。また、SCORM 形式コンテンツの一括アップロード機能を実装すること。

④　帳票出力機能

監理団体、日本語教師、実習実施機関の日本語学習支援担当者が、自らの配下の実習生を把握するため、自組織配下のアカウントの一覧表として出力できるようにすること。（出力のログを保存できること）

⑤　セキュリティ確保と事業継続性の担保

セキュリティに配慮し、常時 SSL とする。また、万が一の場合にも事業継続性を担保するため、常にバックアップをとり、迅速に復旧できるようにしておくこと。

⑥　ハードウェアおよびインターネット回線要件

本 Web コンテンツを安定かつセキュアに運用するため、アクセスが集中した場合にも耐えうるハードウェアスペックであること、かつ、万が一何らかのトラブルでダウンした場合には迅速に復旧できるよう、常にバックアップを取り、復旧できるような構成とすること。

なお、インターネット回線は、海外からのアクセスも想定したうえで、十分な帯域を確保すること。

以上。

別添：成果物 3

入国前の日本語学習補助 Web コンテンツ（仕様書概要）

平成２８年度　生活困窮者就労準備支援事業費等補助金
社会福祉推進事業

介護分野の技能実習生の日本語学習方法及び学習教材等の調査開発事業

入国前の日本語学習補助 Web コンテンツ（仕様書概要）

公益社団法人　国際厚生事業団

Ⅰ.目的と概要

1. 目的

送り出し国において、すでに N4 を取得している者を対象とする。特に、N4 下位にある者が、N4 上位の能力に達したうえで入国することを目指す。

2. 概要

送り出し国として想定されるアジア各国においては、模擬試験を入手することは困難である現状を鑑みると、PDF 形式であっても、模擬試験問題をネットから入手できることは貴重である。そこで、アジア各国からアクセスできる専用の Web サイトを用意し、模擬試験問題や、その結果に応じた学習アドバイス、学習サイトへのリンク集などを掲載する。

Ⅱ.システム仕様

1. サイト基本仕様

(1)受講者は、PC およびスマートフォン等からアクセスすることを想定し、レスポンシブデザインとする。また、サイトのデザインおよびユーザビリティは、入国後実習生向け Web サイトと統一性があることが望ましい。

(2)特にログイン機能は持たせない。(URL を知っていれば誰でもアクセスできる)

(3) Web コンテンツの操作方法など基本的な使い方等の説明文は、日本語と英語を併記する。

2. サイト上のコンテンツ構成

(1)トップ画面：タイトルと趣旨説明、操作方法およびメニューを表示

(2)メニュー

A) 模擬試験：N4 ベースの模擬試験（1 回分：125 分試験）

※受験したい者は、模擬試験問題をダウンロードし、印刷するなどして受験、自己採点を行う。

①模擬試験（PDF 形式ファイルの問題用紙と回答用紙、聴解問題用の音声ファイル）のダウンロード

②解答（正解）と採点方法

B)模擬試験の成績別学習アドバイス：模擬試験の自己採点結果に応じた学習アドバイス

C)継続学習のための学習サイトのリンク

※上記コンテンツについては、別途支給される。ただし、模擬試験の聴解問題用音声は、スクリプト（読み原稿）のみ支給され、収録および音声ファイル化は受託者が行うものとする。

Ⅲ.サーバ構成および保守管理

(1)本コンテンツ運用のためのサーバは、「入国後の日本語学習補助 Web コンテンツ」を運用するサーバ上に、共存させるものとする。

(2)また、「入国後の日本語学習補助 Web コンテンツ」と同様に、構築・納品後、定められた期間の保守・運用を行うものとする。

以上。

別添：成果物 4

「介護の日本語」テキスト・サンプル

(学習語彙・声かけ表現リスト等)

「介護の日本語」テキスト・サンプル

以下の学習語彙・声かけ表現リストは、「語彙」（137 語）、「介護場面の語彙」（161 語）、「介護の声かけ表現」（134 フレーズ）について、日本語の難易度等から、学習時期を「入国後講習における日本語学習で学習するもの」、「実習実施機関での日本語学習で学習するもの」の２つに分け、さらに学習しやすいようにレッスン毎に分類したものである（入国後講習における日本語学習　全 20 課、実習実施機関での日本語学習　全 13 課）。

Ⅰ．　入国後講習における日本語学習で学習する語彙・声かけ表現（全 20 課分）

1．語彙

1.1　身体の部位

第１課　（１）からだ全体図

1	頭
2	髪の毛
3	首
4	腕
5	肘
6	肩
7	胸
8	背中
9	わき
10	腹
11	へそ
12	腰
13	尻

第２課　（２）頭部部位

1	後頭部
2	前髪
3	顔
4	ひたい
5	目
6	鼻
7	口
8	歯
9	唇
10	あご
11	ほほ
12	まゆ毛
13	まつ毛
14	耳
15	喉

第３課　（３）手の部位

1	手
2	手背
3	手のひら
4	手首
5	指
6	爪
7	親指
8	人差し指
9	中指
10	薬指
11	小指

第４課　（４）足の部位

1	下肢（足）
2	大腿部（腿）
3	膝
4	ふくらはぎ
5	足首
6	くるぶし
7	足の裏
8	つま先
9	かかと

1.2　人体の構造等

第５課　（１）体の中（その１）

1	血管
2	血液
3	骨
7	心臓
8	胃
4	関節
5	筋肉
6	皮膚
7	バイタルサイン

1.3　衣類

第６課-1　（１）衣類①（～を着る・ぬぐ）

1	上着
2	シャツ
3	丸首シャツ
4	パジャマ
5	浴衣
6	下着
7	セーター
8	パンツ（下着(紙パンツ、布パンツ)）
9	パッチ

第 6 課-2　（2）衣類②（～をはく・ぬぐ）

1	靴
2	靴下
3	ズボン
4	スカート
5	上履き
6	スリッパ
7	帽子

第 6 課-3　（3）衣類③（～をする・とる）

1	マフラー（襟巻）
2	手袋
3	ベルト

第 6 課-4　（4）衣類④（その他）

1	ゴム
2	えり
3	紐
4	そで
5	袖口
6	ボタン
7	ファスナー

第 7 課　1.4　移動介助

1	車椅子
2	杖
3	歩行器
4	ストレッチャー
5	移動用リフト
6	スライディングボード
7	スライディングシート

1.5　生活や環境整備

第 8 課　（1）生活や環境整備

1	ごみ箱
2	洗濯機
3	乾燥機
4	ティッシュペーパー
5	洗剤
6	手洗い
7	水道
8	雑巾
9	バケツ
10	湯たんぽ
11	新聞
12	写真

第 9 課　（2）家族等

1	父
2	母
3	夫
4	妻
5	嫁
6	息子
7	娘
8	孫
9	友人
10	兄
11	弟
12	姉
13	妹
14	ひ孫
15	こども
16	むこ

第 10 課　1.6　職場の関係者

1	医師
2	看護師
3	介護福祉士
4	介護職員
5	理学療法士（PT）
6	作業療法士（OT）
7	生活相談員

２．介護場面の語彙

2.1　居室内環境

第 11 課-1　（１）ベッド周り

1	ベッド
2	布団
3	枕
4	毛布
5	シーツ
6	防水シーツ
7	マット
8	さく
9	移動バー
10	床頭台
11	枕元
12	足元

第 11 課-2　（2）その他

1	カーテン
2	窓
3	網戸
4	戸
5	オーバーテーブル
6	タンス
7	テレビ
8	ラジオ
9	電話
10	携帯電話
11	ソファ
12	電気

2.2　入浴・清拭

第 12 課－1　（1）入浴・清拭（その１）

1	脱衣室
2	バスタオル
3	ドライヤー
4	バスマット
5	浴室
6	タオル
7	鏡
8	シャワー
9	せっけん
10	シャワーハット
11	風呂（浴そう）
12	シャワーチェア
13	洗面器
14	シャンプー
15	リンス

第 12 課－2　（2）入浴・清拭（その 2）

1	ドライヤー
2	化粧水
3	クリーム
4	化粧
5	爪切り
6	歯磨き
7	歯ブラシ
8	歯磨き粉
9	耳掃除
10	櫛
11	ブラシ
12	ひげそり
13	シェーバー

2.3　食堂・食事

第 13 課　（1）食堂・食事（その 1）

1	テーブル
2	椅子
3	食器
4	茶わん
5	すいのみ（楽のみ）
6	お椀
7	コップ
8	湯飲み（茶わん）
9	皿
10	箸
11	箸置き
12	スプーン
13	フォーク
14	食事自助具

第 14 課　（2）食堂・食事（その 2）

1	エプロン
2	おしぼりタオル
3	布巾
4	やかん
5	湯沸かし器
6	炊飯器
7	しゃもじ
8	鍋
9	配膳車
10	調味料
11	主食
12	汁物
13	主菜
14	副菜（副食）
15	果物
16	食札

３．介護の声かけ表現

第 15 課　3.1　あいさつ

1	おはようございます。
2	こんにちは。
3	こんばんは。
4	さようなら。
5	また会いましょう。
6	おじゃまします。
7	失礼します。
8	ありがとうございます。
9	お疲れ様です。
10	お先に失礼します。
11	よろしくお願いします。

第 16 課　3.2　声かけ

1	よろしいですか。
2	今よろしいですか。
3	気分は悪くありませんか。
4	失礼します。
5	これから〇〇をしますがよろしいですか。
6	何か御用があったら声をかけてください。
7	準備しますね。
8	お待ちください。
9	終わりました。
10	お願いします。
11	申し訳ありません。

第 17 課　3.3　生活環境整備

1	窓を開けてよろしいですか。
2	窓を閉めてよろしいですか。
3	掃除をしてよろしいですか。
4	掃除が終わりました。
5	ベッドを上げてよろしいですか。
6	ベッドを下げてよろしいですか。
7	ゴミを捨ててよろしいですか。
8	ドアを開けますね。
9	ドアを閉めますね。
10	食堂に行きましょう。
11	テーブルを拭きます。
12	ゴミを拾う。
13	ゴミを捨てる。

第 18 課-1　3.4　シフト起床・就寝

1	今日の担当です、よろしくお願いします。
2	おはようございます、朝です、起きましょう。
3	よく眠れましたか。
4	おやすみなさい。
5	カーテンを閉めますね。
6	カーテンを開けますね。

第 18 課-2　3.5　衣類着脱

1	着替えをしましょう。
2	着心地は悪くありませんか。
3	袖を通していただけますか。

第 19 課　3.6　食事介助

1	好きなものはありますか。
2	嫌いなものはありますか。
3	お茶から飲んでみましょう。
4	熱くないですか。
5	何から食べますか。
6	細かくしますか。
7	よくかみましょう。
8	おいしいですか。
9	美味しく食べられましたか。
10	終わりにしますか。
11	ごちそうさまでした。
12	飲み込めますか。

第 20 課　3.7　入浴・清拭

1	お湯の温度はちょうど良いですか。
2	熱くありませんか。
3	冷たくありませんか。
4	身体を洗いますね。
5	髪を洗いますね。
6	耳を押さえてください。
7	寒くありませんか。
8	暑くありませんか。
9	痛くありませんか。
10	力加減は良いですか。
11	ご自分で洗えますか。
12	ご自分で拭きますか。
13	かゆくありませんか。
14	すっきりしましたか。
15	髪をとかしますね。
16	髭をそりますね。

Ⅱ．実習実施機関での日本語学習で学習する語彙・声かけ表現（全 13 課分）

１．語彙

第 1 課　体の中

1	脳
2	気管
3	気管支
4	食道
5	肺
6	内臓
7	肝臓
8	腎臓
9	大腸
10	小腸
11	十二指腸
12	直腸
13	膀胱
14	肛門

２．介護場面の語彙

第 2 課　2.1　身体介助・体位交換

1	身体の向き
2	あおむけ
3	うつぶせ
4	横向き
5	姿勢
6	褥瘡
7	吐く
8	吐き気
9	排尿困難
10	熱
11	咳
12	痰
13	痛い（痛み）
14	かゆい（かゆみ）
15	血
16	脈拍
17	呼吸

第 3 課　2.2　報告・連絡・相談

1	引き継ぎ
2	報告する
3	連絡する
4	相談する
5	確認する
6	指導する
7	助言する
8	申し送り
9	記録する
10	発表する
11	伝達（伝える）
12	入力する

第4課　2.3　シフト

1	シフト
2	日勤
3	夜勤
4	遅番
5	早番
6	有給休暇
7	公休
8	遅刻
9	早退
10	欠勤
11	病欠
12	電話連絡

第5課　2.5　排泄

1	便
2	尿
3	便器（便座）
4	便所
5	手すり
6	トイレットペーパー
7	おむつ交換車
8	汚物入れ
9	シャワーボトル
10	清拭用タオル
11	おむつ（アウター）
12	パッド
13	紙おむつ
14	尿器
15	お尻拭き
16	ポータブルトイレ
17	下痢
18	便秘
19	失禁

第6課　2.5　レクリエーションルーム

1	テレビ
2	ラジオ
3	カラオケ
4	ビデオ
5	トランプ
6	百人一首
7	オセロ
8	麻雀
9	習字

第7課　2.6　スタッフルーム

1	ボード
2	記録ファイル（カルテ）
3	棚
4	鍵
5	貴重品
6	重要書類
7	名札（ネームプレート）
8	緊急連絡先
9	AED
10	ナースコール

３．介護の声かけ表現

第 8 課　3.1　報告・連絡・相談

1	電話連絡をする。
2	緊急連絡をする。
3	気分が悪いと言っています。
4	誰か呼んできてと言っています。
5	電話に出る。
6	電話を切る。
7	ナースコールに出る。
8	ナースコールが鳴っている。
9	叫んでいる。
10	騒いでいる。
11	泣いている。
12	痛がっている。
13	かゆがっている。
14	苦しんでいる。
15	今行きます。

第 9 課　3.2　シフト起床・就寝

1	何かあればコールを押してください。
2	掛物をかけますか。
3	掛物を取りますね。
4	ベッドに行きましょう。
5	お部屋に戻りませんか。

第 10 課　3.3　衣類着脱

1	着替えはこれでよろしいですか。
2	今日は何を着ますか。
3	この色でよろしいですか。
4	きついところはありませんか。
5	痛いところはありませんか。
6	ボタンはご自分でできますか。

第 11 課　3.4　排泄

1	トイレに行きましょう。
2	ズボンを下ろしますね。
3	ズボンを上げますね。
4	下着を下ろしますね。
5	おむつをかえますね。
6	尿は出ましたか。
7	便は出ましたか。
8	ポータブルトイレを準備しますね。
9	ご自分で拭けますか。
10	手を洗いましょう。
11	すっきりしましたか。

第 12 課　3.5　身体介助・体位交換

1	○○を向きますね。
2	枕を動かしますね。
3	身体の向きを変えますね。
4	上体を上げますね。
5	上体を戻しますね。
6	膝は曲がりますか。
7	膝を曲げますね。
8	膝は伸びますか。
9	手を組めますか。
10	力は入りますか。

第 13 課　3.6　移動介助

1	ベッドの端に座りましょう。
2	手をついてください。
3	ここをつかんでください。
4	立ち上がりましょう。
5	足を開いてください。
6	こちらの足を後ろに引いてください。
7	こちらの足を前に出してください。
8	椅子に座りますね。
9	車椅子を持ってきます。
10	身体を後ろに引きますね。
11	足を上げてください。
12	足を下げてください。
13	自分でこげますか。
14	ブレーキを掛けますね。
15	杖を持ってください。

1.5　生活や環境整備

（1）生活や環境整備

第8課（1）

① ごみ箱

② 洗濯機

③ 乾燥機

④ ティッシュペーパー

⑤ 洗剤

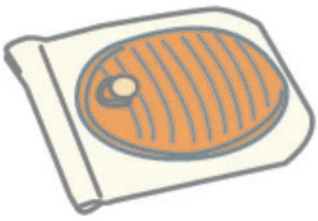
⑥ 手洗い

⑦ 水道

⑧ 雑巾

⑨ バケツ

⑩ 湯たんぽ



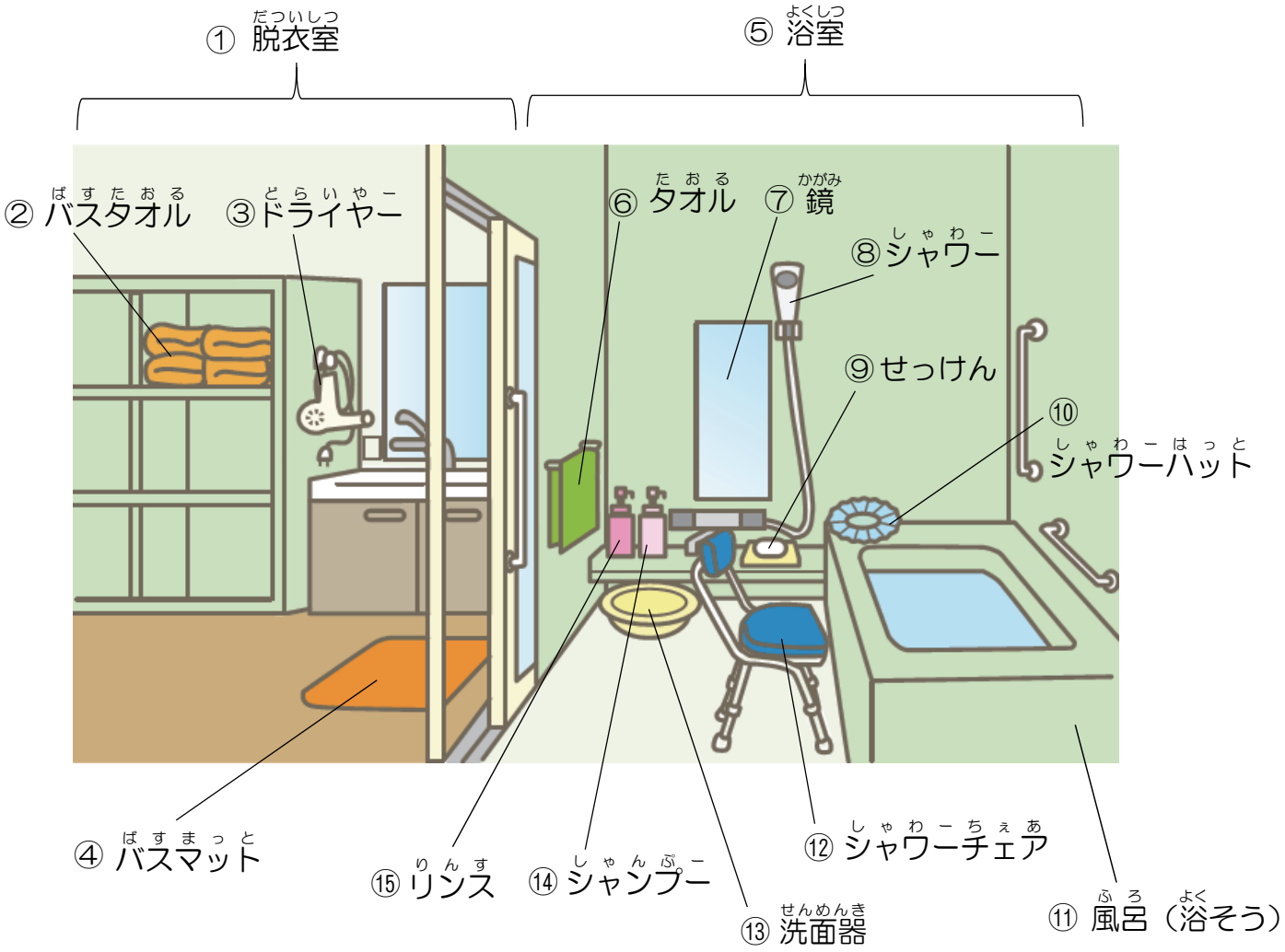
⑪ 新聞

⑫ 写真

あなたの国のことばで意味を書きましょう。

	日本語	（　　）語
1	ごみ箱	
2	洗濯機	
3	乾燥機	
4	ティッシュペーパー	
5	洗剤	
6	手洗い	
7	水道	
8	雑巾	
9	バケツ	
10	湯たんぽ	
11	新聞	
12	写真	

2．2　入浴・清拭　　第１２課（１）



あなたの国のことばで意味を書きましょう。

	日本語	（　　）語
1	脱衣室	
2	バスタオル	
3	ドライヤー	
4	バスマット	
5	浴室	
6	タオル	
7	鏡	
8	シャワー	
9	せっけん	
10	シャワーハット	
11	風呂（浴そう）	
12	シャワーチェア	
13	洗面器	
14	シャンプー	
15	リンス	

3．介護の声かけ表現

3.1　あいさつ　　第 15 課

1. おはようございます。
2. こんにちは。
3. こんばんは。
4. さようなら。
5. またあいましょう。
6. おじゃまします。
7. 失礼します。
8. ありがとうございます。
9. お先に失礼します。
10. お疲れ様です。
11. よろしくお願いします。

介護職員：山田、鈴木　　利用者：佐藤、松本

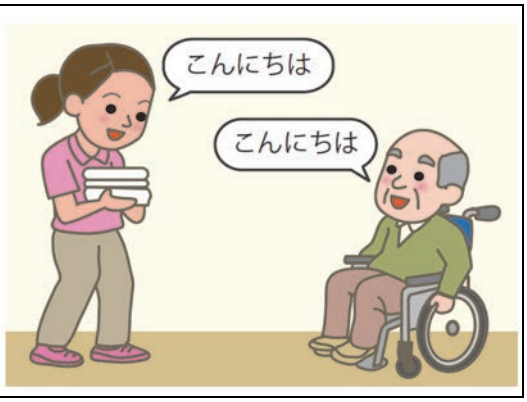
① 利用者さんに会ったとき

山田職員：おはようございます。

佐藤：おはようございます。

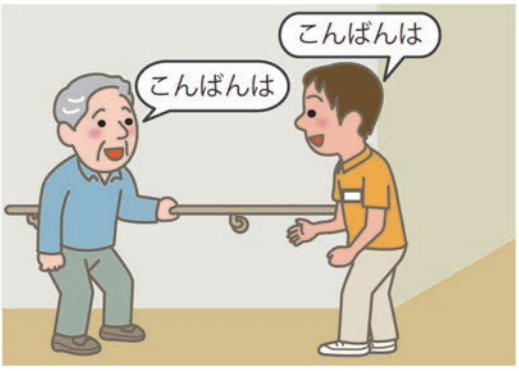
鈴木職員：こんにちは。

松本：こんにちは。



山田職員：こんばんは。

佐藤：こんばんは。



② 利用者さんと別れるとき

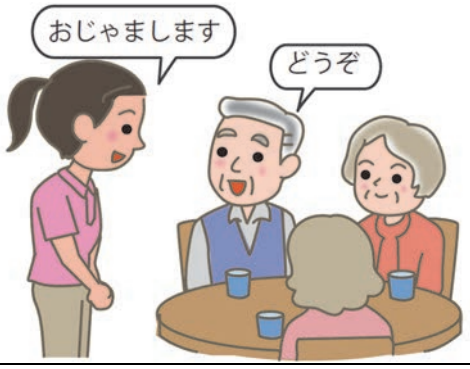
鈴木職員：さようなら。

松本：またあいましょう。

③　利用者さんの話に入るとき

山田職員：おじゃまします。

佐藤：どうぞ。



④　利用者さんの部屋に入るとき

鈴木職員：失礼します。

松本：どうぞ。

⑤　お礼を言う

山田職員：ありがとうございます。

佐藤：ありがとうございます。

⑥　仕事が終わって帰るとき

鈴木職員：お先に失礼します。

山田職員：お疲れ様です。

⑦　自分を紹介するとき

あなた：〇〇です。よろしくお願いします。

（「〇〇」に自分の名前を入れましょう。）

3．介護の声かけ表現

3.1　衣類着脱　　第18課（2）
第10課

1．今日は何を着ますか。

2．この色でよろしいですか。

3．着替えをしましょう。

4．着替えはこれでよろしいですか。

5．袖を通していただけますか。

6．ボタンはご自分でできますか。

7．着心地は悪くありませんか。

8．きついところはありませんか。

9．痛いところはありませんか。

介護職員：山田　　利用者：佐藤

山田職員：今日は何を着ますか。この色でよろしいですか。

佐藤：はい。

山田職員：着替えをしましょう。着替えはこれでよろしいですか。

佐藤：はい。

山田職員：袖を通していただけますか。

佐藤：はい。

山田職員：ボタンはご自分でできますか。

佐藤：はい。

山田職員：着心地は悪くありませんか。

きついところ、痛いところはありませんか。

佐藤：大丈夫です。

3．介護の声かけ表現

3.6　食事介助　　第 19 課（1）

1．好きなものはありますか。

2．嫌いなものはありますか。

3．お茶からのんでみましょう。

4．熱くないですか。

5．何から食べますか。

6．細かくしますか。

7．よくかみましょう。

8．おいしいですか。

9．美味しく食べられましたか。

10．終わりにしますか。

11．ごちそうさまでした。

12．飲み込めますか。

介護職員：鈴木　　利用者：松本

鈴木職員：　好きなものはありますか。嫌いなものはありますか。

松本：ありません。

鈴木職員：　お茶からのんでみましょう。

松本：はい。

鈴木職員：　熱くないですか

松本：はい。

鈴木職員：　何から食べますか。

松本：魚がいいわ。

鈴木職員：　細かくしますか。

松本：お願いします。

鈴木職員：　（魚をほぐす。松本さんの口に入れる。）

鈴木職員：よくかみましょう。おいしいですか

松本：おいしいよ。

（食べ終わった後で）

鈴木職員：美味しく食べられましたか。終わりにしますか。

松本：ごちそうさまでした。

「介護分野の技能実習生の日本語学習方法及び学習教材等の調査開発事業」
報告書

（平成 28 年度　生活困窮者就労準備支援事業費等補助金　社会福祉推進事業）

平成 29 年（2017）3 月　発行

公益社団法人　国際厚生事業団
〒105-0001　東京都港区虎ノ門 2-3-20　虎ノ門 YHK ビル 4F
TEL 03-6206-1138 FAX 03-6206-1165